愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第206集

多り畑遺跡

2016

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第206集

多り畑遺跡（たりばたいせき）

2016

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

愛知県豊橋市石巻地区は豊橋市の北部に該当し、東に弓張山系、豊川周辺から西は平野部が展開する自然環境に恵まれた地域とされています。

今日、弓張山系の主要部分は愛知県により石巻山多米県立自然公園に指定されています。その中でも独特なシルエットを有する石巻山は、古来より信仰の山として知られ、現在でも地域のシンボル的な存在となっています。また、石巻山の周辺は次郎柿の日本有数の生産地で、毎年秋になると見事な実をつけた柿の木が林立する珍しい風景が展開し、この地を訪れる人々に感動すら覚えさせます。

愛知県埋蔵文化財センターでは、平成20～22年度に東三河環状線建設事業に伴う多り畑遺跡の発掘調査を、愛知県の委託事業として実施致しました。その結果、先人の生活・文化に関するいくつかの貴重な知見を得ることができました。調査成果の整理作業も一段落しましたので、このたび報告書として刊行するにいたりました。本書が歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財に関するご理解を深める一助となれば幸いに存じます。

なお、発掘調査の実施に当たりましては、地元住民の方々を始め関係諸機関及び関係者の皆様方から多大なご指導とご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

平成28年3月

公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長　伊藤　克博

例　言

1．本書は愛知県豊橋市石巻本町字東屋敷に所在する多り畑遺跡（遺跡番号は 790326）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は愛知県道路建設課による道路改良工事（主）東三河環状線建設事業に先立つもので、愛知県教育委員会を通じて委託を受けた愛知県埋蔵文化財センターが実施した。

3．平成 21 年の 5 月に範囲確認調査、10 月～ 2 月に面積 1,440㎡の本調査を実施した。担当者は、範囲確認調査が松田 譴（本センター調査研究専門員）・早野浩二（本センター調査研究員）、本調査が池本正明（本センター調査研究専門員、現統括専門員）・本田英貴（本センター調査研究員、現愛知県立豊丘高校教諭）である。なお、本調査は株式会社イビソク（代理人は高橋育雄・調査補助員は近藤真人・測量技師は多田和幸）の協力を得た。

4．調査に際しては、愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室・愛知県埋蔵文化財調査センター・愛知県建設部・豊橋市教育委員会を初めとし、多くの機関から指導・協力を受けた。

5．調査区の座標は､国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。表記は世界測地系を用いている。なお、海抜標高は T．P．（東京湾平均海面標高）による。

6．遺構は以下の分類記号を用い、原則として調査時の表記をそのまま使用している。
SI: 竪穴建物、SB: 掘建柱建物、SK: 土坑、SD: 溝、SX: その他の遺構

7．本書の編集には、以下の方々にご教示・ご協力を得た。（五十音順・敬称略）
青木 修・天野鴨保・岩原 剛・内田智久・遠部 慎・熊谷博志・城ヶ谷和広・田中城久・中野晴久・贄 元洋・藤澤良祐・村上 昇・森まどか・矢野健一・山本智子

8．本書の執筆・編集は池本正明が担当したが、第 4 章は株式会社パレオ・ラボ（AMS 年代測定グループ）、付論は村上 昇（豊橋市教育委員会）が執筆した。

9．整理作業は、池本正明が阿部裕恵・滝 智美・時田典子・山田有美子（本センター整理補助員）の協力を得て実施した。ただし、遺物実測とトレース作業、挿図作製の一部を株式会社文化財サービス、株式会社シン、有限会社アルケーリサーチに、出土遺物の写真撮影は写真工房 遊に、化学分析を株式会社パレオ・ラボに、デジタル編集は有限会社アルケーリサーチに作業委託した。

10．調査に関する実測図・写真などの資料は本センターが、出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターが保管している。なお、遺物は本書に記載された番号を登録番号とした。

目　次

第１章　はじめに……1
　１　経緯と経過……1
　２　環境と周辺の遺跡……1

第２章　遺　構……7

第３章　遺　物……24
　１　概　要……24
　２　縄文時代の遺物……24
　３　弥生時代以降の遺物……35

第４章　科学分析　放射性炭素年代測定……40
　１　はじめに……40
　２　試料と方法……40
　３　結　果……40
　４　考　察……41

第５章　考察と総括……43
　１　主要遺構の変遷……43
　２　多り畑遺跡の押型文土器……47
　３　総　括……56

付　論　多り畑遺跡出土の押型文土器の検討……57

挿図目次

図 1　周辺の遺跡（明治 24 年）　1:25,000… 4
図 2　周辺の遺跡　1:25,000 …… 5
図 3　周辺の遺跡　1:1,500 …… 6
図 4　調査区壁面図　1:80 …… 9
図 5　190SI　1:50 …… 10
図 6　219SI　1:50 …… 12
図 7　234SI　1:50 …… 13
図 8　357SI　1:50 …… 15
図 9　568SB　1:50 …… 16
図 10　569SB　1:50 …… 17
図 11　078ST　1:50 …… 19
図 12　土坑　1:50 …… 21
図 13　221SX・222SX　1:50 …… 22
図 14　溝　1:200・1:50 …… 23
図 15　出土遺物 1　1:2 …… 25
図 16　出土遺物 2　1:2 …… 26
図 17　出土遺物 3　1:2 …… 27
図 18　出土遺物 4　1:2 …… 28
図 19　出土遺物 5　1:2 …… 29
図 20　出土遺物 6　1:2 …… 30
図 21　出土遺物 7　1:2 …… 31
図 22　出土遺物 8　1:2 …… 32
図 23　出土遺物 9　1:2 …… 33
図 24　出土遺物 10　1:2 …… 34
図 25　出土遺物 11　1:4 …… 37
図 26　出土遺物 12　1:4 …… 38
図 27　出土遺物 13　1:4 …… 39
図 28　暦年較正結果 …… 42
図 29　主要遺構の変遷　1:1,000 …… 44
図 30　219SI 出土礫集計図 …… 45
図 31　001SK 出土礫集計図 …… 45
図 32　220SK 出土礫集計図 …… 45
図 33　周辺の地籍図　1:2,000 …… 46
図 34　押型文土器の分布 …… 48
図 35　長径比 …… 50
図 36　短径比 …… 50
図 37　長・短径比 …… 50
図 38　柵状文断面図　1:4・1:1 …… 51
図 39　器壁 …… 54
図 40　調査区の現状 …… 56

表目次

表 1　調査進行表 …… 1
表 2　測定試料および処理 …… 40
表 3　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 …… 41
表 4　押型文土器観察表 …… 52

図版目次

図版 1　1:100
図版 2　1:100
図版 3　1:100
図版 4　1:100
図版 5　1:100
図版 6　1:100
図版 7　1:100
図版 8　1:100
図版 9　1:100
図版 10　1:100
図版 11　1:100
図版 12　1:100
図版 13　1:100
図版 14　1:100
図版 15　1:100
図版 16　1:100

写真図版目次

写真図版１　遺跡遠景
写真図版２　調査区全景
写真図版３　竪穴建物など
写真図版４　土坑など
写真図版５　土坑・出土状況など
写真図版６　出土遺物１
写真図版７　出土遺物２
写真図版８　出土遺物３
写真図版９　出土遺物４
写真図版10　出土遺物５
写真図版11　出土遺物６
写真図版12　出土遺物７
写真図版13　出土遺物８
写真図版14　出土遺物９
写真図版15　出土遺物10
写真図版16　出土遺物11

巻　頭

遺跡位置図　1:200,000

添付ＣＤ－ＲＯＭ

遺物計測一覧
遺構計測一覧

付論目次

１　はじめに…… 57
２　愛知県における押型文土器の概要…… 57
３　多り畑遺跡の押型文土器の分類と編年上の位置付け…… 58

付論挿図目次

第１図　早期前半の資料　1:1・1:3 ……63
第２図　荻平遺跡出土資料 1:3 ……64
第３図　黄島式終末段階並行～
　　高山寺式期の資料　1:3 ……65
第４図　外面に楕円文を施す資料　1:3 ……66

多り畑遺跡
三河高原
東加茂郡
北設楽
南設楽郡
額田郡
新城市
宝飯郡
豊川市
豊橋市
蒲郡市
引佐郡
浜名郡
湖西市

第１章　はじめに

１　経緯と経過

愛知県建設部道路建設課では、渋滞緩和を目的に県道東三河環状線の道路改良工事を計画した。ところがこの計画区域内には、周知の遺跡である多り畑遺跡が所在していた。このため、愛知県建設部と愛知県教育委員会とが対応を協議し、遺跡を発掘調査して記録として保存することが決定した。発掘調査は愛知県教育委員会を通して委託を受けた公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターが実施した。

調査は平成 21 年度に実施した。５月に多り畑遺跡と辻川遺跡・辻川１号墳を対象とした試掘調査を実施し、記録保存が必要と判断された多り畑遺跡の本調査を 10 月～２月に実施した。調査面積は 1,440 ㎡である。調査工程は表１にまとめた。調査の手順は、除草後に地表面から表土のみをバック・ホウにより除去したのち、建設省告示によって定められた平面直角座標第Ⅶ系（世界測地系）に準拠した５ｍグリッドを設定し、手掘りで遺構を検出する方法をとった。なお、調査途中の 12 月 26 日には地元説明会を開催し、160 名の参加を得た。

２　環境と周辺の遺跡

愛知県豊橋市は東側が弓張山地、南側が三河湾となる。弓張山地の裾野は豊川の段丘地形となり、豊橋上位面（中位段丘面）と豊橋面（下位段丘面）に区分されている。多り畑遺跡は弓張山地の末端部に位置する石巻山の裾野に所在し、豊川の支流となる神田川と三輪川に南北を開析された豊橋上位面の端部に立地する。調査区の標高は 28.5 ｍとなる。

周辺の地質を概観すると、豊川にほぼ沿う様に中央構造線が位置する。これより東側は外帯と呼ばれ、弓張山地や浜名湖北部ではチャート・頁岩・砂岩・石灰岩などにより構成されている。特徴的となる石灰岩は、豊橋市では嵩山町・牛川町に多く分布している。石巻山の山頂（358m）付近では石灰岩の露頭も点在しており、石灰岩地を好む植生が特徴的となるため、昭和 27（1952）年に「石巻山石灰岩地植物群落」の名称で国指定天然記念物に指定されている。

今回発掘調査を実施した地点は、北緯 34 度 47 分 43 秒、東経 137 度 26 分 19 秒。地籍では豊橋市石巻本町字札辻である。豊橋市合併以前は八名郡石巻村だが、明治時代以降に複雑な合併を繰り返している。遺跡周辺のランドマークは北 1.0㎞に豊橋市立中学校、南 1.0㎞に豊橋市立石巻小学校、北東 0.5 ㎞には豊橋市立石巻運動広場が所在する。

表１　調査進行表

５月	試掘調査
9/30	表土ハギ　開始
10/13	包含層掘削・上面遺構検出開始
11/17	完全パトロール
11/25	上面遺構掘り開始
12/22	上面遺構空撮
12/26	地元説明会（160 名参加）
12/28	上面遺構補足調査
1/19	中間層掘削・下面遺構検出
2/2	下面遺構掘削
2/11	下面遺構空撮
2/11	下面遺構補足調査・埋め戻し開始
2/25	埋め戻し完了・資材撤去

次に歴史的環境を概観する。

縄文時代以前は断片的となるが、波の上遺跡（早期）では竪穴建物、眼鏡橋下池北遺跡（早期）では竪穴建物・煙道付炉穴がまとまって検出されている。この他に東屋敷遺跡（草創期頃）・大清水遺跡（早期）・おいほて遺跡・玉川変電所遺跡（中期・晩期）・向野遺跡（後期）・白石遺跡（晩期）で遺物が採集されているが、調査区近隣でも白山Ⅰ・Ⅱ遺跡（晩期）が知られている。

弥生時代に入ると遺跡数は増大する。白石遺跡は遠賀川系土器が主体となる集落で、環濠と推定される溝が確認されている。高井遺跡は中期後葉から後期の大規模な集落遺跡で、実体は近接する庄司ケ下遺跡、西砂原遺跡も含めたかなり広範囲に及ぶ遺跡とも言われている。この他、東屋敷遺跡では後期の、西浦遺跡では中期～後期の竪穴建物・土器棺墓などが報告されている。

古墳時代に入ると、西浦遺跡では前期～中期の竪穴建物で構成される居住域が検出されている他、各地で須恵器・土師器などが得られており、遺跡数の増加が窺える。調査区近隣では東屋敷遺跡・西屋敷Ⅰ遺跡・青木Ⅰ遺跡などで後期～終末期の竪穴建物・土坑などが検出され、白山Ⅰ遺跡・白山Ⅱ遺跡・青木Ⅱ遺跡・一ツ木遺跡などでも当該期の土師器・須恵器が出土している。

古墳に目を移すと、権現山古墳が２基で構成される前期の前方後円墳で、昭和 48（1973）年に県指定の史跡とされている。後期～終末期になると、嵩山町の奈木古墳群・荒木古墳群・桂土古墳群、石巻本町の瀬戸古墳群、石巻町の大亀古墳群、牛川町の乗小路古墳群、多米町のキジ山古墳群・野中古墳群などでいわゆる密集型群集墳が確認できるが、石巻山周辺ではこうした様相は知られていない。逆に古墳の希薄な場所として注目されている。なお、調査区周辺では辻川１号墳（円墳・径 7m）が周知となるが、現状では位置不明となっている。

奈良・平安時代に入ると、野添遺跡で竪穴建物が検出されている他、各地で須恵器・灰釉陶器などが採集されており遺跡数の増加が想定できる。調査区近隣でも同様で、白山Ⅱ遺跡では大型廃棄土坑が報告されている。

また、この時期以降には丘陵部に山寺が散見できる様になる。具体的には普門寺址・山脇廃寺・赤岩寺や、図１・２の東側枠外となるが正宗寺旧境内・普門寺旧伽藍址などを数える事ができる。なお、鎌倉時代まで年代が下がるが、赤岩寺には木造愛染明王坐像が現存している（昭和３（1928）年に重要文化財指定）。

石巻山は今日でも信仰の対象とされている。石巻神社は『延喜式』神名帳にも記載され、山麓に里宮社、山腹に山上社が鎮座している。室町時代の『石巻宮織女帳』は、応仁２（1468）年～永禄５（1562）年までの石巻神社の祭礼担当村が記されたもので、周辺の８か村が交替で石巻神社の祭礼に奉仕した状況が記録されている。

ところで、遺跡の周辺は『和名抄類聚抄』の記載では八名郡となる。八名郡は多米・美和・養父・和太・服部・美夫の七郷で構成されている。このうちの美和郷が神郷・金田・神ヶ谷に比定されているが、律令体制の斜陽化に伴いこの地域にも伊勢神宮領が発達する様で、『神鳳鈔』には「神谷御厨」（「内宮十石。別進十石。外宮十石。菓子雑用二十石」）の名も見える。

中・近世に入ると、さらに広範囲に当該期の遺構・遺物が確認できる。具体的には西浦遺跡から鎌倉時代～江戸時代の居住域、東屋敷遺跡や神ヶ谷遺跡からは戦国時代～江戸時代の居住域、東下地遺跡では中世前期の土坑墓群が知られている。調査区近隣では 15 世紀に埋没する溝（SD-1）が確認された白山Ⅰ・Ⅱ遺跡がある。この他に西屋敷Ⅰ遺跡・青木Ⅱ遺跡などで当該期の遺構・遺物が知られている。

この他に城館の存在も注目できる。図１・２には代表的な城館を記すが、ほとんどが戦国期以降に築かれたものとされている。『二葉松』には八名郡に 12 の城跡を記すが、石巻山城跡を「神郷村石巻山半

山腹古城」、市場城を「嵩山村古城」と記載し、前者は「城主不知」、後者は「西郷孫四郎奥山修理進中山是非之助西郷家之別」としている。この他には和田城址・高井城址なども『二葉松』に記載されている。この他、調査区近隣の馬場遺跡では土塁が観察できる。

ところで、多り畑遺跡の発掘調査は、今回で二度目となる。１次調査は、昭和 60（1985）年に石巻神郷地区のほ場整備に伴って調査されている（贄他　1986）。調査地点は今回の調査区よりやや東に位置する A 地点（60㎡）・B 地点（195㎡）と呼称される二か所である（図 3）。A 地点は谷地形が検出され、縄文後期前葉の土器がまとまって出土している。一方、B 地点では出土遺物がほぼ 6 世紀後半～ 7 世紀前半に限られる状況となる。竪穴建物が 2 棟検出され、このうち 1 棟（SB-2）からは 7 世紀前半の出土遺物が得られている。

なお、石巻神郷地区のほ場整備に伴い調査された 7 遺跡は、いずれも石巻山の北側山麓に近接して分布する。報告書ではこれら遺跡に有機的な関連性を想定して「神郷遺跡群」の名を使用している（図 3）。図 1・2 に示す破線が「神郷遺跡群」の大まかな範囲を示すが、具体的には多り畑遺跡・白山 I 遺跡・白山 II 遺跡・西屋敷 I 遺跡・西屋敷 II 遺跡・青木 I 遺跡・青木 II 遺跡・一ノ木遺跡・松田遺跡・馬場遺跡などがその構成因子となっている。

付　記

遺跡名称は（豊橋市教育委員会　2004『豊橋市遺跡地図』）に従った。

参考・引用文献

豊橋市史編集委員会　1966『豊橋市史』第 1 巻　原始・古代・中世編
贄　元洋他　1986『石巻神郷地区は場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』　豊橋市埋蔵文化財調査報告書第 6 集　豊橋市教育委員会
森田勝三　2002『日南坂 1 号墳　神ヶ谷遺跡』　豊橋市埋蔵文化財調査報告書第 70 集　豊橋市教育委員会
贄　元洋他　2003『白山 I・II 遺跡　西南代遺跡　城戸中遺跡　大蚊里貝塚』　豊橋市埋蔵文化財調査報告書第 72 集　豊橋市教育委員会
岩瀬彰利他　2008『眼鏡下池北遺跡』　豊橋市埋蔵文化財調査報告書第 96 集　豊橋市教育委員会
池本正明　2010「多り畑遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター年報』平成 21 年度
早野浩二　2010「多り畑遺跡・辻川 1 号墳・辻川遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター年報』平成 21 年度
鈴木正貴他　2011『西浦遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 165 集
池本正明他　2014『東屋敷遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 185 集

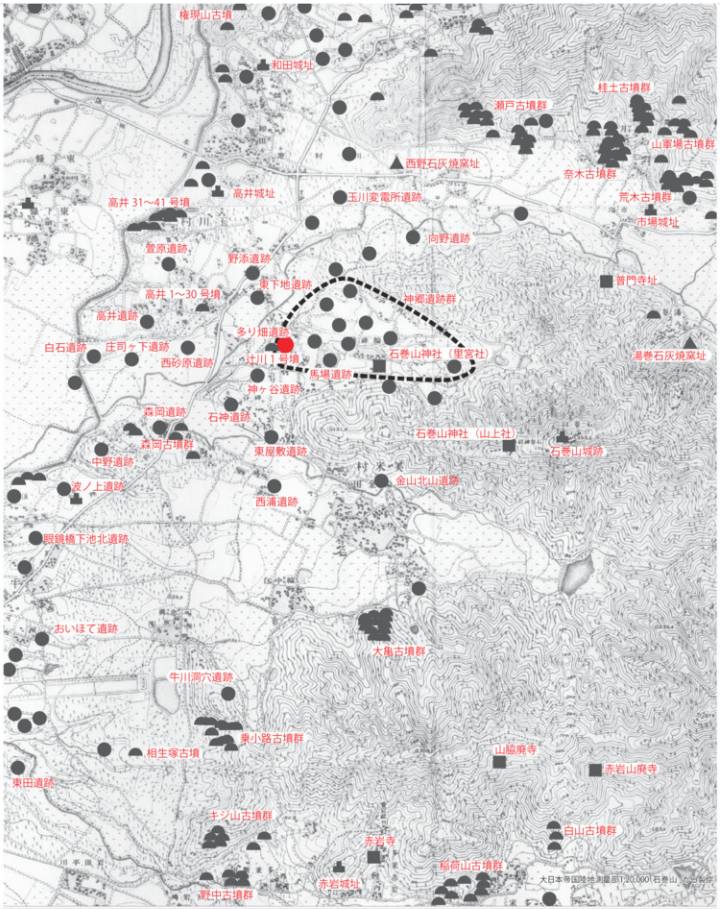


図 1　周辺の遺跡（明治 24 年）　1:25,000

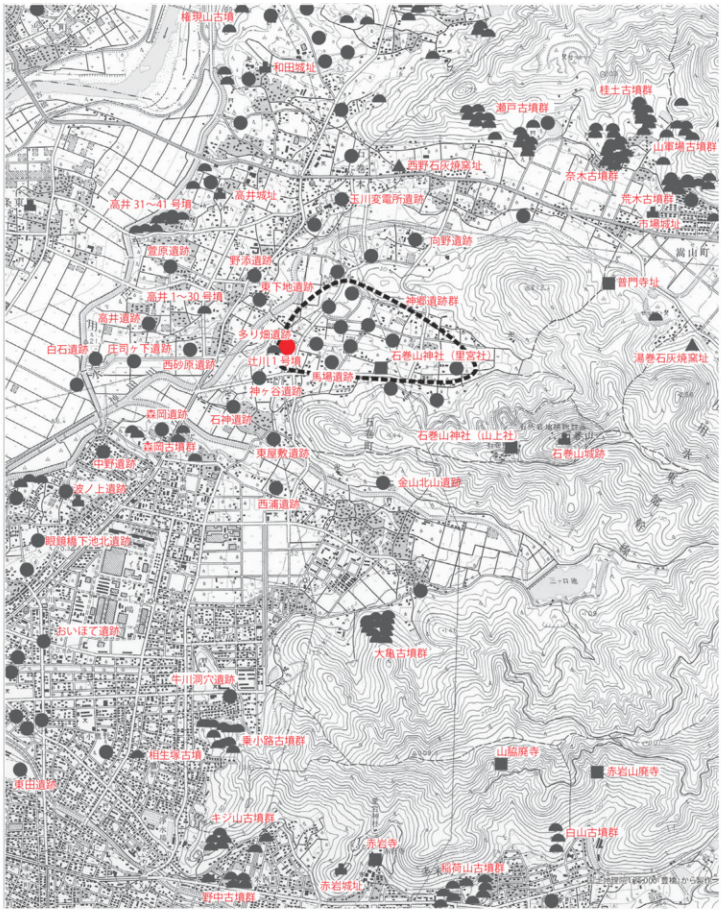


図2　周辺の遺跡　1:25,000

図３　周辺の遺跡　1:1,500

第2章　遺　構

調査区はほぼ平坦となっているが、調査区北端からさらに北側は神田川に向かう斜面で、中央部の標高は 28.3 m。調査面積は 1,440㎡となる。調査開始直前には更地となっていたが、用地買収以前は宅地や畑地として様々に土地利用されていたらしい。こうした関係からか、遺構面は後述する D 層に到達するような攪乱も多く、遺構の残存状況は良好とは言えない。

調査区の遺構埋土を除く基本層序は大きく 4 層に区分でき、A ～ D 層と呼称する。A 層はいわゆる表土層で、調査開始前まで使用されていた畑地の耕作土などで占められる。B 層は黒褐色系のシルト層である。いわゆる遺物包含層で縄文時代～中近世の土器などを含む。C 層も黒色系のシルト層である。上面で遺構を検出でき、上面の遺構（図版 1 ～ 9）として捉えた。D 層は褐灰色シルト層である。やはり上面で遺構が検出でき、これを下面の遺構（図版 10 ～ 16）としたが、一部は C 層の上層で確認できなかった上面の遺構が含まれている可能性も否定できない。なお、C 層が分布しない調査区南端部では、全ての遺構を D 層上面で検出したが、この部分も上面の遺構として報告する。

以下、北側の調査区から順に検出できた主要遺構を報告する。ここで報告するほとんどの遺構は上面から検出されたもので、下面で検出した遺構のみ本文中にこれを明記している。遺構番号は調査時のものを基本的に踏襲し、時期別の変遷は第 5 章で整理している。なお、時期・性格が不明確な遺構は、本書に添付されている CD-ROM に格納する遺構計測一覧（添付データ 1）を参照とする。

・219SI

調査区北部で確認できた。376SK・378SK に切られる。長径 2.4 m、短径 0.2 mで、検出面からの深さは 0.2 m。平面形はやや歪む楕円形で、壁の立ち上がりは緩やかな皿状となる。が は確認できない。平面形が小規模だが、上面が削平されている事を想定して、ここでは竪穴建物として報告する。埋土には拳大の礫が目立つ。ほとんどが石灰岩となる。主要なものは計測し、結果を第 5 章で報告している。040SK（長径 0.4 m、短径 0.2 m、深さ 0.1 m）・377SK（直径 0.3 m、深さ 0.1 m）・375SK（直径 0.2 m 、深さ 0.1 m）・379SK（長径 0.3 m、短径 0.2 m、深さ 0.1 m）・374SK（直径 0.2 m、深さ 0.1 m）・041SK（直径 0.3 m、深さ 0.1 m）などが垂木穴となるのか。ただし、規模が大きく傾斜しない。なお、垂木穴と想定する土坑は南東部分では確認できない。出土遺物は 1 ～ 11 と、垂木穴と報告する 375SK から出土した 42 を図示した。

・357SI

調査区中央部で確認できた。平面形は長径 2.4 m、短径 2.2 mで、検出面からの深さは 0.1 m。平面形はやや歪む楕円形で、壁の立ち上がりは緩やかな皿状となる。が は確認できない。平面形が小規模だが、上面が削平されている事を想定して、ここでは竪穴建物として報告する。158SK（長径 0.4 m、短径 0.3 m、深さ 0.1 m）・159SK（長径 0.4 m、短径 0.3 m、深さ 0.1 m）・160SK（長径 0.4 m、短径 0.3 m、深さ 0.1 m）・356SK（直径 0.4 m、深さ 0.1 m）・154SK（長径 0.4 m、短径 0.3 m、深さ 0.1 m）・247SK（長径 0.4 m、短径 0.3 m、深さ 0.1 m）・155SK（長径 0.5 m、短径 0.4 m、深さ 0.1 m）などが垂木穴となるのか。ただし、規模が大きく傾斜しない。なお、垂木穴と想定する土坑は南東部分では確認できない。出土遺物は垂木穴と報告する 155SK から 32 を図示した。

・190SI

調査区中央部で確認できた。188SK を切り、350SK・211SX に切られる。長辺 3.9 m、短辺 3.0 m、検出面からの深さは 0.2 mで、平面形は隅丸長方形を呈する。主柱穴は 259SK・265SK・349SK で、やや規模が大きいが 380SK も同様か。西壁の一部には壁溝も検出されている。出土遺物は 161 ～ 166 を図示した。

・234SI

調査区中央部で確認できた。235SK・364SK に切られる。長辺 3.0 m、短辺 2.6 m、検出面からの深さは 0.1 mを測る。小規模な竪穴状遺構で、平面形は隅丸長方形を呈する。主柱穴は 363SK・368SK か。出土遺物は 167 ～ 169 を図示した。

・568SB

調査区南部で確認できた。302SK（長径 0.3 m、短径 0.2 m、深さ 0.1 m）・294SK（直径 0.3 m、深さ 0.1 m）・295SK（長径 0.4 m、短径 0.2 m、深さ 0.1 m）・393SK（直径 0.2 m、深さ 0.2 m）・296SK（直径 0.2 m、深さ 0.1 m）・309SK（直径 0.3 m 、深さ 0.1 m）・308SK（長径 0.4 m、短径 0.3 m、深さ 0.1 m）・306SK（直径 0.3 m、深さ 0.1 m）・304SK（直径 0.4 m、深さ 0.2 m）で構成されるが、平面形はやや歪み、南西隅の柱穴が未検出となる。長辺 3.5 m、短辺 3.1 mだが、南側には 303SK が所在し、南端がこれに切られた可能性も持つ。長辺の主軸は N-35°-E。出土遺物は確認されなかった。

・569SB

調査区南部で確認できた。383SK(長径 0.5 m、短径 0.4 m、深さ 0.3 m)・384SK(長径 0.6 m、短径 0.4 m、深さ 0.3 m)・385SK(長径 0.6 m、短径 0.4 m、深さ 0.3 m)・386SK(長径 0.7 m、短径 0.6 m、深さ 0.3 m)・337SK（長径 0.5 m、短径 0.4 m、深さ 0.1 m）・333SK（長径 0.7 m、短径 0.5 m、深さ 0.4 m）・381SK (長径 0.7 m、短径 0.4 m、深さ 0.5 m)・332SK (長径 0.7 m、短径 0.5 m、深さ 0.4 m)・382SK (長径 0.5 m、短径 0.3 m、深さ 0.3 m)で構成されるが、南東隅の柱穴が未検出となる。長辺 7.5 m、短辺 4.0 mで、長辺の主軸は N-104°-E。出土遺物は 385SK から出土した 170 を図示した。

・078ST

調査区北部で確認できた土器棺墓。棺身（166）は壷の体部最大径よりやや上部以下、棺蓋（165）は別個体の体部片を用いる。土坑は検出面からの深さは 0.1 m。西側が調査区外となるが平面形は一辺 0.6 mの円形を呈するのか。基底部に 10㎝大の礫が確認できる。石材はほとんどが石灰岩となる。

・001SK

調査区北部で確認できた。検出面からの深さは 0.1 m。平面形は一辺 0.7 mの円形を呈する。埋土には拳大程度の礫が確認できる。石材はほとんどが石灰岩で、いずれも被熱は観察できない。主要なものは計測し、結果を第 5 章で報告している。出土遺物は 12・13 を図示した。

・002SK

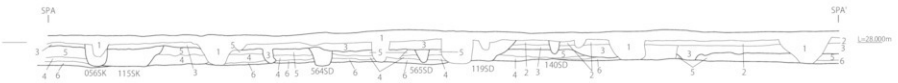
調査区北部で確認できた。長径 1.7 m、短径 1.3 m、検出面からの深さは 0.2 m。平面形は卵形を呈する。埋土には拳大程度の礫が確認できる。出土遺物は 14 ～ 16 を図示した。

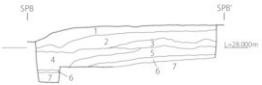
・003SK

調査区西部で確認できた。長径 1.2 m、短径 1.0 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 17 を図示した。

・007SK

調査区北部で確認できた。短径 1.4 mで、長径は 2.5 mまで確認したが、東側は調査区外となる。検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈するのか。出土遺物は 18 を図示した。





1. 10YR4/1　褐灰色土　表土(A層)
2. 7.5YR4/1　褐灰色土　表土(A層)
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　しまりやや悪い　整地層(整地層)
4. 10YR3/1　黒褐色シルト　しまり良い　粘性なし(B層)
5. 10YR2/1　黒色シルト　しまりやや悪い　粘性なし(C層)
6. 10YR5/1　褐灰色シルト　しまり良い　粘性ややあり(C層)
7. 2.5YR8/8　黄色土　しまり良い　粘性ややあり(D層)

図4　調査区壁面図 1:80

・017SK

調査区北部で確認できた。長径 1.6 m、短径 1.1 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は卵形を呈する。出土遺物は 19 を図示した。

・021SK

調査区北部で確認できた。219SI に近接する。長径 0.7 m、短径 0.4 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 20 を図示した。

・022SK

調査区北部で確認できた。直径 0.5 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は円形を呈する。出土遺物は 21 を図示した。

・054SK

調査区北部で確認できた。055SK を切る。長径 2.9 m、短径 0.6 m、検出面からの深さは 0.2 m。平面形は細長い楕円形を呈する。出土遺物は 22 を図示した。

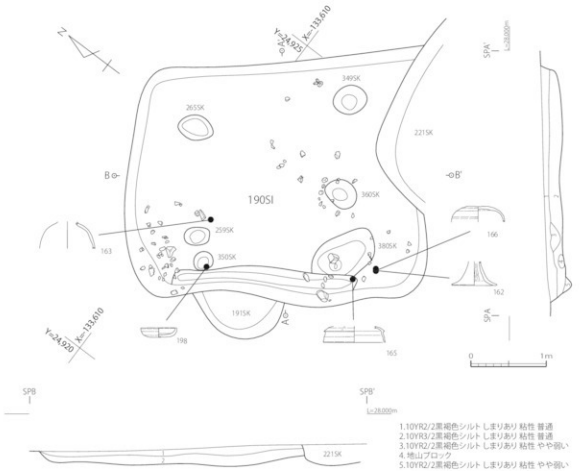


図5　190SI　1:50

・055SK
調査区北部で確認できた。054SK に切られる。長径は 1.8 mまで計測した。検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈するのか。出土遺物は 23 を図示した。
・076SK
調査区西部で確認できた。077SK を切る。長径 2.8 m、短径 2.0 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は卵形を呈する。出土遺物は 24・25 を図示した。
・077SK
調査区西部で確認できた。076SK に切られる。長径 1.0 m、短径 0.6 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 27 を図示した。
・091SK
調査区東部で確認できた。564SD を切る。長辺 2.1 m、短辺 1.4 m、検出面からの深さは 0.2 m。平面形は隅丸長方形を呈する。出土遺物は 26 を図示したが、混入だろう。
・105SK
調査区西部で確認できた。短径 0.6 m、検出面からの深さは 0.4 m。長径は 2.6 mまで確認した。平面形は細長い楕円形を呈するのか。出土遺物は 27 を図示した。
・133SK
調査区中央部で確認できた。長径 0.4 m、短径 0.3 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 28・29 を図示した。
・139SK
調査区中央部で確認できた。長径 0.9 m、短径 0.5 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 30 を図示した。
・147SK
調査区北部で確認できた。長径 1.2 m、短径 1.0 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 31・175 を図示したが、31 は混入か。
・161SK
調査区西部で確認できた。088SD に切られる。長径 1.4 m、短径 1.1 m、検出面からの深さは 0.4 m。平面形は楕円形を呈するのか。出土遺物は 33 を図示した。
・183SK
調査区中央部で確認できた。長径 1.4 mを検出するが、南北を 176SK、185SK に切られる。検出面からの深さは 0.1 m。平面形は細長い楕円形を呈する。出土遺物は 34 を図示した。
・187SK
調査区中央部で確認できた。長径 1.0 m、短径 0.6 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 35 を図示した。
・188SK
調査区中央部で確認できた。190SI に切られる。長径 1.9 m、短径 1.7 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 176 ～ 178 を図示したが、177・178 は混入か。
・203SK
調査区中央部で確認できた。長径 3.5 m、短径 1.2 m、検出面からの深さは 0.3 m。平面形は細長い楕円形を呈する。出土遺物は 180 を図示した。
・212SK

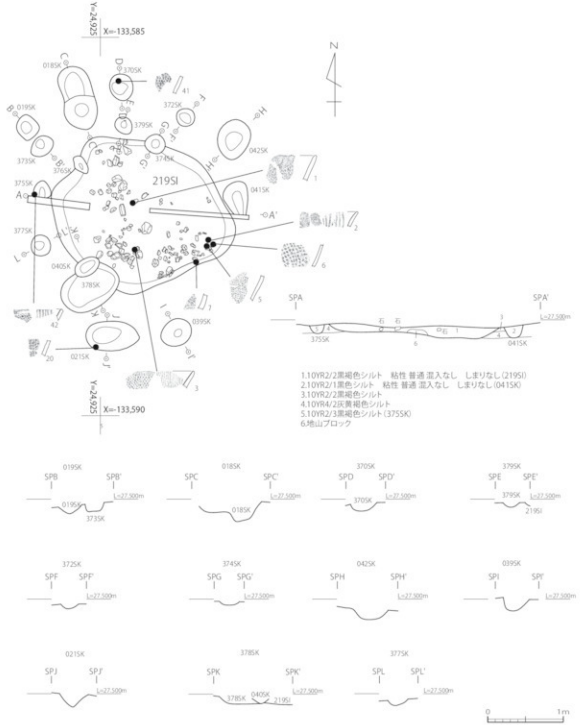

Y=24,925
X=-133,585
Y=24,925
X=-133,590
N
219SI
A
A'
SPA
SPA'
L=27.500m
1.10YR2/2黒褐色シルト　粘性 普通 混入なし　しまりなし(219SI)
2.10YR2/1黒色シルト　粘性 普通 混入なし　しまりなし(041SK)
3.10YR2/2黒褐色シルト
4.10YR4/2灰黄褐色シルト
5.10YR2/3黒褐色シルト(375SK)
6.地山ブロック
SPB
SPB'
SPC
SPC'
SPD
SPD'
SPE
SPE'
SPF
SPF'
SPG
SPG'
SPH
SPH'
SPI
SPI'
SPJ
SPJ'
SPK
SPK'
SPL
SPL'
0 1m

図6　219SI　1:50

調査区西部で確認できた。長径 2.2 m、短径 1.4 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は卵形を呈する。出土遺物は 36・37 を図示した。

・214SK

調査区中央部で確認できた。長径 0.8 m、短径 0.6 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 185 を図示した。

・218SK

調査区中央部で確認できた。232SK、186SD に切られる。長径 1.6 m、短径 1.3 m、検出面からの深さは 0.2 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 38 を図示した。

・220SK

調査区北部で確認できた。長径 1.0 m、短径 0.9 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。内部には拳大程度の礫が充填される。石材はほとんどが石灰岩で、いずれも被熱は観察できない。主要なものは計測し、結果を第 5 章で報告している。出土遺物は確認されなかった。

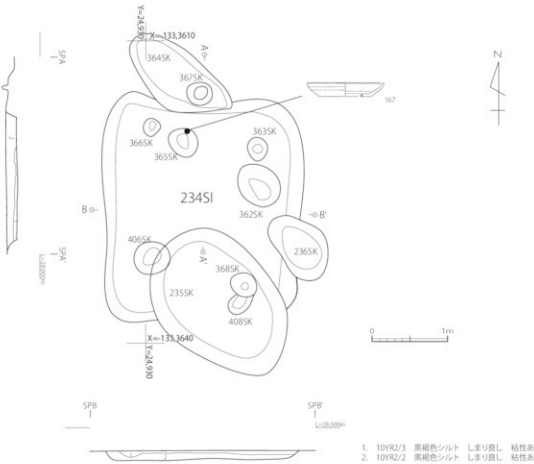


図7　234SI　1:50

・237SK
調査区東部で確認できた。直径 0.4 m、検出面からの深さは 0.2 m。平面形は円形を呈する。出土遺物は 181 を図示した。
・238SK
調査区東部で確認できた。長径 4.9 m、短径 0.9 m、検出面からの深さは 0.2 m。細長い土坑と理解する。出土遺物は 182 を図示した。
・239SK
調査区東部で確認できた。長径 3.1 m、短径 1.7 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は洋梨形を呈する。出土遺物は 183・184 を図示した。
・241SK
調査区中央で確認できた。長径 4.0 m、短径 0.9 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は細長い楕円形を呈する。出土遺物は 185 を図示した。
・245SK
調査区南部で確認できた。長径 0.9 m、短径 0.7 m、検出面からの深さは 0.2 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 186 を図示した。
・261SK
調査区南部で確認できた。205SD を切り、567SD に切られる。長径 2.1 m、短径 1.6 m、検出面からの深さが 0.2 mの不整形な落ち込み。出土遺物は 39 を図示したが、混入だろう。
・267SK
調査区西部で確認できた。長径 2.9 m、短径 1.2 m、検出面からの深さが 0.2 m。平面形は細長い楕円形を呈する。出土遺物は 157 を図示した。
・273SK
調査区西部で確認できた。長径 0.5 m、短径 0.4 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 40 を図示した。
・290SK
調査区南部で確認できた。直径 0.3 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は円形を呈する。出土遺物は 187 を図示した。
・298SK
調査区南部で確認できた。直径 0.4 m、検出面からの深さは 0.3 m。平面形は円形を呈する。出土遺物は 188 を図示した。
・304SK
調査区南部で確認できた。直径 0.4 m、検出面からの深さは 0.2 m。平面形は円形を呈する。出土遺物は 190・191 を図示した。
・305SK
調査区南部で確認できた。長径 0.6 m、短径 0.5 m、検出面からの深さは 0.2 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 192 を図示した。
・312SK
調査区南部で確認できた。長径 0.8 m、短径 0.7 m、検出面からの深さは 0.3 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 193 を図示した。
・319SK

調査区南部で確認できた。長径 1.1 m、短径 0.5 m、検出面からの深さは 0.3 m。平面形はやや歪む楕円形を呈する。出土遺物は 194 を図示した。

・339SK

調査区南部で確認できた。長径 1.2 m、短径 0.7 m、検出面からの深さは 0.2 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 195・196 を図示した。

・341SK

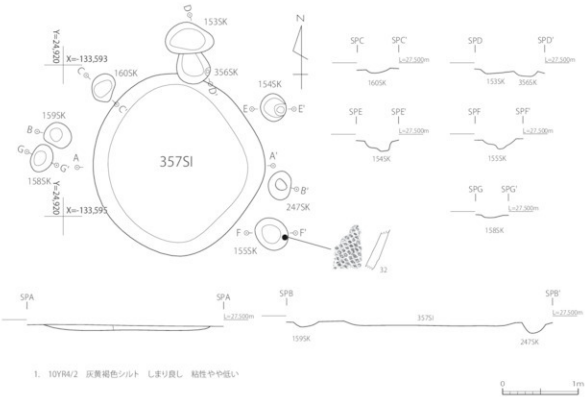
調査区中央部で確認できた。西側が 564SD に切られ、計測できる長径は 1.0 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 197 を図示した。

・350SK

調査区中央部で確認できた。190SI を切る。長径 0.3 m、短径 0.2 m、検出面からの深さは 0.3 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 198 を図示した。

・370SK

調査区北部で確認できた。219SI に近接し、関連する可能性を持つ。長径 0.4 m、短径 0.3 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は円形を呈する。出土遺物は 41 を図示した。



1.　10YR4/2　灰黄褐色シルト　しまり良し　粘性やや低い

図8　357SI　1:50

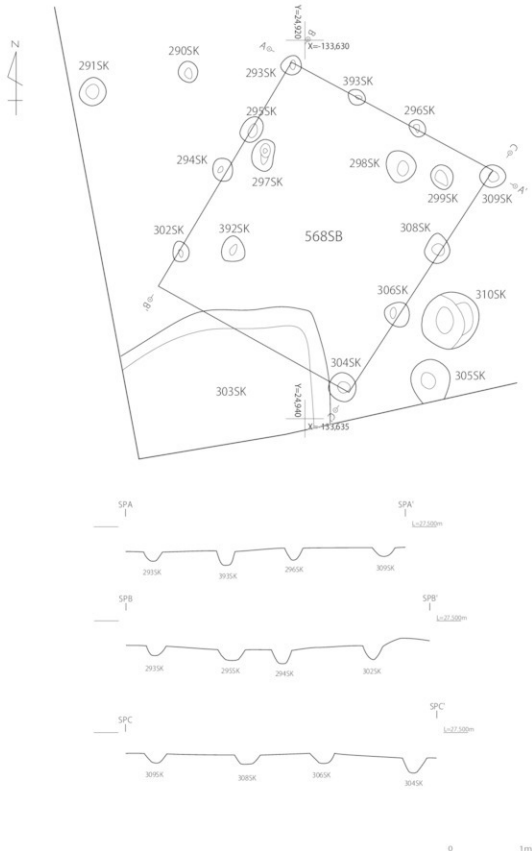

N
291SK
290SK
293SK
393SK
295SK
296SK
294SK
297SK
298SK
299SK
309SK
302SK
392SK
568SB
308SK
306SK
310SK
304SK
305SK
303SK
Y=-24,920
X=-133,630
Y=-24,940
X=-133,635
SPA
SPA'
L=27.500m
293SK
393SK
296SK
309SK
SPB
SPB'
L=27.500m
293SK
295SK
294SK
302SK
SPC
SPC'
L=27.500m
309SK
308SK
306SK
304SK
0
1m

図9　568SB　1:50

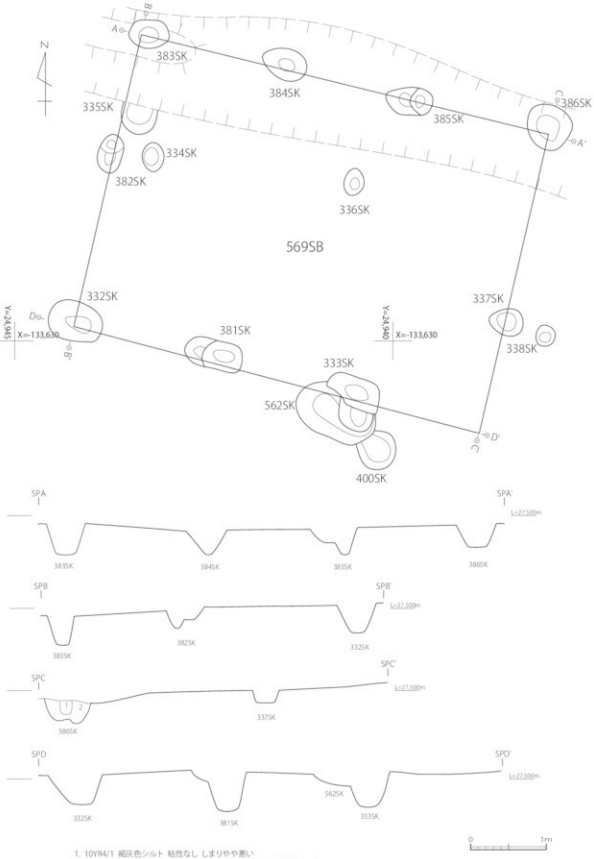


図10 569SB 1:50

・376SK

調査区北部で確認できた。219SI を切る。長径 0.3 m、短径 0.2 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 199・43 を図示したが、43 は混入であろう。

・401SK

調査区南部で確認できた。長径 0.9 m、短径 0.4 m、検出面からの深さは 0.2 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 200 を図示した。

・416SK

調査区南部で確認できた。直径 0.5 m、検出面からの深さは 0.3 m。平面形は円形を呈する。出土遺物は 201 を図示した。

・513SK

調査区北部の下層で確認できた。514SK を切る。長径 1.0 m、短径 0.6 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。埋土には数cm大の礫が散見できる。出土遺物は 44・45 を図示した。

・514SK

調査区北部の下層で確認できた。513SK に切られる。長径 3.9 m、短径 1.8 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は不整形となる。出土遺物は 46 を図示した。

・548SK

調査区西部の下層で確認できた。長径 0.9 m、短径 0.7 m、検出面からの深さは 0.1 m。平面形は楕円形を呈する。出土遺物は 47 を図示した。

・057SD

調査区東部で確認できた。097SD に切られる。幅は 0.9 mで、検出面からの深さは 0.2 m。全長 3.5 mまで検出し、東側は調査区外となる。主軸は N-72°-E。出土遺物は 48 を図示したが混入か。

・088SD

調査区西部で確認できた。全長 11.5 mを検出し、幅は 0.4 mで、検出面からの深さは 0.1 m。主軸は N-103°-E だが、端部両側はやや北側に屈曲する。出土遺物は確認されなかった

・089SD

調査区東部で確認できた。全長 8.0 mを検出し、幅は 0.5 mで、検出面からの深さは 0.1 m。L 字状に屈曲する溝で、主軸は東西方向が N-105°-E、南北方向が N-173°-E。出土遺物は確認されなかった

・097SD

調査区東部で確認できた。057SD を切る。全長 2.0 m、幅は 0.2 mで、検出面からの深さは 0.1 m。主軸は N-93°-E。出土遺物は 49 ～ 51 を図示したが混入か。

・119SD

調査区東部で確認できた。幅は 0.9 mで、検出面からの深さは 0.1 m。長さ 7.6 mまで検出し、東側は調査区外となる。主軸は西側が N-102°-E。屈曲した東側は N-77°-E。出土遺物は確認されなかった

・140SD

調査区東部で確認できた。幅は 0.2 mで、検出面からの深さは 0.2 m。長さ 3.7 mまで検出したが、東側が調査区外となる。主軸は N-80°-E。出土遺物は確認されなかった

・186SD

調査区中央部で確認できた。205SD・567SD に切られる。全長 8.2 mを検出し、幅は 0.6 mで、検出面からの深さは 0.1 m。主軸は N-96°-E だが、西側で蛇行する。出土遺物は 202 を図示した。

・195SD

調査区東部で確認できた。全長 3.7 mを検出し、幅は 0.5 mで、検出面からの深さは 0.2 m。西端は 564SD と接する。主軸は N-89°-E。出土遺物は 52・203 を図示したが、52 は混入か。

・205SD

調査区中央部で確認できた。567SD を切る。全長 12.0 mを検出し、幅は 0.4 mで、検出面からの深さは 0.4 m。北端は撹乱により消滅する。中央で屈曲し、主軸は北から N-36°-E、N-77°-E。出土遺物は、図示していないが近世陶磁器片がある。

・262SD

調査区南部で確認できた。幅は 0.4 mで、検出面からの深さは 0.1 m。長さ 6.8 mまで検出できたが、北端が 240SK、南端は撹乱により消滅する。弧状に伸び、主軸は計測できない。出土遺物は、図示していないが中世陶器片がある。

・264SD

調査区中央部で確認できた。西側が 564SD と接する。全長 6.6 mを検出し、幅は 0.4 mで、検出面からの深さは 0.2 m。主軸は N-98°-E。出土遺物は 204 ～ 208 を図示した。

・352SD

調査区西部で確認できた。幅は 0.5 mで、検出面からの深さは 0.1 m。長さ 3.1 mまで検出したが、北端は原生の巨木が存在しており確認できない。主軸は N-13°-E。出土遺物は確認されなかった。

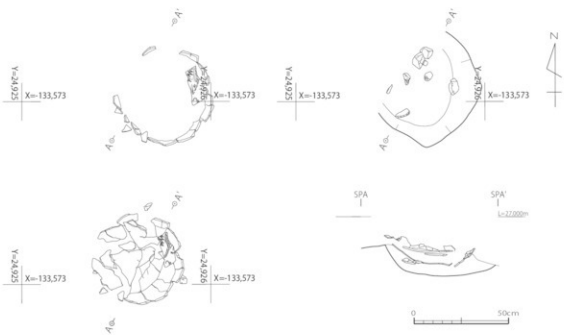


図 11　078ST　1:50

・396SD

調査区南部で確認できた。幅は 0.5 mで、検出面からの深さは 0.1 m。長さ 3.8 mまで検出したが、両端は撹乱により消滅する。主軸は N-8°-E。出土遺物は確認されなかった。

・564SD

調査区中央部で確認できた。091SK と重複し、これに切られる。341SK を切り、195SD・264SD・565SD・566SD・567SD と接する。L 字状に屈曲する溝で、主軸は南北方向が N-5°-E から屈曲して N-19°-E。東西方向が N-93°-E。幅は 0.5 mで、検出面からの深さは 0.4 m。東西方向は 7.0 m。南北方向は 17.1 mまで検出したが、東側が調査区外となり、南端は撹乱により消滅する。出土遺物は確認されなかった。

・565SD

調査区東部で確認できた。幅は 0.5 mで、検出面からの深さは 0.3 m。長さ 8.1 mまで検出したが、東側が調査区外となる。西端は、564SD と接する。主軸は N-101°-E。出土遺物は確認されなかった。

・566SD

調査区東部で確認できた。幅は 0.5 mで、検出面からの深さは 0.7 m。長さ 8.6 mまで検出したが、東側は調査区外となり、西端は 564SD と接する。主軸は N-101°-E。出土遺物は確認されなかった。

・567SD

調査区中央部で確認できた。205SD に切られる。全長 19.6 mを検出し、東端は 564SD と接する。幅は 0.4 mで、検出面からの深さは 0.2 m。二か所で屈曲し、主軸は北から N-92°-E、N-32°-E、N-78°-E。出土遺物は確認されなかった。

・221SX

調査区中央部で確認できた幅 1.8 m～ 2.5 m、検出面からの深さが 0.2 mの溝による区画で、190SI を切る。方形を呈し、南西隅が開口する。方形の区画と仮定し、溝の内側下端間を計測すると、東西方向が 2.5 m、南北方向が 2.0 mとなる。基底部には、375SK・348SK・189SK・343SK・344SK・254SK・346SK などが検出できるが、関連は明らかにできなかった。幅の広い周溝を持つ竪穴建物の基底部のみを検出した可能性も残すが、平面形状はやや歪み、主柱穴なども確認されていない。出土遺物は 209 ～ 211 を図示したが、211 は混入か。

・222SX

調査区南部で確認できた。幅 0.7 m、検出面からの深さが 0.2 mの溝による区画で、564SD に切られ、南側が撹乱により消滅する。221SX に近接し、これと同様の形状であった可能性を持つ。溝の内側下端間は、計測可能な東西方向で 2.8 mとなる。22SX と同様に幅の広い周溝を持つ竪穴建物の基底部のみを検出した可能性も残すが、平面形状はやや歪み、主柱穴なども確認されていない。出土遺物は 212 を図示したが混入か。

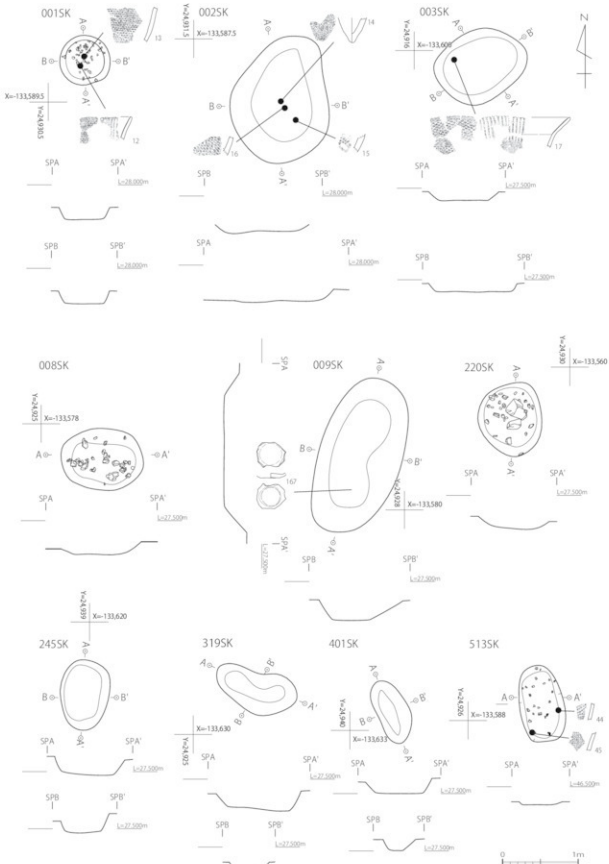

001SK
002SK
003SK
008SK
009SK
220SK
245SK
319SK
401SK
513SK
SPA
SPA'
SPB
SPB'
N
0
1m

図12 土坑 1:50

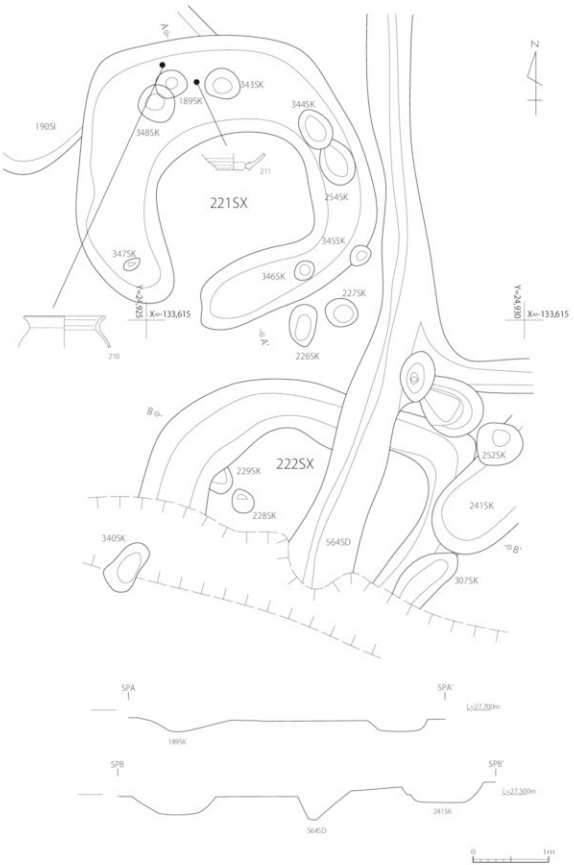


図13　221SX・222SX　1:50

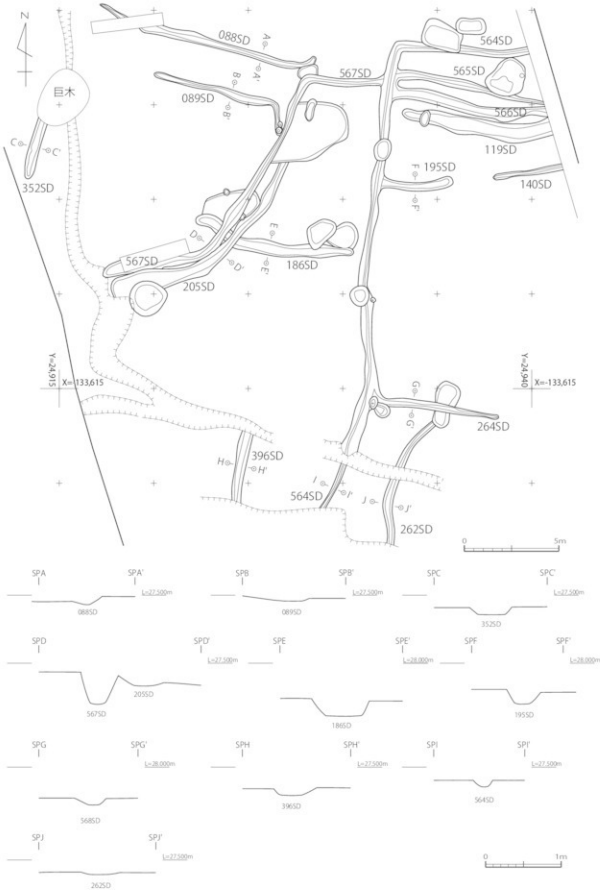


図14 溝 1:200 1:50

第3章　遺　物

1　概　要

今回の調査により出土した遺物は、土器・陶磁器、土製品、石器・石製品などがある。帰属時期は縄文時代～近世に及び、コンテナ17箱を数える。

ここでは、出土遺物を土器・陶磁器・土製品、石器・石製品に区分して混入資料も含めて遺構別に資料を報告するが、縄文時代のみまとめて報告する。なお、法量などのデータは、本書に添付されているCD-ROMに格納する遺物計測一覧（添付データ2）を参照とする。

2　縄文時代の遺物

1～151は縄文土器。図示したほとんどが楕円文を施す押型文土器となる。

1～11が219SI出土。1～4は口縁部片。端部の形状は1･4が鈍く尖り､2･3は面を持つ。1を除き、内面には櫛状文を施す。11は底部付近の破片となる。1・6・7は胎土に繊維を含むのか。

12・13は001SK出土。12は口縁部片で端部に面を持ち、内面に櫛状文を施す。13は体部片で、外面に付着する炭化物の放射性炭素分析を実施した。結果は第4章で報告する。

14～16は002SK。14は底部片。15は体部片となる。器壁は14が11㎜、15が12㎜と厚い。いずれも胎土に繊維を含むのか。

17は003SK出土。口縁部片で端部に面を持ち、内面に櫛状文を施す。口径39㎝程度か。

18は007SK出土。口縁部片で端部に面を持ち、内面は無文となる。

19は017SK出土。底部付近の破片となる。胎土に繊維を含むのか。

20は021SK出土。体部片で、胎土に繊維を含むのか。

21は022SK出土。体部片で、胎土に繊維を含むのか。

22は054SK出土。体部片で、胎土に繊維を含むのか。

23は055SK出土。口縁部付近の破片で、内面には櫛状文を施す。

24・25は076SK出土。25は口縁部片で端部に面を持つ。内面には櫛状文を施す。

26は091SK出土。体部片で、胎土に繊維を含むのか。

27は077SK出土。口縁部付近の破片で、内面には櫛状文を施す。

28・29は133SK出土。いずれも体部片となる。

30は139SK出土。無文土器で押型文土器とは別時期かも知れない。

31は147SK出土。体部片で、胎土に繊維を含むのか。

32は155SK（375SI）出土。体部片となる。

33は161SK出土。体部片となる。

34は183SK出土。口縁部片で端部に面を持つ。内面には櫛状文を施す。

35は187SK出土。体部片となる。

36・37は212SK出土。36は口縁部片で端部が鈍く尖り、内面には櫛状文を施す。37は口縁部付近の破片で、内面に櫛状文を施す。

38は218SK出土。体部片となる。

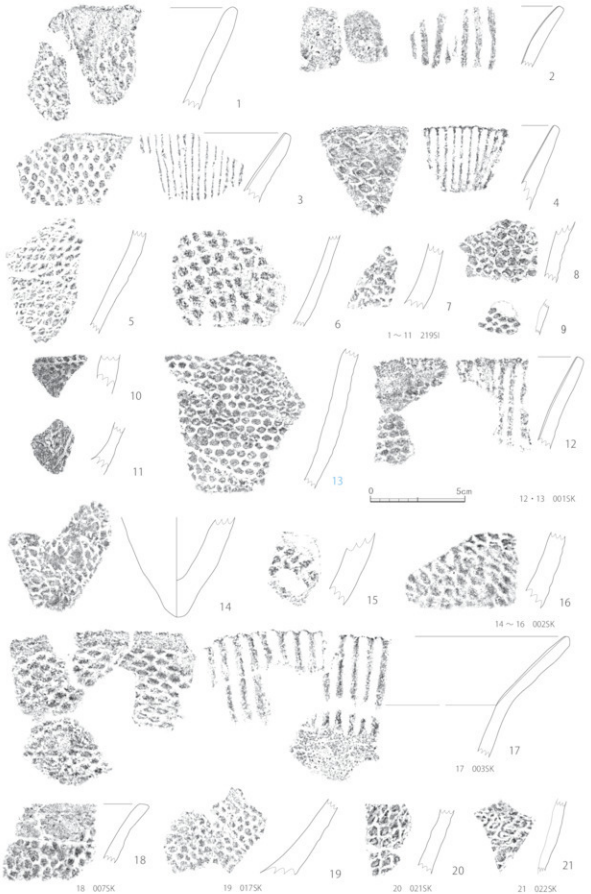

1
2
3
4
5
6
7
8
9
1～11　219SI
10
11
12
13
0
5cm
12・13　001SK
14
15
16
14～16　002SK
17
17　003SK
18
19
20
21
18　007SK
19　017SK
20　021SK
21　022SK

図15　出土遺物1　1:2

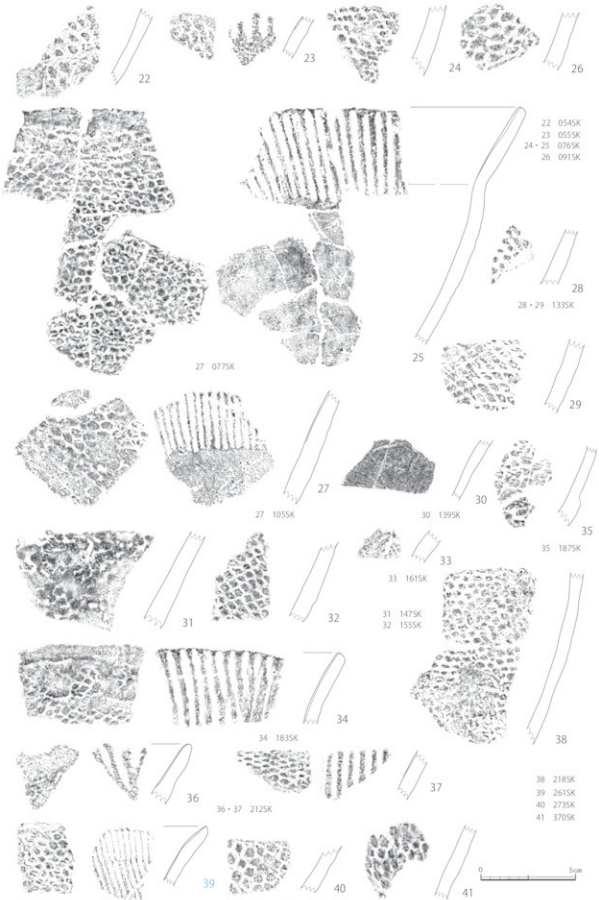

22
23
24
26
22 0545SK
23 0555SK
24・25 0765SK
26 0915SK
27 0775SK
25
28
28・29 1335SK
29
27
27 1055SK
30 1395SK
30
35
35 1875SK
33
33 1615SK
31
32
31 1475SK
32 1555SK
34
34 1835SK
38
36
36・37 2125SK
37
38 2185K
39 2615K
40 2735K
41 3705K
39
40
41
0
5cm

図16　出土遺物2　1:2

39は261SK出土。口縁部片で端部が鈍く尖る。内面には柵状文を施す。なお、外面に付着する炭化物の放射性炭素分析を実施した。結果は第4章で報告する。

40は273SK出土。体部片となる。

41は370SK出土。体部片となる。

42は375SK（219SI）出土。口縁部片で端部に面を持ち、内面には柵状文を施す。

43は376SK出土。口縁部片で端部に面を持ち、内面には柵状文を施す。

44・45は513SK出土。いずれも体部片となる。

46は514SK出土。体部片で、胎土に繊維を含むのか。

47は548SK出土。口縁部付近の破片で、内面には柵状文を施す。

48は057SD出土。体部片となる。

49～51は097SD出土。49は口縁部付近の破片で、内面には柵状文を施す。

52は195SD出土。底部片で平底となる。胎土に繊維を含む。縄文時代早期か。

53～151は遺構外資料。

53～115は上面出土。53～59、77～79は口縁部片。内面は、53～59は柵状文を施し、77～79は無文となる。77・79は外面の楕円文が縦位となる。端部の形状は、53・58・59は端部が鈍く尖り、54・56は丸く納め、55・57・78・79は面を持つ。60～76は口縁部付近の破片で、内面には柵状文を施す。61の器壁は11㎜、85は14㎜と厚い。90は無文土器の可能性を持つ。115は山形文と

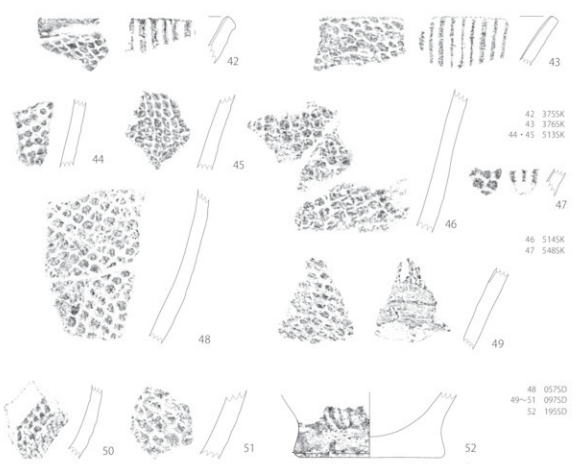


図17　出土遺物3　1:2

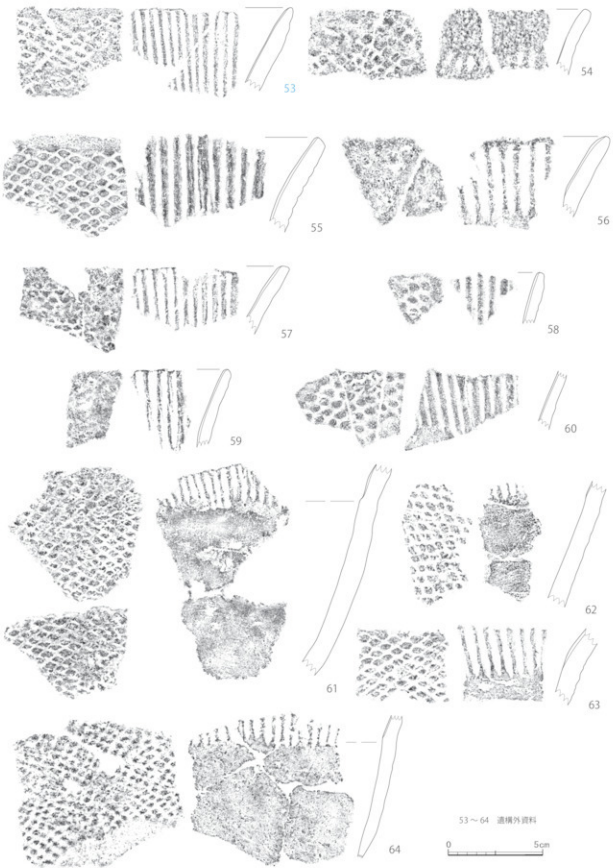


図18　出土遺物4　1:2

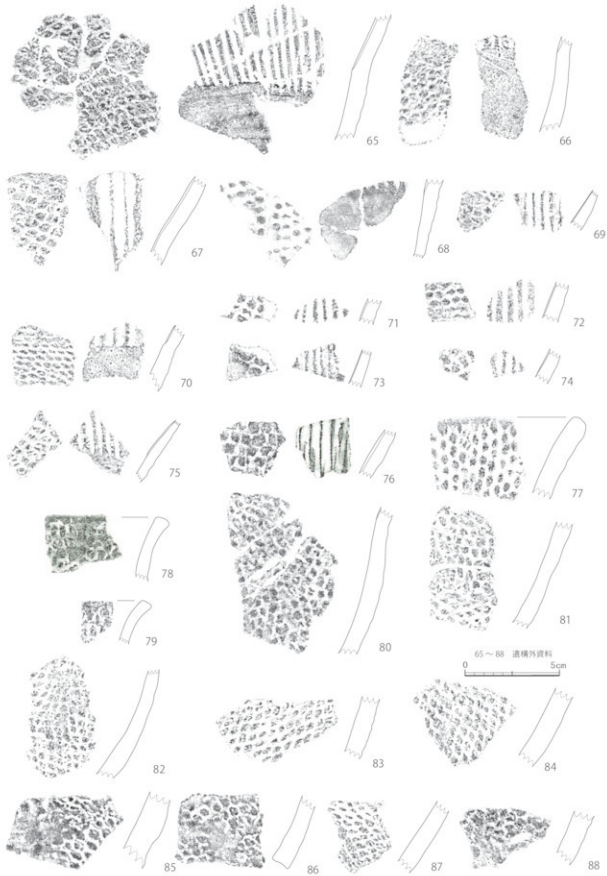

65
66
67
68
69
71
72
70
73
74
75
76
77
78
80
81
79
65～88　遺構外資料
0
5cm
82
83
84
85
86
87
88

図19　出土遺物5　1:2

なる。63・77・84・85は器壁が厚く、63から順に10㎜、11㎜、10.5㎜、14㎜となる。なお、51・57・59・78～81・85・86・88・89・94・96は胎土に繊維を含むのか。53は外面に付着する炭化物の放射性炭素分析を実施した。結果は第4章で報告する。

116～148は下面出土。116～120は口縁部付近の破片で、内面に櫛状文を施す。143～145は底部片となる。130・132・139は胎土に繊維を含むのか。

146・147は撚糸文土器。遺構外資料で下面出土。同一個体かもしれない。148は無文土器で、押型文土器と胎土・焼成が類似する。早期か。149～151は条痕文土器で晩期か。

152～160は石器・石製品などを集めた。

152は打製石斧。上面の遺構外資料で、石材は黒色片岩。153・154はフレイク。153は219SI、154は上面の遺構外資料。石材いずれも安山岩。155は石剣か。背に溝を刻むのか。上面の遺構外資料で、石材は緑色片岩。後期～晩期か。156～160は磨石叩石類。160は238SK、157は264SD出土。156・159が上面、158が下面の遺構外資料。石材は160が凝灰岩でその他は砂岩。重量は152から順に、114.4g、51.2g、22.5g、95.1g、480.9g、939.2g、1138.8g、395.6g、543.1g。

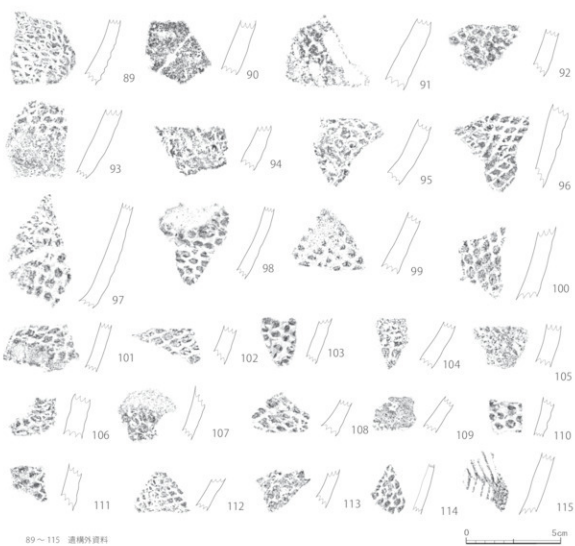


図20　出土遺物6　1:2

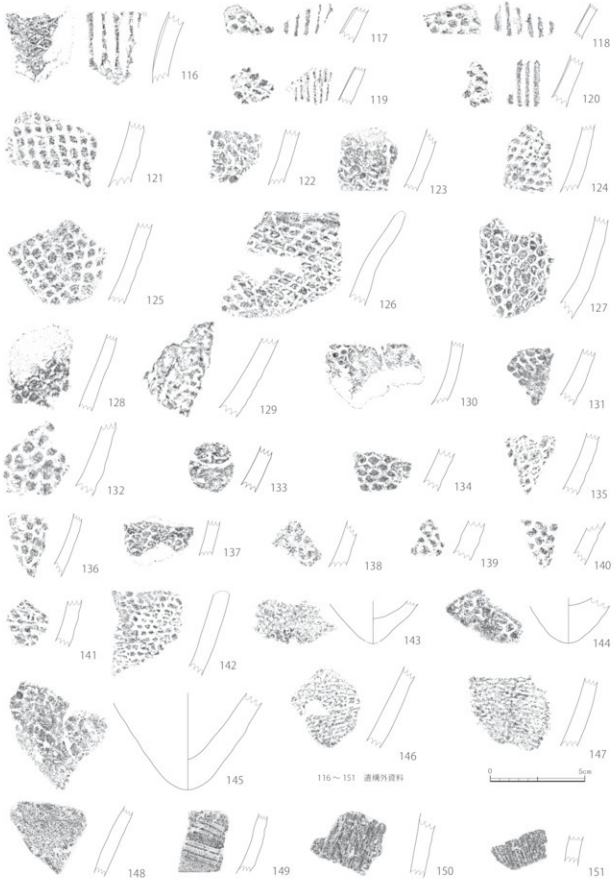

116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
116～151　遺構外資料
0
5cm
148
149
150
151

図21　出土遺物7　1:2

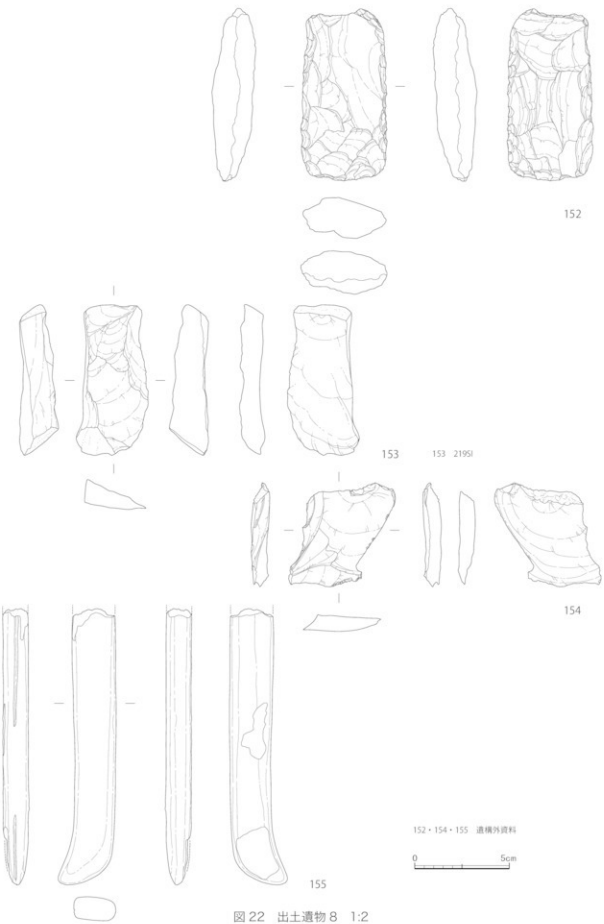


図22 出土遺物8 1:2

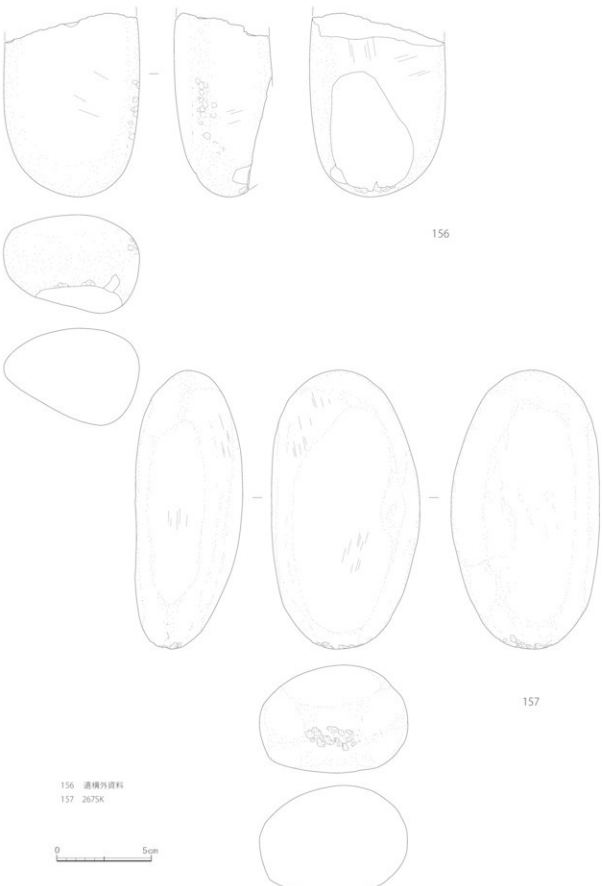


図23 出土遺物9 1:2

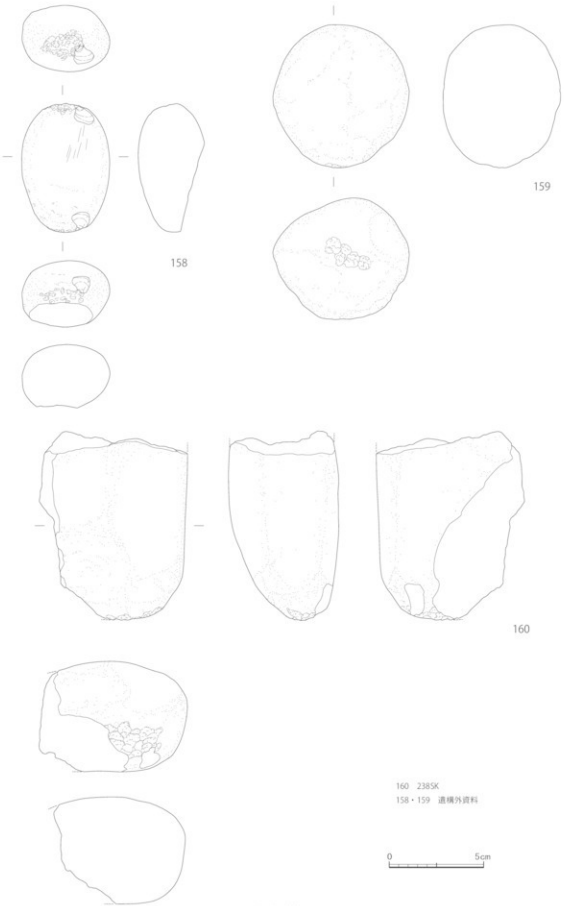


図 24　出土遺物 10　1:2

3　弥生時代以降の遺物

161 ～ 166 は 190SI 出土。161 は台付甕。162 は高杯。163・164 は壺。163 は体部上方の破片で、肩がやや張る形状となる。164 は頸部からやや外反して直立する形状で、底部を欠く。外面にはミガキ調整を施す。165・166 は杯蓋で 165 が須恵器。166 は土師器。時期は 164 が弥生時代後期、162 は松河戸並行期。165 は 6 世紀中頃。

167 ～ 169 は 234SI 出土。167 は土師器皿。やや深い形状。口縁部にヨコナデ調整を施すが、外面は粗面となる。胎土にはシャモットが目立つ。13 世紀。168 は貿易陶磁で、碗か。169 は山茶碗の底部片。渥美 3b。

170 は 568SB（385SK）出土。は土師器皿。やや深い形状。口縁部にヨコナデ調整を施すが、外面は粗面となる。13 世紀。

171・172 は 078ST。171 が楕蓋。壺の体部上方の破片で、外面最上部は突帯が剥離する。外面は、羽状刺突の上方はクシによる直線文と波状文を重ね、下方はクシによる単位文を配する。166 が楕身。壺の体部で最大径付近以下が残存する。外面にはややラフなミガキ調整を施す。底部はやや突出して外底部には木葉痕が確認できる。171 とは別個体か。いずれも弥生時代後期前半。

173 は 009SK 出土。小皿の底部片。破片加工を施す。渥美 3b 型式期。

174 は 115SK 出土。山茶碗の底部片。時期は 12 世紀。渥美 3b 型式期。

175 は 147SK 出土。山茶碗の底部片。時期は 12 世紀。渥美 3b 型式期。

176 ～ 179 は 188SK 出土。176 は土師器の鉢。扁平な体部に短く屈曲する口縁部が付く。全面ヨコナデ調整による。5 世紀か。179 は土師器の取手部分。177・178 は小皿。混入か。177 が渥美 3b か c 型式期、178 が渥美 3a か b 型式期。混入か。

180 は 203SK 出土。山茶碗の底部片。高台端部にはモミガラ圧痕を残す。渥美 2b 型式期。

181 は 237SK 出土。山茶碗の底部片。破片加工を施すかも知れない。渥美 3a 型式期。

182 は 238SK 出土。土師器皿。やや深い形状。口縁部にヨコナデ調整を施すが、外面は粗面となる。13 ～ 14 世紀か。

183・184 は 239SK 出土。いずれも山茶碗で 183 が口縁部、184 が底部片。184 は高台端部にモミガラ圧痕を残す。183 が渥美 3b 型式期、184 渥美 3a 型式期。

185 は 214SK 出土。小皿の底部片。破片加工を施す。渥美 3a 型式期。

186 は 244SK 出土。山茶碗でほぼ全形を留める。高台端部にはモミガラ圧痕を残す。尾張 6 型。

187 は 290SK 出土。山茶碗の底部片で、破片加工を施す。高台端部にはモミガラ圧痕を残す。渥美 3a。

188 は 298SK 出土。土師器皿。口縁部にヨコナデ調整を施すが、外面は粗面となる。胎土にはシャモットの極小片を含む。13 ～ 14 世紀か。

189 は 299SK 出土。土師器皿。口縁部にヨコナデ調整を施すが、外面は粗面となる。胎土には金雲母の極小片を含む。

190・191 は 304SK 出土。いずれも土師器で、190 は皿。口縁部にヨコナデ調整を施すが、外面は粗面となる。胎土にはシャモットの極小片を含む。191 は鍋。口縁部片で端部を折り返す。13 世紀後半。

192 は 305SK 出土。土師器皿。口縁部にヨコナデ調整を施すが、外面は粗面となる。13 世紀か。

193 は 312SK 出土。山茶碗で、渥美 3b 型式期。

194 は 319SK 出土。山茶碗で、内面に使用痕が観察できず、高台端部には焼台の剥離痕も観察できる。ただし、口縁端部には部分的に摩滅が著しい。渥美 3b か c 型式期。

195・196 は 339SK 出土。いずれも山茶碗の底部片。196 の高台端部にはモミガラ圧痕を残す。いずれも渥美 3a 型式期。

197 は 341SK 出土。土師器甕の口縁部片。

198 は 350SK 出土。土師器皿。口縁部にヨコナデ調整を施すが、外面は粗面となる。胎土にはシャモットの極小片を含む。13 世紀か。

199 は 376SK 出土。山茶碗。渥美 3a 型式期。

200 は 401SK 出土。山茶碗で高台端部にモミガラ圧痕を残す。外底部と体部外面下方には、判読できないが墨書が確認できる。渥美 3b 型式期。

201 は 416SK 出土。山茶碗の口縁部片。破片加工を施す。渥美 3a か b 型式期。

202 は土製品の小片で、外面にはラフなナデ調整を施す。胎土には 1㎜～ 8㎜大のシャモットを含む。小片のため形状は不明。

203 は 195SD 出土。小皿の底部片。渥美 3 型式期か。

204 ～ 208 は 264SD 出土。204 は近世陶磁器片口の底部片。19 世紀。205 は近世陶器の赤物甕底部片 19 世紀。206 ～ 208 は山茶碗の底部片。いずれも渥美 3a 型式期。208 は破片加工を施す。

209 ～ 211 は 221SX 出土。209・210 は土師器で、209 が壺。外面にラフなナデ調整を施す。210 は甕の口縁部片。時期は松河戸並行期。211 は山茶碗の底部片で、渥美 3a 型式期。混入か。

212 は 222SX 出土。蓮弁文壺の体部片。肩がやや張り、この部分には沈線を二条施す。渥美 2 型式期。

213 ～ 262 は遺構外資料。

213 ～ 218 は土師器。213 ～ 216 は高杯。213 は浅い杯部を持ち、脚部は裾で屈曲する形状。杯部と裾部を欠うが、215 も同様か。216 は屈曲しない脚部となる。217・218 は甕で卵形の体部を持つ。217 は底部を、218 は口縁部を欠く。213・217・218 は調査区外周のトレンチから近接して出土しており、調査時には確認できなかったが、同一遺構の資料であった可能性を持つ。時期は松河戸Ⅱ並行期。219 は壺の口縁部片。端部で縁帯を形成し、外面にはイタによる羽状の連続刺突を並べる。弥生時代終末期か。

220 ～ 237 は山茶碗。渥美 3a 型式期が主体となる。229 ～ 231、235・236 は高台端部にモミガラ圧痕を残す。227 は底部片で、外底部には墨書が確認できる。233 は内面には使用痕が観察できず、230・234・235 は破片加工を施すかもしれない。238・239 は小皿。渥美 3a 型式期。240 ～ 247 は土師器で、240 ～ 246 は皿。240 はやや深い形状となる。240・242 は口縁部にヨコナデ調整を施すが、外面は粗面となる。241・243 ～ 246 は口縁部のナデ調整がほとんど確認できない。245 は口縁部にススが付着する。247 は鉢の口縁部片。

248 ～ 252 は山茶碗の底部片で、破片加工を施す。250 は高台端部にモミガラ圧痕を残す。252 を除き渥美 3a 型式期。253 は土師器の取手。手づくね成形で、胎土には 5㎜大の砂粒が目立つ。254 ～ 256 は貿易陶磁。257 ～ 261 は近世陶磁器。いずれも 19 世紀だが 258 は 18 世紀末まで遡る可能性を持つ。

262 は砥石。平面図が研磨面で、これを除く三面には条線が目立つ。石材は凝灰岩で重量は 47.1g。

参考・引用文献

岩原　剛　　2004「東三河の中世土師器皿・試論」『三河考古学談話会　2004 年 7 月東三河部会発表資料』
愛知県史編さん委員会　2007『愛知県史　別編　中世・近世　瀬戸系　窯業 2』　愛知県
関西縄文文化研究会　2011『押型文土器の諸相』　第十二回研究会発表要旨集・資料集
愛知県史編さん委員会　2012『愛知県史　別編　中世・近世　常滑系　窯業 3』　愛知県

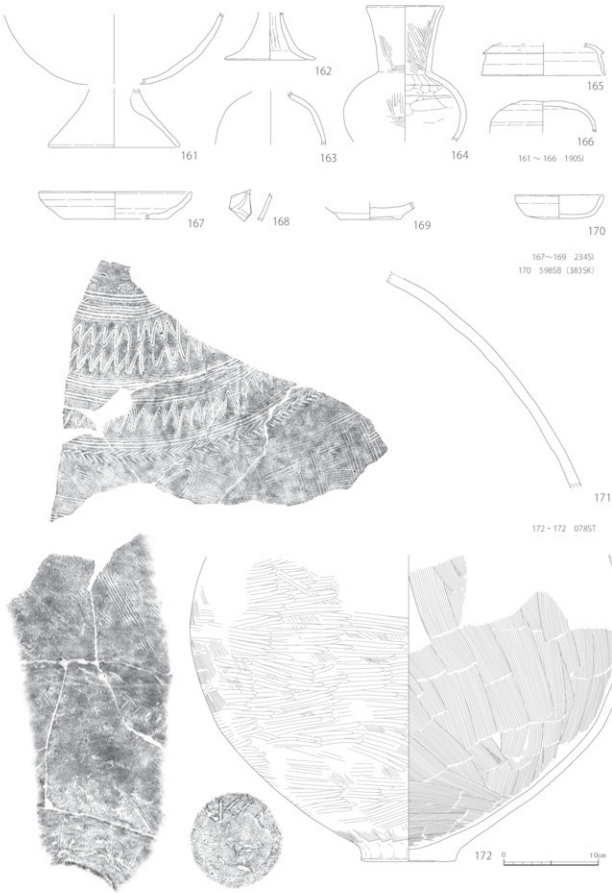


図 25 出土遺物 11 1:4

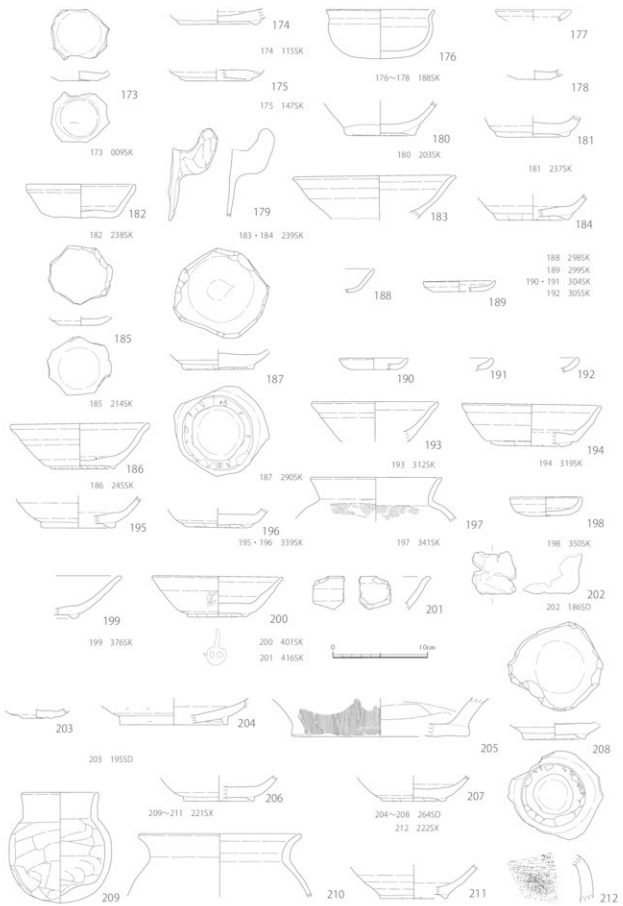


図 26　出土遺物 12　1:4

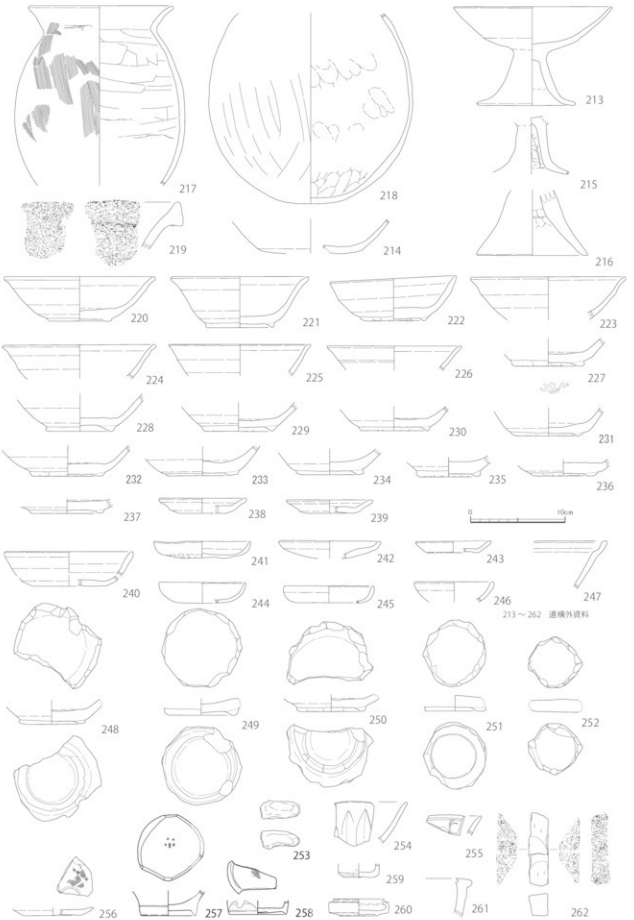


図 27 出土遺物 13 1:4

第４章　科学分析

放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・小林克也

１　はじめに

愛知県豊橋市に位置する多り畑遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

２　試料と方法

試料は、001SK から出土した深鉢（遺物 No.13）の胴部外面付着炭化物（PLD-29204）、上面から出土した深鉢（遺物 No.53）の胴部外面付着炭化物（PLD-29205）、261SK から出土した深鉢（遺物 No.39）の胴部外面付着炭化物（PLD-29206）、219SI から出土した炭化材（No.246：PLD-29207）の計４点である。時期については、いずれも縄文時代早期と考えられている。測定試料の情報、調製データは表２のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

表２　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-29204	グリッド：6J18g 遺構：001SK 遺物 No.13	器種：深鉢 採取部位：胴部外面 種類：付着炭化物	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）
PLD-29205	グリッド：6J18 g 遺構：上面 遺物 No.53	器種：深鉢 採取部位：胴部外面 種類：付着炭化物	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）
PLD-29206	グリッド：7J2f 遺構：261SK 遺物 No.39	器種：深鉢 採取部位：胴部外面 種類：付着炭化物	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）
PLD-29207	遺構：219SI No.246	種類：炭化材（針葉樹） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）

３　結　果

表３に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、1950 年の大気の ^{14}C 濃度を１として計算した試料の ^{14}C 濃度を表す $F^{14}C$ 値を、図１に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5,568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（± 1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730±40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.2（較正曲線データ：IntCal13、1950 年以降の試料については Post-bomb atmospheric NH2）を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された 14C 年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ 暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は 14C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表3　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	δ 13C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1 σ)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-29204 遺物 No.13	-26.72±0.20	8519±32	8520±30	7585-7549 cal BC (68.2%)	7592-7532 cal BC (95.4%)
PLD-29205 遺物 No.53	-25.85±0.21	8545±31	8545±30	7594-7567 cal BC (64.0%) 7559-7555 cal BC (4.2%)	7598-7542 cal BC (95.4%)
PLD-29206 遺物 No.39	-25.38±0.20	8468±32	8470±30	7569-7526 cal BC (68.2%)	7581-7500 cal BC (95.4%)
PLD-29207	-24.72±0.20	-1625±19 F14:1.2243±0.0030	-1625±20	Post-bomb NH2 2013: 1960-1960 cal AD (23.1%) 1961-1961 cal AD (22.4%) 1983-1984 cal AD (22.6%)	Post-bomb NH2 2013: 1958-1959 cal AD (6.4%) 1959-1961 cal AD (54.7%) 1982-1983 cal AD (2.6%) 1983-1985 cal AD (31.7%)

4　考　察

以下、2 σ暦年代範囲（確率 95.4%）に着目して結果を整理する。また、暦年代と縄文土器編年との対応関係については、兵頭（2008）、小林（2008）、工藤（2012）を参照した。

001SK から出土した遺物 No.13 の付着炭化物（PLD-29204）は 7592-7532 cal BC(95.4%)、上面から出土した遺物 No.53 の付着炭化物（PLD-29205）は 7598-7542 cal BC(95.4%)、261SK から出土した遺物 No.39 の付着炭化物（PLD-29206）は 7581-7500 cal BC(95.4%)で、紀元前 7600 ～ 7500 年の暦年代を示した。これは、縄文時代早期中葉に相当する。土器の時期は縄文時代早期と考えられており、測定結果と調和的である。

291SI から出土した炭化材（PLD-29207）は 1958-1959 cal AD(6.4%)、1959-1961 cal AD(54.7%)、1982-1983 cal AD(2.6%)、1983-1985 cal AD(31.7%)で、紀元後 1958 ～ 1961 年か 1982 ～ 1985 年の暦年代を示した。これは、昭和時代に相当する。291SI は縄文時代後早期と考えられており、試料は、遺構に混入した現代の炭化材の可能性がある。

参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
Hua, Q., Barbetti, M. Rakowski, A.Z. (2013) Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950–2010. Radiocarbon, 55(4), 1-14.

兵頭　勲（2008）押型文系土器．小林達雄編「総覧　縄文土器」：162-167．アム・プロモーション．
小林謙一（2008）縄文時代の暦年代．小杉　康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学 2　歴史のものさし」：257-269．同成社．
工藤雄一郎（2012）旧石器・縄文時代の環境文化史―高精度放射性炭素年代測定と考古学―．373p．神泉社．
中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」：3-20．日本第四紀学会．
Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.（2013）IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55（4）, 1869-1887.

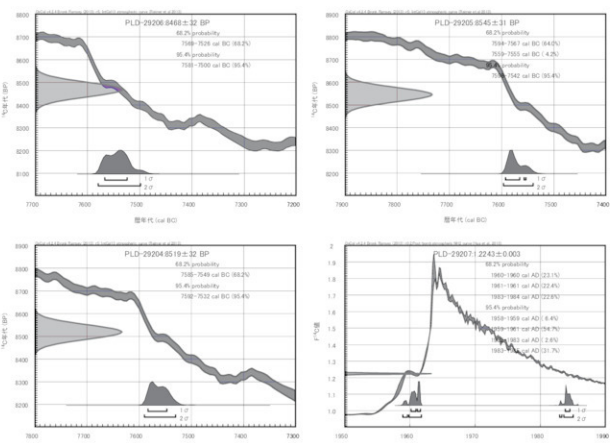


図 28　暦年較正結果

第５章　考察と総括

１　主要遺構の変遷

ここでは、今回の調査で検出した遺構を時期毎に区分したい。

今回の調査区では遺構の残存状況が良好とは言えず、出土遺物も乏しい。このため、帰属時期が不明確な遺構が大半で、多分に恣意的な区分になってしまった事は否めない。図 29 に提示した主要遺構の変遷案は、こうした問題点を内在させている事をあらかじめ断っておく。

・Ａ期（縄文時代早期・黄島式併行期）

当該期の遺構は調査区の南側では希薄となる。遺物の分布も同様で、6J7e ～ 6J7h ラインを北側、7J3c ～ 3i ラインを南側とする直径 30 ｍ程度の範囲に集中している（図 34）。なお、第２章で述べた様に C 層の上下で上面と下面に区分したが、大きな変化は確認できない。

遺構では 219SI・375SI を竪穴建物として報告した。長径 2.5 ｍ前後と小規模となる他、垂木穴も傾斜しないなど、再検討の余地も残している。特に 375SI は出土遺物も乏しく、当該期の遺構でない可能性すら存在する。なお、規模については垂木穴の外側まで基底部が存在したと考えるのであれば、長径３ｍを越える大きさにもなる。このサイズは豊橋市天井平遺跡で確認されている比較的近い時期の竪穴建物とも類似している。

多量の礫を含む 001SK と 220SK も特徴的となる。219SI も南西方向に偏在して多くの礫が確認できた。これらは石灰岩が主体で、調査区の周辺で入手可能となる。いずれも被熱は確認できない。図 30 ～ 32 では礫の重量を集計している。001SK に 14 ｇ以下、219SI は 22 ｇ以下にややまとまる傾向が観察できるが、202SK ではバラツキが著しい。なお、この他に 513SK も礫が確認できるが、数㎝大が散在するに留まり、重量計測は実施していない。

以上の様に、今回の調査区では竪穴建物と推定できる遺構は確認できたが、集石炉や埋道付き穴や陥穴などは未確認となる。これらを調査区外に想定する事はできるが、現状では明らかにする事はできない。

・Ｂ期（弥生時代後期）

調査区北側で検出された土器棺墓をＢ期とする。現状では調査区内で単独で存在するのみだが、この時期の墓域であった可能性が強い。居住域は未検出となる。

・Ｃ期（古墳時代中期～後期）

調査区中央で竪穴建物（190SI）を１棟検出した。遺構の分布が希薄ではあるが、居住域を想定しておく。一応、古墳時代後期と理解しているが、出土遺物の帰属時期にバラツキが大きく、これより遡るのかも知れない。なお、遺構外資料だが、213・217・218 は近接して出土しており、確認できなかった当該期の遺構資料であった可能性を持つ。

・Ｄ期（中世前期）

調査区の南部で土坑群が展開する。このうち 245SK・319SK・401SK からは、ほぼ全形を窺える山茶碗が出土しており、この段階を特徴付ける遺構と考えられる。前述の様に、遺構外資料も含めて調査区内で主体となるのは渥美 3ab の山茶碗だが、これらの年代観に従えば、Ｄ期の遺構は 13 世紀の中葉

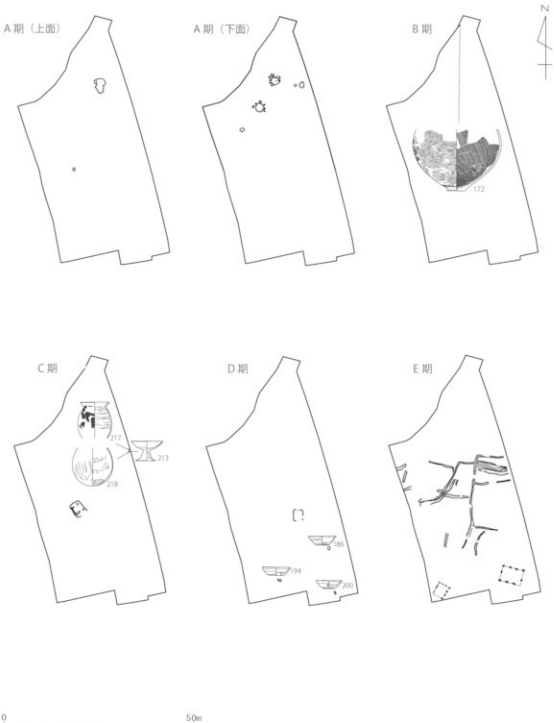


図 29　主要遺構の変遷　1:1,000

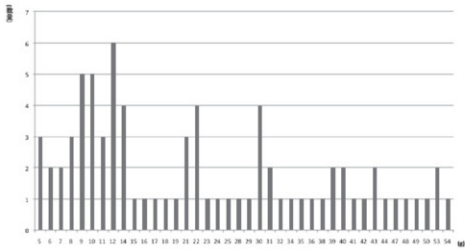


図 31　001SK 出土礫集計図

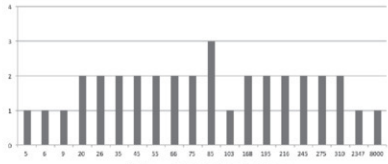


図 32　220SK 出土礫集計図

図 30　219SI 出土礫集計図

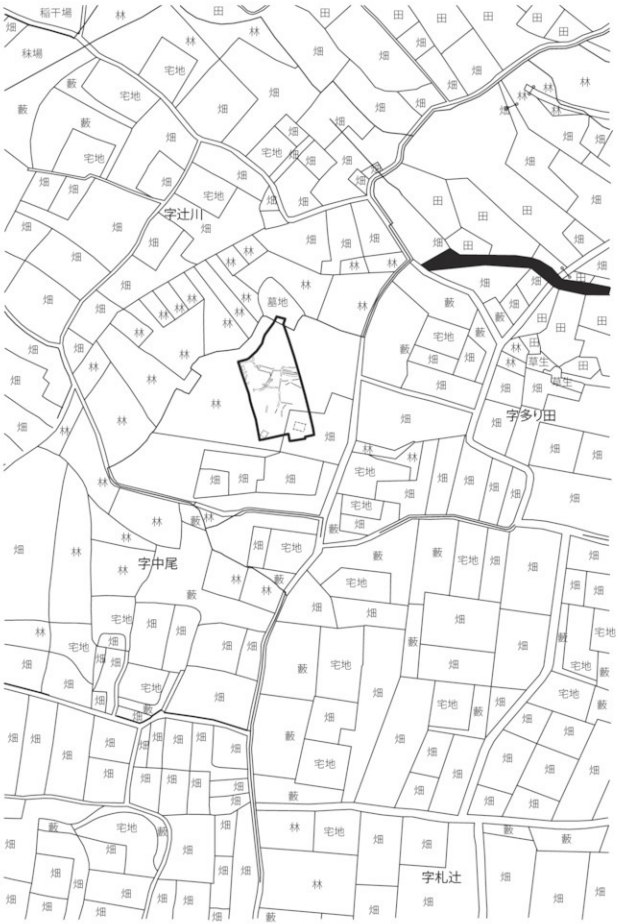


図 33　周辺の地籍図　1:2,000

頃に重心が存在すると思われる。

出土遺物には底部を選択した破片加工が散見できる。破片加工を施す時期が問題となるが、これが施される資料のほとんどが山茶碗で近世陶磁器の破片加工例は存在しない事、調査区全域を見渡しても近世陶磁器の出土量が乏しい事などから、破片加工の時期もＤ期と考えている。

以上の様な遺構・遺物のあり方から、Ｄ期は調査区南側を中心として居住域とは異なる土地利用がなされていた事が想定できる。

・Ｅ期（近世）

調査区中央部に小規模な溝が数条検出されている。出土遺物が乏しく判然としないが、564SD とこれに接する SD195・264SD・565SD・566SD・567SD や、088SD・089SD・119SD・186SD・140SD・205SD・352SD などの溝は、規模や配置状況から有機的関連性を持つ様にも見える。若干の重複が確認できるが、これらを基本的に同時期と理解して、264SD の出土遺物（204・205）に依拠すると、調査区中央部に 19 世紀の区画が想定できる。

区画の南側では２棟の掘立柱建物が検出されているが、このうち 569SB は柱穴（383SK）から 170 が出土している。これを根拠として、この時期に理解しておく。一方、568SB は出土遺物が確認されていないが、分布状況から 569SB と同時期と想定する事も不可能ではない。こうした状況から、この部分には当該期の屋敷地が想定できるのかも知れない。

図 33 は地籍図に調査区の位置を示した図だが、264SD・464SD が畑地と林の境界線と概似する。Ｅ期の遺構のあり方は、19 世紀頃に調査区周辺のやや広い範囲で再開発が試みられた事が想定できる。こうした経緯を経て、明治時代の地籍図の様な景観が形成されたのであろうか。

以上、今回の調査で検出できた遺構の変遷案をまとめた。調査区内では縄文時代から中・近世に至るまで、幾度かの断絶を繰り返しながら遺構の形成が繰り返された事が考えられる。

２　多り畑遺跡の押型文土器

今回実測図を提示した縄文土器は 151 点となる。このうち８点（90 を押型文土器に含めた場合）を除く全てが押型文土器で、115 を除けば 142 点が楕円文を外面に施している。これらは概ね黄島式土器に併行するものと考えられている。

表４は特徴や文様の計測値をまとめたものである。ここではこの表を使用して今回出土した押型文土器を概観する。なお、詳細な分析は村上氏による付論に述べられている。

まず、外面の楕円文の長径と短径を観察する。図 35 ～図 37 は、長径と短径の計測値を並べた。計測値は器面上の計測可能な全ての各楕円文を対象とした破片毎の平均値で、原体の単位数に起因するダブルカウントは考慮していない。図 35 に長径、図 36 に短径の計測値を図示した。長径は 3.0 ～ 4.8㎜、短径は 4.8 ～ 6.8㎜に集中する。次に、これを縦軸に短径、横軸を長径としたグラフで表現すると（図 37）、長径 5.0㎜、短径 3.5㎜あたりと、長径 6.5㎜、短径 4.5㎜あたりの二か所に重心が存在する様にも見える。図 35 に表現する楕円文の長径に注目し、恣意的ではあるが 6.2㎜以下を Ａ類、6.3㎜以上を Ｂ類とする。なお、楕円文は横位が主体となっており、若干含まれる縦位の楕円文と同一の計測方法では問題があるかも知れないが、これらの判別が困難な場合も多くここでは考慮していない。

口縁部付近の内面は櫛状文を施す資料が多い。18・77・78・79 はこれが確認できない。口縁端部が残存する破片で計算すると、出現率は全体の 82％になる。なお、ほとんどが一段となるが、3・39・55・57 はこれが二段確認できる。櫛状文の下方は全ての資料が無文となり、砂粒の移動を伴うヨコナ

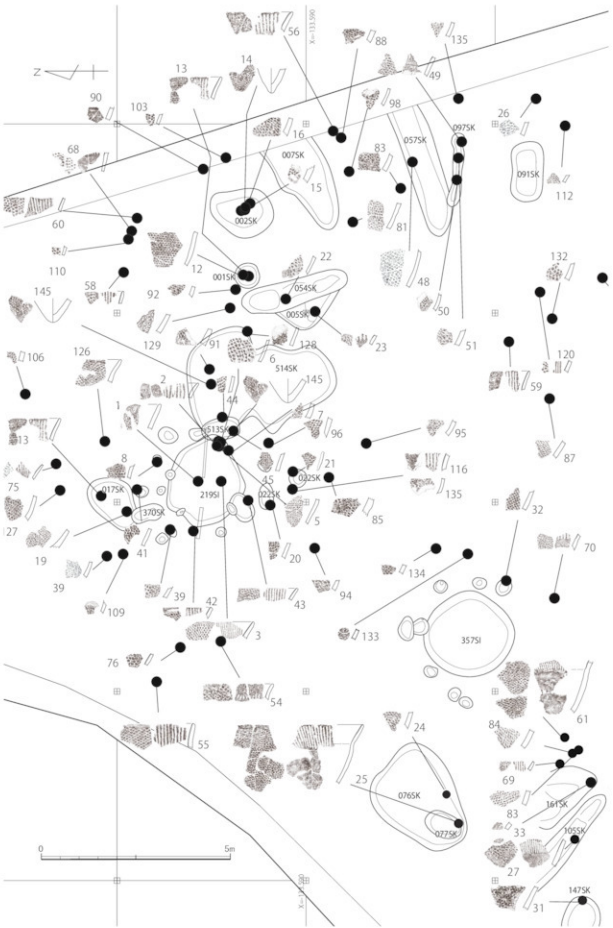
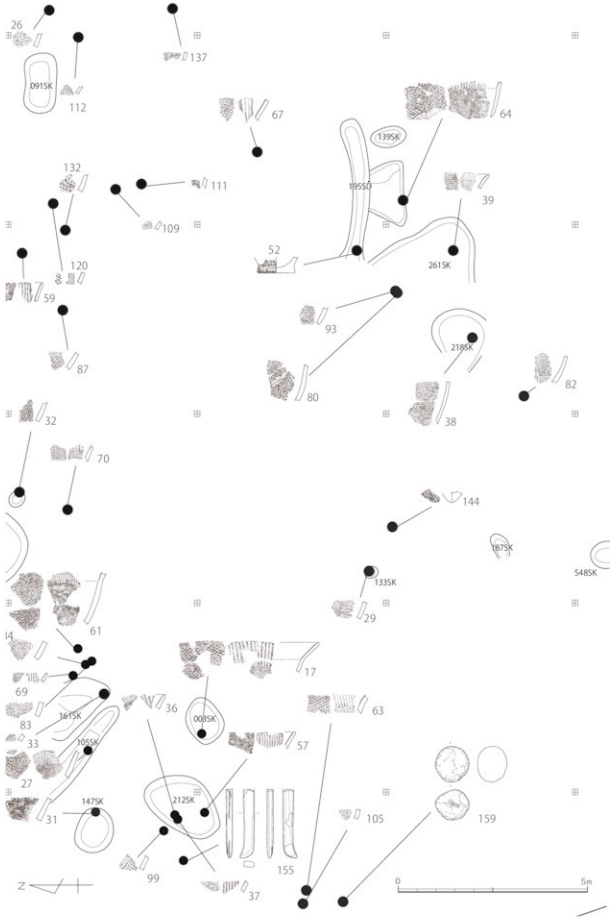


図 34　押型文土器の分布


26
137
091SK
112
67
64
139SK
132
111
105SD
39
109
52
120
261SK
59
93
218SK
87
80
82
32
38
70
144
187SK
548SK
133SK
29
61
17
69
36
63
83
161SK
008SK
33
105SK
57
27
212SK
147SK
31
105
159
99
155
37
Z
0
5m

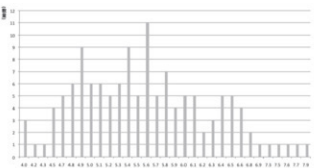


図 35　長径比

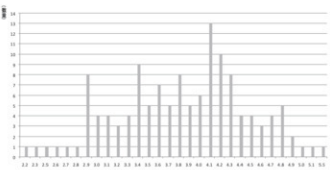


図 36　短径比

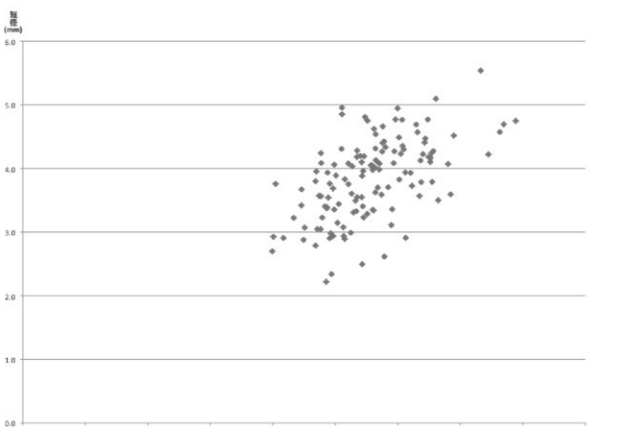


図 37　長・短径比

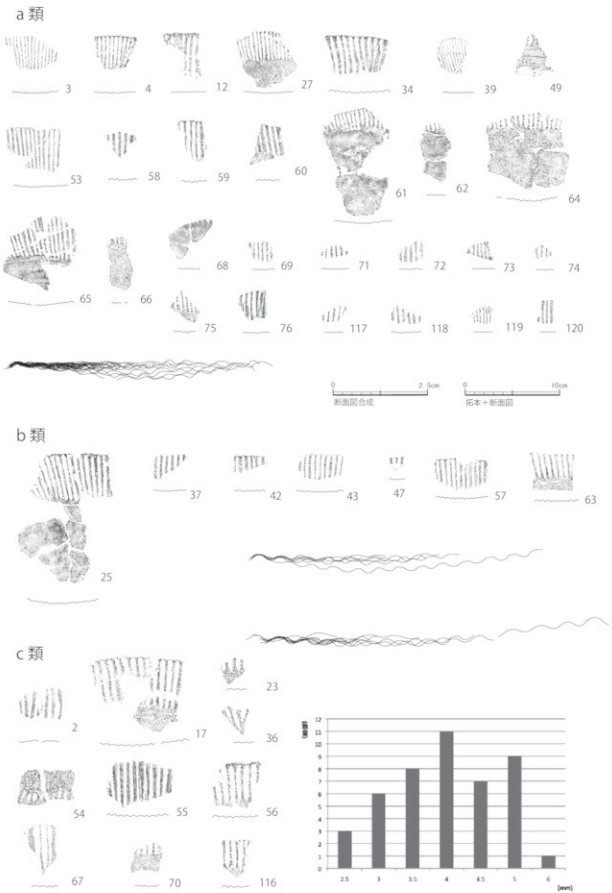


図 38　楯状文断面図　1:4・1:1

表４　押型文土器観察表

図版番号	種別	グリット	遺構	色調	マンセル値	重量(g)	器厚(mm)	繊維	押型文(mm)				柵状(mm)			分類	出土位置			備考
									長径	短径	短径/長径	計測数	幅	深さ	全長(残長)		X	Y	Z	
1	押型文土器	6J18f	219SI	にぶい橙色	7.5YR6/4	32.9	9.0	○	4.85	2.22	0.46	5				A.2i	-133587.163	24925.478	27.372	
2	押型文土器	6J18f	219SI	にぶい黄褐色	10YR5/4	11.7	7.0		-	-	-		5.0	1	(37.0)	Bc1ii	-133587.598	24926.419	27.352	
3	押型文土器	6J18e	219SI	橙色	7.5YR6/6	20.7	9.0		4.87	3.37	0.69	13	2.5	1	(37.5)	Aa2ii	-133587.772	24925.465	27.358	
4	押型文土器	6J18f	219SI	にぶい褐色	7.5YR5/4	18.4	8.5		6.52	4.10	0.63	6	3.5	1	(34.0)	Ba1ii	-133586.577	24924.988	27.35	
5	押型文土器	6J18f	219SI	灰褐色	7.5YR5/2	23.1	7.5		5.45	3.23	0.59	16				A.1ii	-133587.784	24926.448	27.322	
6	押型文土器	6J18f	219SI	黄褐色	10YR5/6	20.2	6.0		7.70	4.69	0.61	9				B.1ii	-133587.689	24926.44	27.395	
7	押型文土器	6J18f	219SI	橙色	7.5YR6/6	9.1	9.5	○	6.32	4.57	0.72	2				B.2i	-133588.029	24926.289	27.426	
8	押型文土器	6J18f	219SI	にぶい橙色	7.5YR6/4	13.7	7.0	○	5.76	4.40	0.76	20				A.1i	-133586.125	24926.07	27.3	
9	押型文土器	6j18g	219SI	灰褐色	7.5YR5/2	1.4			4.69	2.79	0.59	6				A.2i				
10	押型文土器	-	219SI	にぶい黄橙色	10YR7/4	4.8	10.0		0.00	0.00	0.00	0				..2ii				
11	押型文土器	-	219SI	浅黄色	2.5Y7/4	5.1	6.0		3.71	2.37	1.56	3				A.1ii				
12	押型文土器	6J18g	001SK	褐色	7.5YR4/3	22.9	7.0		5.42	4.10	0.76	8	4.0	0.5	(45.0)	Aa1ii	-133588.403	24930.987	27.697	
13	押型文土器	6J18g	001SK	明褐色	7.5YR5/6	64.7	10.0		5.15	3.83	0.74	38				A.2ii	-133588.476	24930.928	27.695	スス年代測定
14	押型文土器	6J18g	002SK	橙色	7.5YR6/6	28.5	11.0	○	5.64	3.62	0.64	6				A.2i	-133588.568	24932.83	27.704	
15	押型文土器	6J18g	002SK	橙色	7.5YR6/6	13.9	12.0	○	7.89	4.75	0.60	4				B.2i	-133588.582	24932.817	27.631	
16	押型文土器	6J18g	002SK	にぶい黄橙色	10YR6/4	25.8	11.0	○	6.54	4.25	0.65	4				B.2i	-133588.343	24932.643	27.741	
17	押型文土器	7J1d	003SK	橙色	7.5YR6/6	50.0	6.0		6.85	3.59	0.52	15	5.0	1.5	52.0	Bc1ii	-133600.111	24916.531	27.503	推定口径39.0cm
18	押型文土器	6J19g	007SK	橙色	7.5YR7/6	16.0	6.0		5.35	4.28	0.80	6				A.1ii	-133590.285	24932.881	27.71	
19	押型文土器	6J18e	017SK	にぶい橙色	7.5YR7/4	25.2	10.0	○	4.68	3.80	0.81	13				A.2i	-133585.285	24924.723	27.382	
20	押型文土器	6J18e	021SK	にぶい褐色	7.5YR6/3	8.8	7.0	○	6.10	4.30	0.71	9				A.1i	-133589.115	24924.861	27.598	
21	押型文土器	6J18f	022SK	にぶい橙色	7.5YR7/4	5.3			5.15	2.89	0.56	4				A.2ii	-133589.682	24925.727	27.54	
22	押型文土器	6J18g	054SK	黄褐色	10YR5/6	12.7	6.0		5.26	3.60	0.68	12				A.1ii	-133589.434	24930.342	27.58	
23	押型文土器	6J19f	055SK	明黄褐色	10YR6/6	5.0	6.5		6.21	3.93	0.63	4	5.0	1	(9.5)	Bc1ii	-133590.265	24929.973	27.416	
24	押型文土器	6J19d	076SK	にぶい橙色	7.5YR6/4	15.4	9.0		5.60	3.98	0.71	5				A.2ii	-133593.735	24917.283	27.421	
25	押型文土器	6J19d	077SK	浅黄橙色	7.5YR8/6	110.5	8.0		4.51	3.07	0.68	53	4.5	1	48.0	Ab1ii	-133594.044	24916.537	27.306	
26	押型文土器	6J20g	091SK	橙色	7.5YR6/6	15.5	8.0	○	6.90	4.52	0.65	8				B.1i	-133595.525	24931.927	27.633	
27	押型文土器	6J20d	105SK	明赤褐色	5YR5/6	43.6	9.5	○	6.53	4.17	0.64	2	3.5	0.5	(31.0)	Ba2i	-133597.15	24915.992	27.401	
28	押型文土器	6j20g	113SK	橙色	7.5YR6/6	5.5	8.0		4.98	3.35	0.67	3				A.1ii				
29	押型文土器	7J1e	133SK	にぶい橙色	7.5YR6/4	20.2	8.5		6.55	3.79	0.58	8				B.1ii	-133604.523	24920.871	27.496	
30	無文土器	7J1g	139SK	明黄褐色	10YR6/6	9.0	5.0									…ii				
31	押型文土器	6J20c	147SK	明赤褐色	5YR5/6	38.9	10.0	○	6.30	4.69	0.75	2				B.2i	-133597.388	24914.416	27.391	
32	押型文土器	6J20e	155SK	にぶい褐色	7.5YR5/4	16.9	9.5		4.91	3.76	0.77	22				A.2ii	-133595.284	24922.939	27.497	
33	押型文土器	6J20d	161SK	明褐色	7.5YR5/6	4.6	8.0		-	-	-	-				B.1ii	-133597.529	24917.604	27.507	
34	押型文土器	7j2f	183SK	褐色	10YR4/4	27.5	7.0		4.79	3.23	0.67	13	4.0	1.5	(41.0)	Aa1ii				
35	押型文土器	7j2e	132SK	にぶい橙色	7.5YR7/4	7.5	8.0		5.27	4.03	0.77	3				A.1ii				
36	押型文土器	6J20c	212SK	褐色	7.5YR4.3	6.5	9.0		-	-	-	-	5.0	1.5	(29.0)	Bc2ii	-133599.422	24914.383	27.406	
37	押型文土器	6J20c	212SK	明褐色	7.5YR5/6	9.2	7.5		5.43	2.49	0.46	7	4.5	1	(15.0)	Ab2ii	-133599.513	24914.198	27.399	
38	押型文土器	7J2f	218SK	にぶい橙色	7.5YR6/4	41.0	7.0		4.77	3.56	0.75	15				A.1ii	-133607.296	24926.961	27.598	
39	押型文土器	7J2f	261SK	橙色	7.5YR6/6	11.2	7.0		5.13	3.08	0.60	6	2.5	0.5	(35.5)二段	Aa1ii	-133606.786	24929.258	27.627	スス年代測定
40	押型文土器	6J18e	373SK	褐色	10YR4/4	10.8	7.0		6.05	4.23	0.70	6				A.1ii	-133586.458	24924.261	27.469	
41	押型文土器	6J18f	370SK	にぶい赤褐色	5YR5/4	9.2	7.0		5.21	4.08	0.78	6				A.1ii	-133585.571	24925.231	27.382	
42	押型文土器	6J18e	375SK	橙色	5YR6/6	6.6	7.5		4.76	3.04	0.64	15	4.5	1.5	(19.0)	Ab1ii	-133587.075	24924.156	27.523	
43	押型文土器	6J18f	376SK	にぶい黄橙色	10YR7/4	12.4	6.5		6.12	3.94	0.64	10	4.5	1	(28.5)	Ab1ii	-133588.519	24924.945	27.378	
44	押型文土器	6J18f	513SK	橙色	7.5YR6/6	7.0	6.0		4.05	3.76	0.93	8				A.1ii	-133587.891	24927.079	27.28	
45	押型文土器	6J18f	513SK	浅黄色	2.5Y7/3	10.3	7.0		4.71	3.05	0.65	23				A.1ii	-133588.112	24926.908	27.326	
46	押型文土器	6j18f	514SK	にぶい黄褐色	10YR5/4	48.1	8.0	○	5.80	4.33	0.75	10				A.1i				
47	押型文土器	7j3e	548SK	にぶい橙色	7.5YR7/4	1.6	6.5		5.52	4.75	0.86	2	4.5	1.5	(7.0)	Ab1ii				
48	押型文土器	6J19g	057SD	褐色	10YR4/4	46.0	8.0		6.00	4.95	0.82	30				A.1ii	-133592.813	24933.939	27.629	
49	押型文土器	6J19g	097SD	にぶい黄橙色	10YR7/3	14.2	8.0		4.86	3.39	0.70	7				Aa1ii	-133594.029	24934.033	27.615	
50	押型文土器	6J19g	097SD	橙色	5YR7/6	7.4	7.0		4.96	3.69	0.74	7				A.1ii	-133594.014	24933.482	27.531	スス年代測定
51	押型文土器	6J19g	097SD	橙色	7.5YR6/6	13.8	9.5	○	5.76	4.66	0.81	1				A.2i	-133594.255	24934.58	27.549	
52	縄文土器	7J1f	195SD	橙色	7.5YR6/6	145.7	11.0									..2ii	-133604.211	24929.259	27.597	平底
53	押型文土器	6J18g	検1	にぶい褐色	7.5YR5/4	30.3	9.0		5.74	3.59	0.63	15	3.0	1	(45.5)	Aa2ii	-133587.867	24932.354	27.608	
54	押型文土器	6J18e	検1	にぶい黄褐色	10YR4/3	21.4	6.5		5.14	2.94	0.57	9				Ac1ii	-133587.75	24921.216	27.321	
55	押型文土器	6J18e	検1	にぶい橙色	7.5YR6/4	41.1	10.0		6.40	4.22	0.66	43	5.0	1.5	(51.0)	Bc2ii	-133586.035	24920.137	27.342	
56	押型文土器	6J19g	検1	浅黄色	2.5Y7/4	20.6	9.5		-	-	-	-	5.0	1.5	38.5	Bc2ii	-133590.742	24934.834	27.734	
57	押型文土器	7J1c	検1	橙色	7.5YR7/6	18.5	7.0	○	5.75	4.27	0.74	4	4.5	1	(32.5)	Ab1i	-133600.186	24914.479	27.441	
58	押型文土器	6J18g	検1	明褐色	7.5YR5/6	5.4	6.0		5.62	4.62	0.82	4	4.0	1.5	(28.0)	Aa1ii	-133585.09	24931.048	27.66	
59	押型文土器	6J20f	検1	黄橙色	7.5YR7/8	8.9	6.5	○	-	-	-	-	4.0	1.5	(43.5)	Ba1i	-133595.376	24929.25	27.675	
60	押型文土器	6j18g	検1	明黄褐色	10YR6/6	6.0	6.5		5.65	4.54	0.80	6	4.0	1	(30.0)	Aa1ii				

図版番号	種別	グリット	遺構	色調	マンセル値	重量(g)	器厚(mm)	繊維	押型文（mm）				雛状（mm）			出土位置			備考
									長径	短径	短径/長径	計測数	幅	深さ	全長（残長）	分類	X	Y	Z	
61	押型文土器	6J20d	検１	にぶい黄橙色	10YR6/3	100.4	11.0		5.51	3.29	0.60	55	3.5	0.5	(20.0)	Aa2ii	-133586.799	24918.72	27.504	
62	押型文土器	6q18g	検１	暗褐色	10YR3/3	36.6	9.0		5.45	3.96	0.73	17	3.0	0.5	(9.0)	Aa2ii				
63	押型文土器	7J1c	検１	橙色	7.5YR6/6	31.6	10.0		5.85	3.71	0.63	27	4.5	1	(22.0)	Ab2ii	-133602.888	24912.438	27.373	
64	押型文土器	7J2g	検１	橙色	5YR7/8	69.7	7.5		4.49	2.88	0.64	41	4.0	1.5	(12.0)	Aa1ii	-133605.505	24930.618	27.625	
65	押型文土器	6J18g	検１	褐色	10YR4/4	60.3	9.5		6.02	3.83	0.63	10	3.0	1	(31.0)	Aa2ii	-133587.24	24930.978	27.684	
66	押型文土器	7g1f	検１	にぶい橙色	7.5YR7/4	17.2	9.0		5.04	3.15	0.62	2	4.0	1	(8.5)	Aa2ii				
67	押型文土器	7J1g	検１	橙色	7.5YR7/6	15.3	8.5		7.63	4.57	0.60	4	6.0	1.5	(46.0)	Bc1ii	-133601.615	24931.92	27.622	
68	押型文土器	6J18g	検１	にぶい橙色	7.5YR6/4	12.5	7.5		5.43	3.89	0.72	6	3.5	1	(8.0)	Aa1ii	-133585.385	24932.136	27.664	
69	押型文土器	6J20d	検１	にぶい橙色	7.5YR6/4	4.3	6.5		5.44	3.41	0.63	2	3.5	1	(21.0)	Aa1ii	-133596.801	24918.138	27.519	
70	押型文土器	6J20e	検１	明褐色	7.5YR5/6	11.5	7.5		4.94	2.34	0.47	30	5.0	1	(11.5)	Ac1ii	-133598.905	24921.87	27.481	
71	押型文土器	6q18f	検１	明褐色	7.5YR5/6	3.4	7.5		5.11	4.96	0.97	3	3.0	1	(13.0)	Aa1ii				
72	押型文土器	6q18f	検１	褐色	7.5YR4/6	6.9	8.0		5.32	3.49	0.66	5	3.5	1	(20.0)	Aa1ii				
73	押型文土器	6q20d	検１	明褐色	7.5YR5/6	3.3	6.5		6.61	5.10	0.77	2	2.5	0.5	(19.5)	Ba1ii				
74	押型文土器	6q18i	検１	橙色	7.5YR6/6	2.8	7.0		6.44	4.47	0.69	1	3.5	0.5	(16.0)	Ba1ii				
75	押型文土器	6J17f	検１	にぶい黄橙色	10YR6/4	4.7	6.0		5.63	4.01	0.71	5	4.0	1	(24.0)	Aa1ii	-133583.4	24928.018	27.345	
76	押型文土器	6J18e	検１	にぶい褐色	7.5YR6/3	8.7	8.0		6.07	4.77	0.79	2	5.0	1	(29.0)	Aa1ii	-133586.652	24921.165	27.381	
77	押型文土器	6q19g	検１	にぶい黄色	2.5Y6/4	27.1	11.0		6.36	4.13	0.65	26	-	-	-	B,2ii				
78	押型文土器	6q11g	検１	明褐色	7.5YR5/6	11.6	6.5		5.34	3.33	0.62	5	-	-	-	A,1i	-133591.137	24933.881	27.743	
79	押型文土器	6q18f	検１	明褐色	7.5YR5/6	3.3	5.5	○	5.93	4.08	0.69	3	-	-	-	A,1i				
80	押型文土器	7J2f	検１	褐色	7.5YR4/6	52.3	9.5	○	4.93	2.98	0.60	26	-	-	-	A,2i	-133605.318	24928.197	27.596	
81	押型文土器	6J19g	検１	橙色	5YR6/6	25.3	8.0	○	5.25	2.99	0.57	15	-	-	-	A,1i	-133591.249	24932.423	27.666	
82	押型文土器	7J2f	検１	橙色	7.5YR6/6	22.3	7.5		5.29	3.31	0.63	14	-	-	-	A,1i	-133609.034	24925.063	27.611	
83	押型文土器	6J20d	検１	にぶい黄褐色	10YR5/4	23.2	10.0		6.13	2.91	0.47	24	-	-	-	A,2ii	-133597.242	24918.408	27.533	
84	押型文土器	6J20d	検１	にぶい褐色	10YR6/3	30.2	10.5		5.90	3.11	0.53	11	-	-	-	A,2ii	-133597.067	24918.373	27.528	
85	押型文土器	6J19f	検１	橙色	7.5YR7/6	28.6	14.0		6.81	4.07	0.60	4	-	-	-	B,2i	-133590.66	24925.529	27.531	
86	押型文土器	6J19g	検１	明赤褐色	5YR5/6	21.5	10.0	○	5.78	4.43	0.77	6	-	-	-	A,2i	-133592.511	24933.246	27.738	
87	押型文土器	6J20f	検１	にぶい褐色	7.5YR5/3	15.6	9.0		4.91	2.90	0.59	12	-	-	-	A,2ii	-133596.413	24927.709	27.608	
88	押型文土器	6J19g	検１	明褐色	7.5YR5/6	15.9	10.0	○	6.35	3.57	0.56	3	-	-	-	B,2i	-133590.951	24934.642	27.754	
89	押型文土器	6J17e	検１	にぶい黄褐色	10YR5/4	10.7	7.5	○	5.60	3.35	0.60	3	-	-	-	A,1i	-133584.675	24923.514	27.357	
90	押型文土器	6J18g	検１	明黄褐色	10YR6/6	10.8	9.0		-	-	-	-	-	-	-	,2ii	-133587.3	24933.757	27.773	無文土器の可能性
91	押型文土器	6J18f	検１	明赤褐色	5YR5/6	22.2	10.0		6.43	4.41	0.69	4	-	-	-	B,2ii	-133587.494	24928.458	27.481	
92	押型文土器	6J18g	検１	にぶい褐色	7.5YR5/4	9.1	8.0		5.57	4.05	0.73	1	-	-	-	A,1i	-133588.192	24930.618	27.573	
93	押型文土器	7J2f	検１	赤褐色	2.5YR5/6	14.8	9.0		5.65	4.13	0.73	5	-	-	-	A,2i	-133605.254	24928.232	27.573	
94	押型文土器	6J19e	検１	橙色	7.5YR6/6	9.2	9.0	○	5.70	3.98	0.70	3	-	-	-	A,2i	-133590.24	24923.672	27.537	
95	押型文土器	6J19f	検１	明赤褐色	5YR5/6	12.5	9.0		5.95	4.27	0.72	2	-	-	-	A,2i	-133591.729	24926.601	27.526	
96	押型文土器	6J18f	検１	にぶい橙色	7.5YR6/4	14.9	9.0	○	5.91	3.36	0.57	5	-	-	-	A,2i	-133589.049	24926.488	27.554	
97	押型文土器	6q17e	検１	橙色	7.5YR6/6	16.3	8.0		6.02	4.49	0.75	4	-	-	-	A,1ii				
98	押型文土器	6J19g	検１	明褐色	7.5YR5/6	16.0	6.0		5.68	3.70	0.65	4	-	-	-	A,1ii	-133591.185	24933.749	27.748	
99	押型文土器	6J20c	検１	褐色	7.5YR4/4	12.3	8.0		5.42	3.55	0.65	4	-	-	-	A,1ii	-133599.167	24913.908	27.4	
100	押型文土器	6q20c	検１	にぶい橙色	7.5YR6/4	11.4	8.5		6.57	4.27	0.65	3	-	-	-	B,1ii				
101	押型文土器	6q19e	検１	にぶい黄橙色	10YR6/4	8.8	6.0		6.05	3.50	0.53	3	-	-	-	B,1ii				
102	押型文土器	6q18f	検１	橙色	7.5YR6/6	5.4	7.0		6.38	3.79	0.59	2	-	-	-	B,1ii				
103	押型文土器	6J18g	検１	明褐色	7.5YR6/6	4.6	6.0		5.01	3.89	0.78	2	-	-	-	A,1ii	-133587.96	24934.022	27.697	
104	押型文土器	7J4f	検１	褐色	10YR4/4	3.9	8.0		6.08	4.35	0.72	3	-	-	-	A,1ii	-133618.178	24925.491	27.415	
105	押型文土器	7J1c	検１	橙色	7.5YR6/6	7.8	8.0		-	-	-	-	-	-	-	~ii	-133602.823	24911.98	27.543	
106	押型文土器	6J17f	検１	明赤褐色	5YR5/8	5.6	9.5		4.46	3.67	0.82	1	-	-	-	A,2ii	-133582.587	24927.826	27.46	
107	押型文土器	6J18e	検１	にぶい黄褐色	10YR5/4	6.2	6.5		5.06	3.44	0.68	2	-	-	-	A,1ii	-133585.179	24923.56	27.375	
108	押型文土器	6q19g	検１	橙色	7.5YR6/6	5.0	8.0		5.79	2.62	0.45	2	-	-	-	A,1ii				
109	押型文土器	6J20e	検１	にぶい黄褐色	10YR5/4	4.2	7.0		-	-	-	-	-	-	-	~ii	-133597.798	24930.939	27.642	
110	押型文土器	6J18g	検１	黄橙色	7.5YR7/8	3.2	6.0		4.98	4.06	0.81	3	-	-	-	A,1ii	-133585.348	24933.877	27.657	
111	押型文土器	6J20g	検１	橙色	7.5YR6/6	5.1	8.0		6.23	3.73	0.60	3	-	-	-	B,1ii	-133598.545	24931.022	27.467	
112	押型文土器	6J20e	検１	にぶい橙色	7.5YR7/4	5.1	6.0		4.17	2.91	0.70	3	-	-	-	A,1ii	-133596.837	24934.917	27.64	
113	押型文土器	7J1g	検１	褐色	5YR6/6	4.4	6.5		-	-	-	-	-	-	-	~ii				
114	押型文土器	6q18e	検１	橙色	7.5YR7/6	2.0			4.97	2.94	0.59	4	-	-	-	A,2ii				
115	押型文土器	6q20g	検１	浅黄橙色	7.5YR8/4	7.6	8.0		-	-	-	-	-	-	-	~ii				山形
116	押型文土器	6J18f	検１	にぶい橙色	7.5YR6/4	13.1	9.0		7.45	4.22	0.57	1	5.0	1.5	(31.5)	Bc2ii	-133589.725	24925.313	27.419	
117	押型文土器	7J1g	検１	にぶい橙色	7.5YR6/4	4.4	8.0		5.21	3.75	0.72	3	4.0	1	(15.5)	Aa1ii				
118	押型文土器	6q18f	検１	にぶい橙色	7.5YR6/4	2.8	4.5		4.77	4.24	0.89	2	4.0	1	(18.0)	Aa1ii				
119	押型文土器	6q18f	検１	明褐色	7.5YR5/6	3.5	6.5		5.71	4.08	0.71	3	3.0	0.5	(20.0)~ii	Aa1ii				
120	押型文土器	6J20g	検１	明褐色	7.5YR5/6	5.0	8.0		4.88	3.93	0.81	3	3.0	0.5	(24.0)	Aa1ii	-133596.17	24930.435	27.467	
121	押型文土器	6q16g	検１	橙色	7.5YR6/6	20.2	9.5		5.64	4.31	0.76	29	-	-	-	A,2ii				
122	押型文土器	7J2f	検１	にぶい赤褐色	5YR5/4	8.3	7.0		5.10	4.31	0.84	4	-	-	-	A,1ii				
123	押型文土器	6q16g	検１	橙色	7.5YR6/6	9.6	7.0		4.83	3.40	0.70	3	-	-	-	A,1ii				

図版番号	種別	グリット	遺構	色調	マンセル値	重量(g)	器厚(mm)	繊維	押型文(mm)				柵状(mm)			分類	出土位置			備考
									長径	短径	短径/長径	計測数	幅	深さ	全長(残長)		X	Y	Z	
124	押型文土器	6j20g	検1	浅黄橙色	7.5YR8/6	9.3	7.5		4.33	3.22	0.74	13				A.1ii				
125	押型文土器	6j16g	検1	にぶい褐色	7.5YR5/4	22.4	7.5		5.48	4.81	0.88	28				A.1ii				
126	押型文土器	6J17f	検2	橙色	5YR7/8	27.3	8.0		5.61	3.34	0.60	30				A.1ii	-133584.666	24926.622	27.255	
127	押型文土器	6J17f	検2	にぶい黄色	2.5Y6/3	20.9	8.0		5.46	4.19	0.77	18				A.1ii	-133583.477	24925.35	27.202	
128	押型文土器	6J18f	検2	橙色	7.5YR6/6	12.4	6.5		5.96	4.77	0.80	3				A.1ii	-133588.462	24929.44	27.396	
129	押型文土器	6J18g	検2	黄褐色	10YR5/8	14.8	9.0		4.74	3.57	0.75	4				A.2ii	-133587.997	24930.129	27.432	
130	押型文土器	6J18f	検2	橙色	7.5YR7/6	11.6	6.0	○	4.01	2.93	0.73	3				A.1i	-133589.725	24925.313	27.419	
131	押型文土器	6J18f	検2	灰褐色	7.5YR6/2	6.8	8.0		4.46	3.42	0.77	4				A.1ii	-133585.216	24928.102	27.444	
132	押型文土器	6J20g	検2	橙色	7.5YR6/6	15.8	9.5	○	7.33	5.54	0.76	9				B.2i	-133596.501	24929.863	27.487	
133	押型文土器	6J19e	検2	橙色	7.5YR6/6	4.8	8.0		-	-	-	-				…ii	-133594.332	24923.64	27.336	
134	押型文土器	6J19e	検2	褐色	7.5YR4/6	7.2	8.0		5.35	3.55	0.66	10				A.1ii	-133593.355	24923.767	27.339	
135	押型文土器	6J19h	検2	橙色	7.5YR7/6	6.5	7.5		5.35	4.18	0.78	7				A.1ii	-133594.001	24935.675	27.592	
136	押型文土器	6j18g	検2	にぶい黄橙色	10YR6/4	5.0	5.5		4.70	3.95	0.84	7				A.1ii				
137	押型文土器	6J18f	検2	にぶい黄橙色	10YR7/4	6.2	6.0		4.89	3.54	0.72	11				A.1ii	-133599.401	24935.67	27.3	
138	押型文土器	6j19f	検2	明褐色	7.5YR5/6	5.3	7.0		6.48	4.77	0.74	1				B.1ii				
139	押型文土器	6j19g	検2	橙色	5YR6/6	4.7	10.0	○	5.40	4.20	0.78	3				A.2i				
140	押型文土器	6j16g	検2	明褐色	7.5YR5/6	3.5	7.5		5.11	4.85	0.95	4				A.1ii				
141	押型文土器	6J19f	検2	にぶい黄橙色	10YR6/4	5.5	7.0		5.67	4.11	0.72	4				A.1ii	-	-	-	
142	押型文土器	6J20h	検2	浅黄色	2.5Y7/3	17.7	9.0		3.99	2.70	0.68	22				A.2ii	-	-	-	
143	押型文土器	6j20h	検2	黄橙色	7.5YR7/8	11.7	9.0		-	-	-	-				..2ii				
144	押型文土器	7J2e	検2	橙色	7.5YR6/6	21.5	10.0		4.78	4.09	0.86	4				A.2ii	-133605.188	24921.972	27.352	
145	押型文土器	6J18f	検2	明褐色	7.5YR5/6	32.3	10.0		6.49	4.18	0.64	3				B.2ii	-133587.498	24928.074	27.398	
146	撚糸文土器	6J20h	検2	にぶい黄橙色	10YR7/4	13.4	8.0										-133596.006	24935.64	27.556	
147	撚糸文土器	6j20h	検2	にぶい黄橙色	10YR7/4	17.5	8.0													
148	無文土器	7J2f	検1	黄褐色	10YR5/8	12.9	8.0													
149	条痕文土器	6J19h	検1	明褐色	7.5YR5/6	9.3	7.0													
150	条痕文土器	-	検1	明赤褐色	5YR5/6	12.0	8.0													
151	条痕文土器	6J18f	検1	黄褐色	10YR5/6	5.2	7.0													

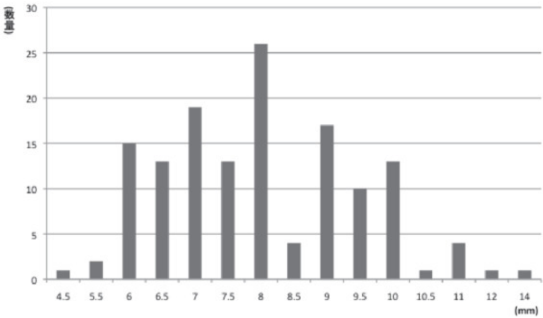


図39　器壁

デ調整または、通常の横ナデ調整を施す。

櫛状文の幅を計測すると、2.5㎜～ 6.0㎜となる。図 38 には櫛状文の計測値のグラフと、拓本と直交する断面図（49・54 は残存状況の関係で図示していない）を並べた。櫛状文の幅は 2.5㎜となる 3・39・73 から、6.0㎜となる 67 までバラツキが存在する。幅 4.5㎜で若干数値が下がるので、これを中グループとして三区分したが厳密なものではない。幅の広いものから順に a 類（上段）、b 類（中段）、c 類（下段）とする。

櫛状文は基本的に縦方向となる。全長が計測できる資料は乏しく、b 類の 25 が全長 48㎜、c 類の 17 が 52㎜、56 が 38㎜となる。a 類は全長が計測できる資料を得ていないが、幅が広くなると全長も長くなる傾向が窺えるのかも知れない。

器壁は図 39 にまとめた。幅 8.5㎜で大きく二分できる傾向にある。8.5㎜以下を 1 類、9㎜以下を 2 類とする。胎土の繊維は幾分主観的となるが、確実に確認できた資料は 19％となる。これを i 類、未確認となる資料を ii 類とする。

以上の状況を整理すると、楕円文 A 類は、櫛状文の a 類・b 類が多く c 類は少ない、器壁は 1 類が 2 類のほぼ 2 倍、胎土の繊維混和は ii 類が i 類の 4 倍となる。楕円文 B 類は、櫛状文の c 類が多いが a 類も含まれ、器壁は 1 類と 2 類はほぼ同数、胎土の繊維混和は ii 類が i 類の 3 倍となる。つまり、小さな楕円文は幅が狭い櫛状文が多く、器壁は薄く、胎土の繊維混和率は 25％程度。一方、大きな楕円文は幅の広い櫛状文が多くなり、器壁が厚い資料が増加し、胎土の繊維混和率も増加する傾向が確認できる。

参考文献

小林達雄編　2008『総覧　縄文式土器』 株式会社アム・プロモーション
関西縄文文化研究会　2011『押型文土器の諸相』 第十二回研究会発表要旨集・資料集

3 総 括

今回の調査では、まず縄文時代早期の遺構・遺物が注目できる。遺構は竪穴建物と報告する遺構が2基と、若干の土坑が確認されたのみだが、出土遺物は押型文土器が主体となり、比較的まとまりの良い資料となる。一方、石器類は乏しい。さらに、全てが早期とは言い難い状況ではあるが、内容的には磨石叩石類が主体となる。なお、219SIの埋土は調査時に3㎜のフルイをかけたが、小型の石器などは確認されなかった。

次に、古墳時代後期では竪穴建物が1棟検出されている。神郷遺跡群中ではこの時代の竪穴建物が幾つか確認されており、古墳時代中期～後期の小規模な居住域が点在する状況を想定できるのかもしれない。

中・近世は資料が乏しい。中世前期では、小規模な土坑群が分布するエリアに、破片加工が施された山茶碗の底部片が点在する状況を関連させて考え、近世では溝による小区画とこれに伴う屋敷地を想定した。

以上、今回の調査成果をまとめた。前述した様に、多り畑遺跡の今回の調査区では縄文時代から中・近世に至るまで、断絶を繰り返しながら遺構が形成されている。しかし、こうした状況は近接する石巻山の裾野に点在する遺跡の動向と連動するはずで、周辺の調査事例が進んだ段階で再検討が必要である事は言うまでもないだろう。

図40　調査区の現状

付論　多り畑遺跡出土の押型文土器の検討

1　はじめに

多り畑遺跡出土の縄文土器は、外面の密接施文された楕円文と口縁部内面の櫛状文を特徴とする早期の押型文土器が主体を占める。櫛状文を有することから、これらの土器は、瀬戸内地域を中心に分布する黄島式との類似性が強いと言える。その中でも、櫛状文が上下2段になるものや、長いものがあり、黄島式の終末段階の特徴に近いと言える（久保 1991、矢野 1997）。

その一方、多り畑遺跡出土の押型文土器には器壁の厚さが7㎜以上の厚手のものが多く、胎土に繊維痕が認められる等、黄島式とは異なる特徴が認められる。このような、黄島式に似た特徴を持ちながらも相違が認められる、多り畑遺跡の押型文土器の位置付けについて検討する。

2　愛知県における押型文土器の概要

早期前葉の愛知県域では、沿岸部を中心にネガティブな押型文土器が散見される。ただし、現在までのところ、ネガティブな押型文土器の内、早期初頭の大鼻式の確実な資料は確認されず、大川式以降の資料が確認されている。大川式より古く位置付けられる資料として、東三河地域を中心に、草創期末～早期初頭の表裏縄文土器や大振りな撚りの撚糸文土器が確認されている（豊橋市・眼鏡下池北遺跡、岩瀬 2008、宮原ほか 2013 など、第1図2・3）。ほぼ同時期の資料は、静岡県浜松市の中通遺跡においても確認されている（武田ほか 2012、第1図1・4）。これに続く大川式古段階～新段階まで早期前葉の資料は、新城市の萩平遺跡、豊橋市の眼鏡下池北遺跡・東原遺跡・嵩山蛇穴などで散見される（愛知県史編さん委員会編 2002、岩瀬 2008、愛知大学考古学研究会 1983、岩瀬 1993、など、第1図8・10～12、第2図）。なお、少なくとも東三河地域では、大川式に撚糸文土器が伴うと考えられる（村上 2011・2014、第1図9）。一方、尾張地域・知多地域では、名古屋市の旧葉川遺跡（伊藤・川合 1993）、南知多町の小鰐島遺跡（山下編 1980）で、ネガティブな押型文土器が出土している。大川式の後、神宮寺式、神並上層式と続いた後、山形文が多用される時期へと続く。近年、熊谷博志は山形文が多用される時期の土器を北白川廃寺下層式として型式設定している（熊谷 2011 ほか）。この時期、愛知県では神宮寺式の明確な資料が稀薄である。その後、中部高地を中心に分布する細久保式や、北白川廃寺下層式が分布すると思われるが、資料は少なく不明な点が多い。

北白川廃寺下層式あるいは細久保式の後、愛知県では、外面に楕円文が施され、口縁部内面に櫛状文を持つ黄島式に似た特徴を持つ土器が分布する。ここで、黄島式の特徴を以下のように整理しておく（兵頭 2008）。

①外面に山形文や楕円文を施す。
②口縁部内面に櫛状文を有する。
③比較的薄手である（器壁が5㎜前後のものが多い）。
④胎土に雲母などの砂粒の混入が多く見られるが、混和材などは認められない。
⑤器形は尖底で、口縁部は直線的に開くか、やや外反する。

この中でも、多り畑遺跡の主体を占めるものとの類似性が強い黄島式終末段階のものについては、次のような特徴が見られる。

⑥口縁部内面に長く櫛状文が施され、中には上下２段になるものがある。
⑦外面の楕円文の施文方向に斜位のものが見られ、施文方向が不規則となる。
⑧無文土器が少ない。

愛知県内では、多り畑遺跡の他、豊田市の則定本郷Ｂ遺跡（鈴木 1995、新修豊田市史編さん専門委員会編 2013）から、外面に楕円文が施され、口縁部内面に櫛状文を有する黄島式類似の土器が出土している（第３図４・12 ～ 15）。櫛状文が長いか上下２段になる点や、器壁の厚さが７㎜を超えるものが主体である点は、多り畑遺跡のものと共通する。結論を先取りして言えば、これらの資料は、黄島式終末段階に併行すると考えられる。名古屋市中区の旧紫川遺跡（伊藤・川合 1993）でも、口縁部内面に櫛状文様の施文がされた個体が出土している（第３図 24）。櫛状文様の施文は断面がかまぼこ状で、深さは２㎜程である。口縁部が大きく開き、口径が大きくなる可能性がある。そのため、旧紫川遺跡出土のものは、次の高山寺式とする方が良いかもしれない。

黄島式の次に位置付けられるのは、高山寺式である。高山寺式は、小牧市の織田井戸遺跡、南知多町の先苅貝塚、豊川市の天井平遺跡等（中嶋 1983、山下編 1980、前田・桑原将人 2009、第３図 27）、愛知県でも類例が多数報告されている。黄島式に類似する土器の後、高山寺式が愛知県に広く分布することがわかる。

３　多り畑遺跡の押型文土器の分類と編年上の位置付け

（１）分類

多り畑遺跡から出土した外面に楕円文が施された押型文土器を、以下のように分類する。番号は報文中の図 15 ～ 21 に対応する。

Ⅰ類：口縁部内面に櫛状文を持たないもの。
　ａ類：口縁部が強く外反し、口縁端部を面取り状にナデるもの（78・79）。
　ｂ類：口縁部が直線的に開くもの（１）。
Ⅱ類：口縁部内面に櫛状文を持つもの。
　ａ類：口縁部が外反し、口縁端部を面取り状にナデるもの（該当なし）。
　ｂ類：直線的に開く、もしくは緩やかに外反するもの。
　　ｂ1 類：櫛状文が細く、上下２段になるもの（３・39）。
　　ｂ2 類：櫛状文が太く、上下２段になるもの（55・57）。
　　ｂ3 類：櫛状文が太く、１段で長いもの（２・４・12・17 など）。

（２）Ⅱ類の編年上の位置づけ

上記の分類の内、主体を占めるのは、Ⅱｂ３類である。Ⅱｂ３類には、上記の他に、胎土に繊維痕が見られる、胎土に砂粒が多い、器壁が７㎜以上と厚手である、外面の楕円文の施文方向が縦あるいは横方向のものが目立つ、内面の櫛状文の下に楕円文の施文が認められないという特徴がある。また、櫛状文についても、浅く、断面がかまぼこ形であるという特徴を持つ。

Ⅱｂ２類はⅡｂ３類と後述するⅡｂⅠ類の中間的な特徴を有する。櫛状文が上下２段になるが、つなぎ目が不明瞭で目立たない。これ以外の特徴は、Ⅱｂ３類と変わらない。Ⅱｂ２・３類とよく似た特徴を有する資料として、豊田市の則定本郷Ｂ遺跡から出土した口縁部内面に櫛状文を有する一群が挙げられる（鈴木 1995、新修豊田市史編さん専門委員会編 2013、第３図４・12 ～ 15・21 ～ 23）。則定本郷Ｂ遺跡第Ⅲ層～第Ⅴ層上部から出土した押型文土器には、格子目文やネガティブ楕円文等が施された

ものが見られることから（第３図８・16～18）、時期幅があると思われる。しかしながら、外面に楕円文が密接施文され、口縁部内面に櫛状文が施されたものが多く報告されており、これらが主体を占めると思われる。櫛状文については、幅広で浅く、上下２段になっているものが複数認められる。則定本郷Ｂ遺跡の櫛状文を有する土器は、器壁の厚さが８㎜程と厚く、胎土に砂粒が目立つ点は多り畑遺跡Ⅱｂ２・３類と共通する。しかしながら、胎土に繊維痕が見られない点が異なる。

これに対し、Ⅱｂ１類は、胎土に砂粒が目立たない。また、Ⅱｂ１類の櫛状文は細くシャープである。細くシャープな櫛状文はは、Ⅱｂ２・３類と比べると、古手の特徴と考えられる（註１）。櫛状文が長大化していくこと考えると、【Ⅱｂ１類→Ⅱｂ２類→Ⅱｂ３類】と変化すると考えられる。ただし、Ⅱｂ２類とⅡｂ３類については、ほとんど時期差がない可能性がある。両者が顕著な時期差を有しているかどうかは、更に検討が必要である。

以上から、Ⅱｂ１・２・３類は、櫛状文の特徴が黄島式終末段階のものとの類似性が強く、時期差があるものの、概ね黄島式終末段階に併行するものと考えられる。

（３）Ⅰ類の編年上の位置づけ

Ⅰ類も器壁が７㎜を超え、外面の楕円文の施文方向に縦あるいは横方向のものが目立つ点は、Ⅱｂ類と共通する。編年上の位置付けに関しては、黄島式に続く高山寺式が愛知県内に分布することから、Ⅱｂ類よりも新しく位置付けることは難しい。したがって、Ⅱｂ類に併行するか、先行すると考えられる。ただし、前述したように、愛知県における黄島式類似の土器（Ⅱｂ類）より前の様相については不明な点が多い。

Ⅰａ類については、強く外反する口縁部形態と口縁端部をナデて平坦にする手法から、Ⅰｂ・Ⅱｂ類よりも古く位置付ける意見がある（註２）。しかしながら、筆者自身は判断材料を持ち合わせないため、判断を保留する。

Ⅰｂ類類似の事例としては、豊田市の桑和田町北貝戸遺跡第２号竪穴建物跡出土の土器や、設楽町の大根平遺跡・星野新田遺跡出土の土器が挙げられる（愛知県史編さん委員会 2002、新修豊田市史編さん専門委員会編 2013、第４図）。この内、桑和田町北貝戸遺跡第２号竪穴建物跡出土の土器（第４図15～19）は、器壁の厚さが８～９㎜と厚手で、外面に密接施文された楕円文の施文方向が縦あるいは横方向である点がⅠｂ類と共通する。また、Ⅰｂ類の胎土には繊維痕が認められるが、桑和田町北貝戸遺跡のものも胎土に繊維痕が認められる。桑和田町北貝戸遺跡第２号竪穴建物跡からは、口縁部内面に櫛状文を持つものなど、異なる形態の土器は報告されていないことから、一括性は高いと考えられる。

以上から、黄島式終末段階に併行する時期より前に、愛知県内では口縁部内面に櫛状文を持たない一群が存在したと考えて良いだろう。少なくともⅠｂ類は、Ⅱｂ類よりも古手の特徴を有していると考えられる。では、多り畑遺跡のⅠｂ類を、桑和田町北貝戸遺跡第２号竪穴建物跡出土の土器と同時期のものと見做して良いかと言えば、そうとも言い切れない。桑和田町北貝戸遺跡のものは、Ⅰｂ類よりも楕円文が小振りである点が異なる。また、Ⅰｂ類は、219ＳＩにおいてⅡｂ１・３類と共に出土している。少なくとも、出土状況からは、Ⅱｂ類と時期差を導き出すことは出来ない。Ⅰｂ類とⅡｂ類の違いが時期差を示す有意な差であるかは、今後の課題である。

（４）編年上の位置づけ

多り畑遺跡出土の押型文土器について、編年上の位置付けをまとめたい。多り畑遺跡では、少なくとも、Ⅱｂ１類とⅡｂ３類の２時期に分けられる。Ⅱｂ２類は、両者の中間に位置付けられる可能性を残

すが、概ねⅡｂ３類と同時期に位置付けておく。これらⅡｂ類は、黄島式終末段階に併行する。Ⅰｂ類は、Ⅱｂ類よりも古手の特徴を有するが、多り畑遺跡における当該資料が、確実にⅡｂ類よりも古いものかは確証がない。Ⅰａ類についても、同様である。

4　多り畑遺跡Ⅱｂ類と黄島式との違い

以上のように、多り畑遺跡の押型文土器の主体（Ⅱｂ類）は、黄島式終末段階に概ね併行する時期に位置付けられる。しかしながら、これらの資料を黄島式と認定するか否かは別の問題である。

黄島式は器壁が５㎜程と比較的薄手で、砂粒の混入はあるものの、混和材などは認められないとされる（兵頭 2008）。一方、多り畑遺跡Ⅱｂ類は、器壁の厚さが７㎜以上のものが主体で、胎土に繊維痕を持つものが認められるなど、典型的な黄島式とは異なる特徴が認められる。また、終末段階の黄島式は楕円文の施文方向が不規則（斜方向）になるが、多り畑遺跡Ⅱｂ類では楕円文の施文方向が縦方向あるいは横方向のものが主体で斜方向のものは少ない。この両者の差異について考えたい。

（1）器壁の厚さ

関西縄文文化研究会による関西地域～東海地域の押型文土器集成（関西縄文文化研究会 2011）に掲載された実測図を基に、口縁部内面に柵状文が施された土器の器壁の厚さを確認・比較した。縮尺が小さいため誤差があると思われるが、奈良県・滋賀県以東の遺跡から出土したものは、厚さ８㎜以上のものが主流であった。厚さ５～６㎜の薄手のものが主体となるのは、これよりも西の地域である。器壁が厚いのは、関西地域東部～東海地域における地域的特徴である可能性が考えられる。

では、愛知県内の資料ではどうか。前述のとおり、多り畑遺跡Ⅱｂ類をはじめ、則定本郷Ｂ遺跡出土の柵状文を有するもの等、愛知県内の黄島式類似資料は器壁の厚さが７㎜を超えるものが多い。また、これよりも古く位置付けられる、あるいはその可能性がある多り畑遺跡Ⅰｂ類や桑和田町北貝戸遺跡第２号竪穴建物跡出土の土器等、外面に楕円文を密接施文し口縁部内面に柵状文を持たないものについても、器壁の厚さが７㎜を超えるものが多く認められる。少なくとも、愛知県では、黄島式終末段階に併行する時期より前から、厚手の土器が主流であったと言える。

（2）繊維痕

愛知県で確認される口縁部内面に柵状文を有する黄島式終末段階に併行する土器には、多り畑遺跡Ⅱｂ２・３類のように胎土に繊維痕が認められるものがある一方、則定本郷Ｂ遺跡のもののように繊維痕が認められないものもある。これよりも古いと考えられる、口縁部が直線的に開き、外面に楕円文が施文され、口縁部内面に柵状文が無い土器はどうか。実見した限り、桑和田町北貝戸遺跡第２号竪穴建物跡出土のものと大根平遺跡出土のものでは、胎土に繊維痕が認められる。黄島式終末段階に併行する時期より前から、胎土に繊維を混ぜて土器を製作していたことが分かる。多り畑遺跡Ⅱｂ２・３類の胎土に繊維痕が見られるのは、それ以前の土器作り技術を受け継いでいるためと考えられる。

（3）楕円文の施文方向

多り畑遺跡Ⅱｂ類では、口縁部から胴部にかけて外面の楕円文の施文方向が縦方向あるいは横方向のものが多く、不規則（斜方向）に施文されるものは少ない。この傾向は、口縁部に柵状文を持たない、桑和田町北貝戸遺跡第２号竪穴建物跡出土のものにも認められる。桑和田町北貝戸遺跡のものは、口縁部から胴部にかけて、縦方向に楕円文を密接施文する。胴部下位では斜方向に施文するが、その角度は水平方向に近く、横方向を指向していると考えられる。愛知県の資料では、黄島式終末段階より前から

縦位・横位の施文方向が保たれていると考えられる。

（4）多り畑遺跡Ⅱb類と黄島式の相違

以上から、多り畑遺跡Ⅱb類に認められる器壁の厚さ・胎土の繊維痕・楕円文の施文方向という黄島式との相違は、Ⅱb類よりも古いと考えられる、口縁部内面に櫛状文を持たない土器にも認められることを確認した。多り畑遺跡Ⅱb類が終末段階の黄島式と異なるのは、それ以前の在地の土器作り技術や技法を受け継いでいるためであると評価できる。

5　おわりに　―多り畑遺跡出土の押型文土器の評価―

多り畑遺跡の押型文土器は、概ね黄島式終末段階に併行し、少なくとも2細分出来る。主体を占めるⅡb類は、口縁部内面の櫛状文が上下2段になるものや幅広で長いものがあり、黄島式終末段階の特徴と類似する。その一方、器壁が7㎜を超えて厚い点、胎土に繊維痕が認められる点、外面に施された楕円文の施文方向が縦位・横位に保たれている点が、黄島式とは異なる。黄島式との相違が見られる背景には、多り畑遺跡Ⅱb類が、黄島式そのものではなく、在地の土器製作技術・技法の多くを受け継いで作られているためと考えられる。その意味では、多り畑遺跡Ⅱb類は、黄島式終末段階に併行する黄島式とは異なる土器型式と評価して良い。

では、多り畑遺跡Ⅱb類を新たな土器型式として設定すべきだろうか。黄島式と異なるという点では、「多り畑式」として型式設定可能にも思われる。しかしながら、愛知県および周辺の類似資料が限られることもあり、土器型式としてのまとまりが不明確である。現時点では、これを新たな土器型式として設定するには材料が乏しいと言える。今後、黄島式をはじめとする、当該期の他の土器型式との差異をより明確にする必要がある。また、口縁部内面の櫛状文が、在地の土器作りの中に取り入れられた経緯を明らかにすることも必要である。このような課題が残るものの、多り畑遺跡Ⅱb類が愛知県下における黄島式終末段階に併行する時期の指標であるのは間違いなく、愛知県における押型文土器の様相を明らかにする上で重要な資料である。

謝　辞

平成27年12月19日に愛知県埋蔵文化財センターで行われた、多り畑遺跡出土遺物検討会では、矢野健一先生、遠部慎氏、熊谷博志氏から資料について多くのご教示を頂いた。設楽町教育委員会、豊田市教育委員会、名古屋市教育委員会には、お忙しい中、資料実見の便宜を図って頂いた。この場を借りて、厚く御礼申し上げる。

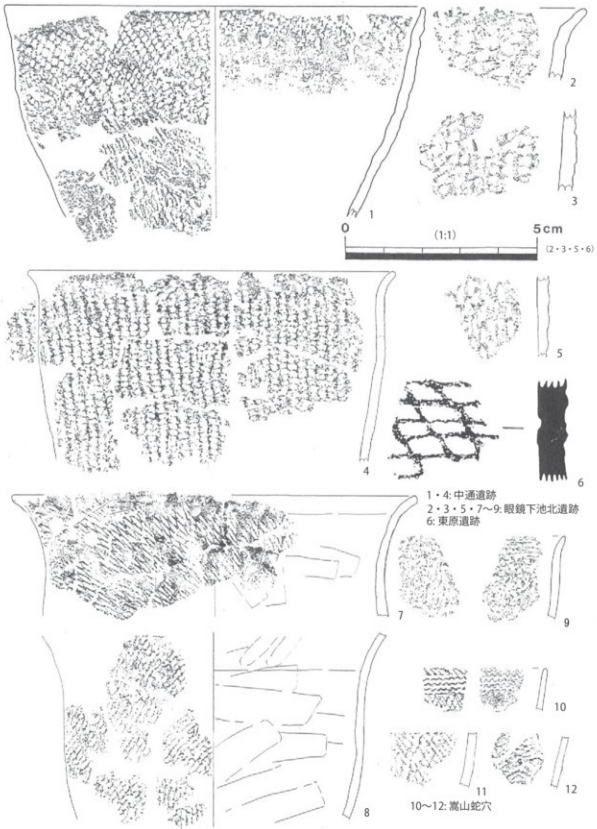
註

1　遺物検討会の際、矢野健一先生よりご教示。
2　註1に同じ。

参考文献

愛知県史編さん委員会編　2002『愛知県史　資料編1　考古1　旧石器・縄文』愛知県
愛知大学考古学研究会　1983『愛知県豊橋市東原遺跡第五次発掘調査概報』
伊藤正人・川合　剛　1993『特別展名古屋の縄文時代　資料集』名古屋市見晴台考古資料館
岩瀬彰利　1993「富山蛇穴遺跡再考」『三河考古』第5号　三河考古学談話会
岩瀬彰利　2008『眼鏡下池北遺跡』（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第96集）豊橋市教育委員会

関西縄文文化研究会　2011『第12回関西縄文文化研究会　押型文土器期の諸相』
久保譲二郎　1991「鳥取県出土の押型紋土器の様相」『鳥取県立博物館研究報告』第28号　鳥取県立博物館
熊谷博志　2011「前半期押型文土器編年の再検討～ネガーポジ移行期の型式変化と地域間関係」『第12回関西縄文文化研究会　押型文土器期の諸相』関西縄文文化研究会
新修豊田市史編さん専門委員会編　2013『新修豊田市史　資料編　考古Ⅰ　旧石器・縄文』豊田市
鈴木昭彦　1995「則定本郷B遺跡1次調査概略」『三河考古』第8号　三河考古学談話会
武田寛生・足立順司・鈴木三男・小川とみ　2012『中通遺跡・寺海土遺跡』（静岡県埋蔵文化財センター調査報告第15集）静岡県埋蔵文化財センター
中嶋　隆　1983『織田井戸遺跡発掘調査報告書』小牧市教育委員会
矢野健一　1997「中四国地方における押型文土器後半期の様相」『シンポジウム押型文と沈線文　本編』長野県考古学会縄文時代（早期）部会
矢野健一　2008「押型文系土器（高山寺式・穂谷式土器）」『総覧　縄文土器』小林達雄編　アム・プロモーション
山下勝年編　1980『先苅貝塚』（南知多町文化財調査報告書第四集）南知多町教育委員会
前田清彦・桑原将人　2009『天井平遺跡』豊川市教育委員会
宮原佑治・池谷信之・岩原　剛・村上　昇・小栗康寛・丸山依美　2013『眼鏡下池北遺跡（VI）・西側北遺跡（III）・西側遺跡（VIII）・東郷遺跡（II）・洗島遺跡（IV）・中郷遺跡（III）』（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第125集）豊橋市教育委員会
村上　昇　2011「押型文土器前半期の併行関係」『第12回関西縄文文化研究会　押型文土器期の諸相』関西縄文文化研究会
村上　昇　2014「愛知県を中心とする草創期末から早期前葉にかけての土器編年」『第10回東海縄文研究会研究会　東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題』東海縄文研究会
村上　昇・綱縄　茂　2011「集成　愛知県」『第12回関西縄文文化研究会　押型文土器期の諸相』関西縄文文化研究会



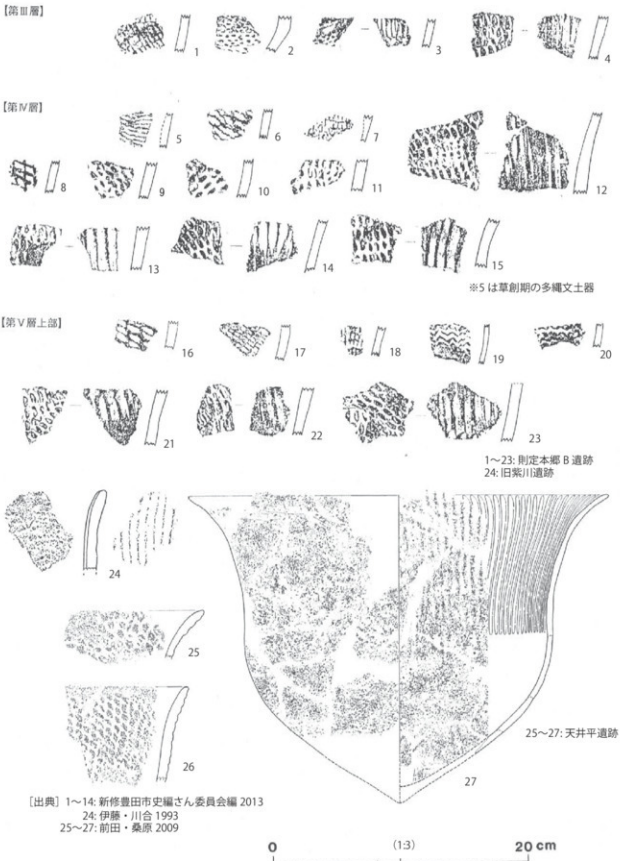
［出典］1・4: 武田ほか 2013　2・3・5 宮原ほか 2013
6: 愛知大学考古学研究会 1983
7～9: 岩瀬 2008　10～12 岩瀬 1993

第1図　早期前半の資料　1:1・1:3

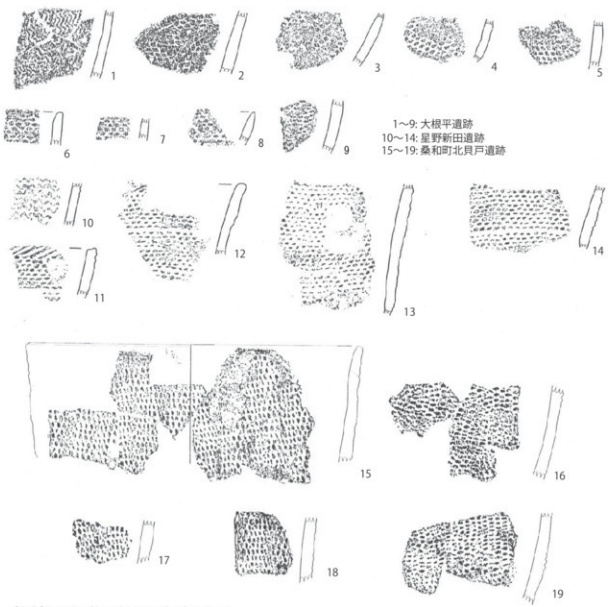
［出典］愛知県史編さん委員会編 2002

0 (1:3) 20cm

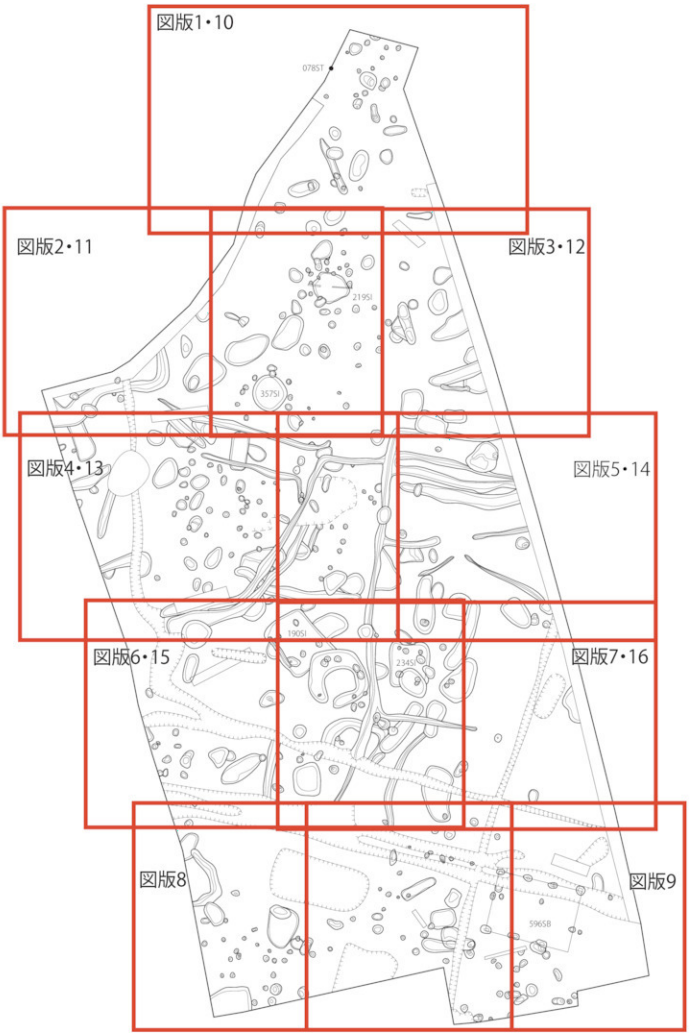
第２図　萩平遺跡出土資料　1:3

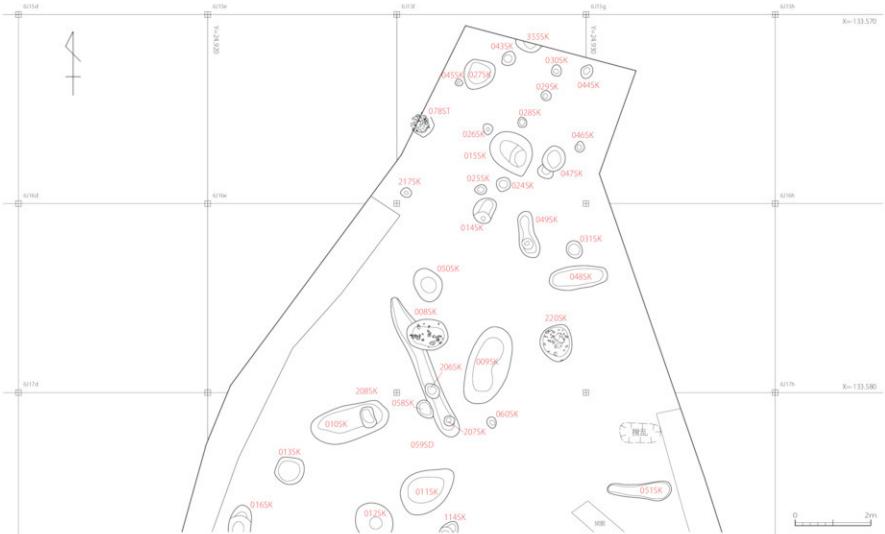


第3図　黄島式終末段階並行～高山寺式期の資料　1:3

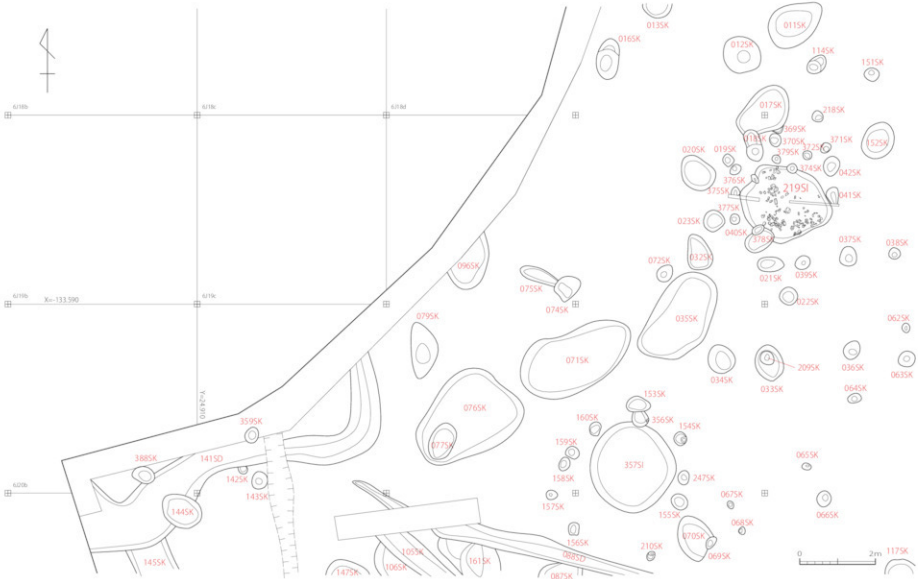


第４図　外面に楕円文を施す資料　1:3


図版1・10
0785T
図版2・11
図版3・12
2195I
3575I
図版4・13
図版5・14
1905I
2345I
図版6・15
図版7・16
図版8
図版9
5965B

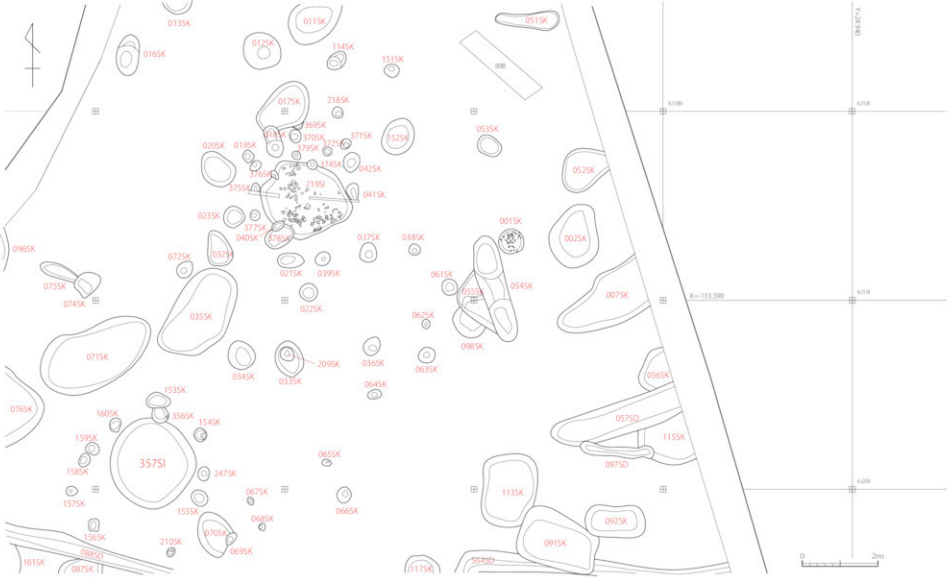

X=133,570
X=133,580
0355K
0435K
0305K
0455K
0275K
0445K
0295K
0285K
0785T
0265K
0465K
0155K
0475K
0255K
0245K
0175K
0145K
0495K
0315K
0505K
0485K
0085K
0205K
0095K
0585K
0605K
0105K
0595D
0135K
0115K
0515K
0165K
0125K
0145K
0
2m

図版　2

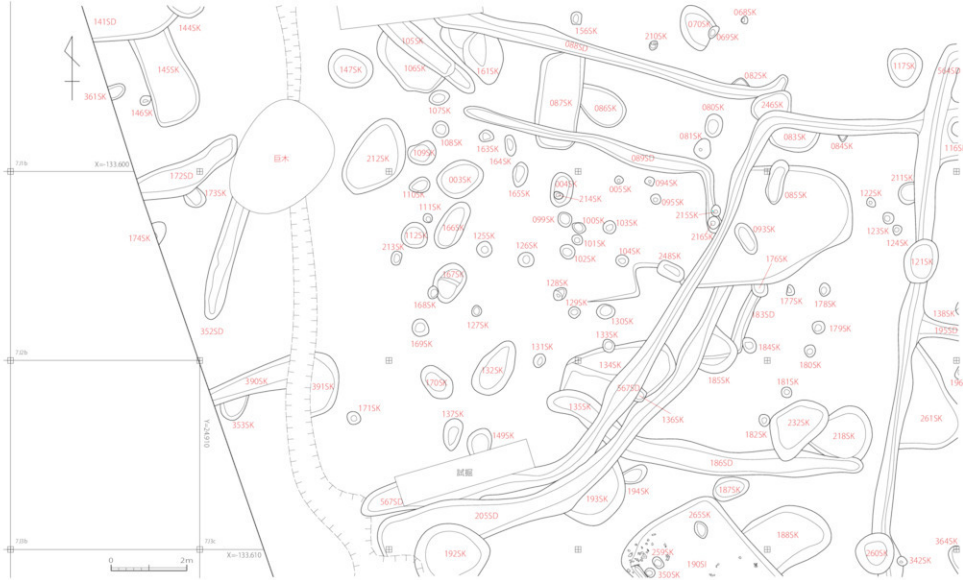


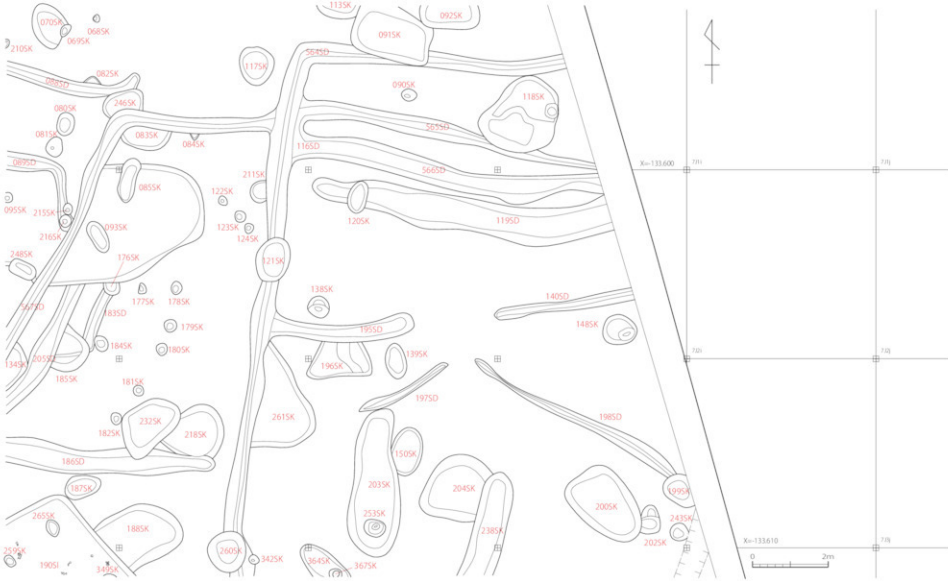
6/18b
6/18c
6/18d
6/19b
X=-133.590
6/19c
Y=24.910
6/20b
0135K
0115K
0165K
0125K
1145K
1515K
0175K
2185K
3695K
3705K
3715K
1525K
0205K
0195K
3795K
3725K
3745K
0425K
3765K
3755K
219SI
0415K
3775K
0235K
0405K
3785K
0375K
0385K
0725K
0325K
0215K
0395K
0965K
0755K
0745K
0225K
0795K
0355K
0625K
0715K
0345K
0335K
2095K
0365K
0635K
0645K
0765K
1535K
1605K
3565K
1545K
3595K
0775K
1595K
3575I
0655K
3885K
1415D
1425K
1585K
2475K
1435K
1575K
0675K
0665K
1445K
1555K
0685K
1565K
0705K
2105K
0695K
1055K
1615K
1455K
1065K
1475K
0885D
0875K
0
2m
1175K

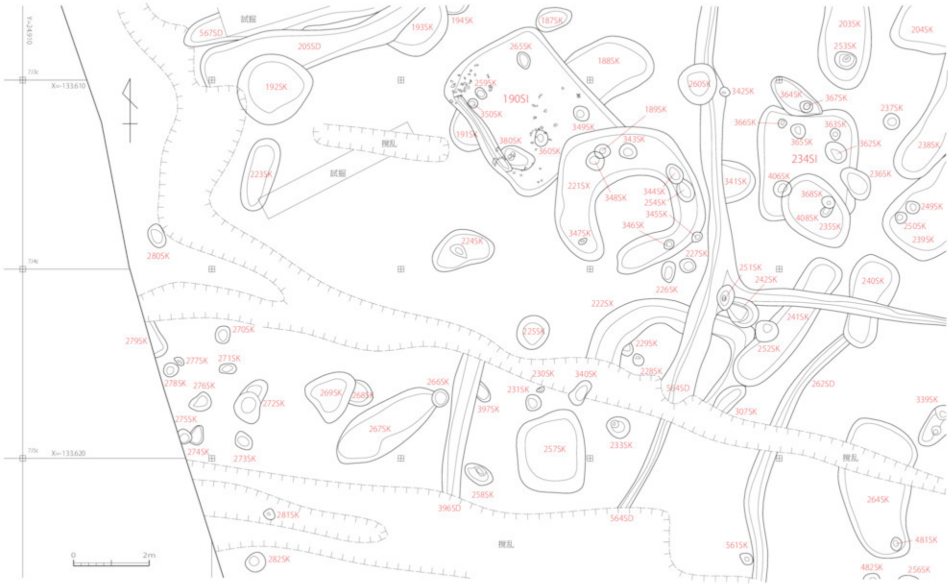
図版　3



013SK
011SK
051SK
016SK
012SK
114SK
151SK
M8
017SK
218SK
369SK
018SK
370SK
371SK
152SK
053SK
020SK
019SK
379SK
372SK
374SK
042SK
376SK
219SI
041SK
375SK
052SK
023SK
377SK
040SK
378SK
001SK
002SK
096SK
072SK
032SK
037SK
038SK
021SK
039SK
061SK
075SK
054SK
055SK
007SK
074SK
022SK
035SK
062SK
098SK
071SK
209SK
036SK
063SK
034SK
033SK
064SK
056SK
153SK
076SK
160SK
356SK
154SK
057SD
115SK
159SK
357SI
065SK
158SK
247SK
097SD
067SK
113SK
157SK
155SK
066SK
068SK
092SK
156SK
070SK
210SK
091SK
069SK
088SD
161SK
087SK
117SK
564SD
6J18h
6J18i
6J19k
6J20i
X=-133.590
Y=24.940
0
2m


1415D
1445K
1455K
3615K
1465K
1725D
1735K
1745K
3525D
3905K
3535K
3915K
1715K
1475K
1065K
1105K
1075K
1085K
1635K
1645K
1655K
1615K
1565K
1105K
1115K
1125K
1135K
1665K
1255K
1265K
1275K
1675K
1685K
1695K
1705K
1315K
1325K
1335K
1345K
1355K
1365K
1375K
1495K
1925K
2055D
5675D
1935K
1945K
2595K
1905K
3505K
1875K
1865D
1885K
2655K
2605K
3425K
3645K
1825K
2325K
2185K
1815K
1855K
1845K
1805K
1795K
1835D
1775K
1785K
1765K
1385K
1395K
1965K
2615K
1215K
1245K
1235K
1225K
1115D
1175K
5645D
1845K
1835K
1825K
1805K
1795K
1785K
1775K
1765K
1755K
1745K
1735K
1725K
1715K
1705K
1695K
1685K
1675K
1665K
1655K
1645K
1635K
1625K
1615K
1605K
1595K
1585K
1575K
1565K
1555K
1545K
1535K
1525K
1515K
1505K
1495K
1485K
1475K
1465K
1455K
1445K
1435K
1425K
1415K
1405K
1395K
1385K
1375K
1365K
1355K
1345K
1335K
1325K
1315K
1305K
1295K
1285K
1275K
1265K
1255K
1245K
1235K
1225K
1215K
1205K
1195K
1185K
1175K
1165K
1155K
1145K
1135K
1125K
1115K
1105K
1095K
1085K
1075K
1065K
1055K
1045K
1035K
1025K
1015K
1005K
995K
985K
975K
965K
955K
945K
935K
925K
915K
905K
895K
885K
875K
865K
855K
845K
835K
825K
815K
805K
795K
785K
775K
765K
755K
745K
735K
725K
715K
705K
695K
685K
675K
665K
655K
645K
635K
625K
615K
605K
595K
585K
575K
565K
555K
545K
535K
525K
515K
505K
495K
485K
475K
465K
455K
445K
435K
425K
415K
405K
395K
385K
375K
365K
355K
345K
335K
325K
315K
305K
295K
285K
275K
265K
255K
245K
235K
225K
215K
205K
195K
185K
175K
165K
155K
145K
135K
125K
115K
105K
95K
85K
75K
65K
55K
45K
35K
25K
15K
5K
1K
7J/1k
7J/2k
7J/3k
X=-133.600
X=-133.610
Y=24910
0
2m
日本
試掘

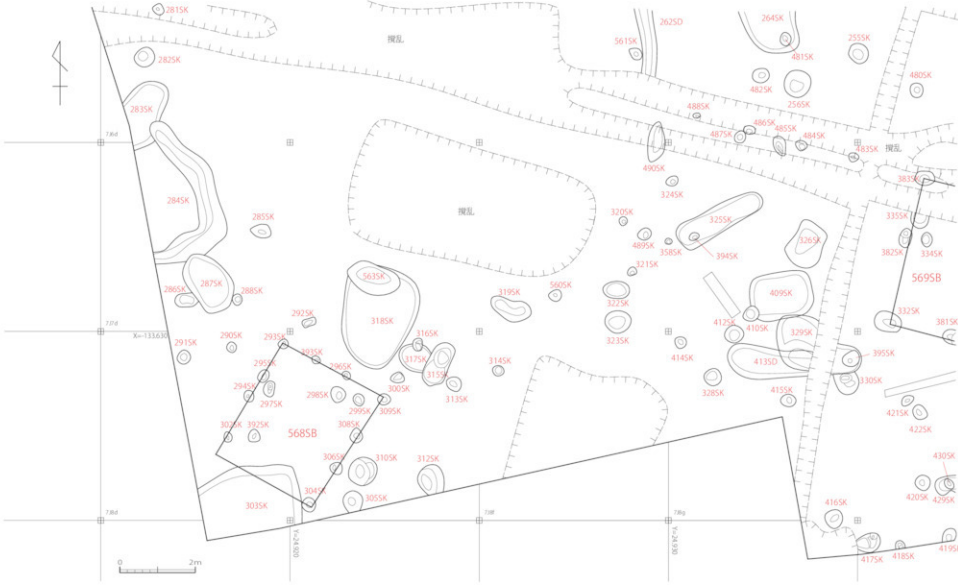

X=133,600
X=133,610
0
2m


Y=24.910
7J3c
X=-133.610
7J4c
7J5c
X=-133.620
0
2m
試掘
567SD
205SD
193SK
194SK
187SK
265SK
188SK
192SK
259SK
190SI
350SK
191SK
380SK
360SK
349SK
189SK
343SK
221SX
348SK
344SK
254SK
345SK
346SK
347SK
227SK
226SK
攪乱
223SK
224SK
280SK
222SX
225SK
260SK
342SK
341SK
366SK
364SK
367SK
365SK
363SK
362SK
234SI
406SK
368SK
408SK
235SK
236SK
203SK
253SK
237SK
204SK
238SK
249SK
250SK
239SK
251SK
242SK
240SK
241SK
252SK
229SK
228SK
564SD
262SD
307SK
339SK
279SK
270SK
277SK
271SK
278SK
276SK
272SK
275SK
274SK
273SK
269SK
268SK
266SK
267SK
397SK
230SK
231SK
340SK
257SK
233SK
258SK
396SD
281SK
282SK
264SK
481SK
561SK
482SK
256SK

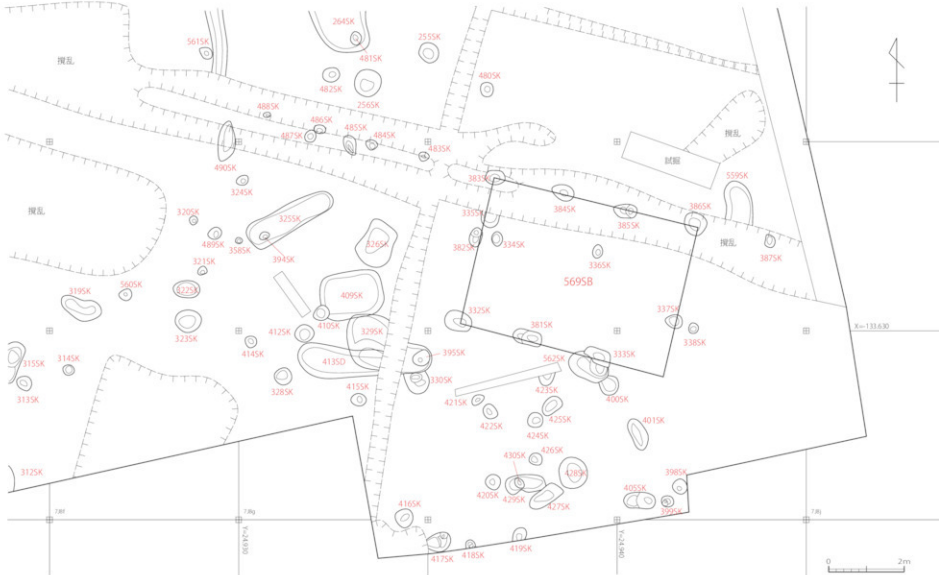
図版　7

187SK
265SK
188SK
259SK
190SI
189SK
349SK
380SK
360SK
343SK
221SK
348SK
344SK
254SK
345SK
347SK
346SK
224SK
227SK
226SK
222SK
225SK
229SK
228SK
230SK
340SK
231SK
397SK
257SK
233SK
258SK
564SD
260SK
342SK
341SK
364SK
367SK
366SK
363SK
365SK
362SK
234SI
406SK
368SK
408SK
235SK
203SK
253SK
204SK
237SK
238SK
236SK
239SK
249SK
250SK
251SK
242SK
240SK
241SK
252SK
262SD
307SK
339SK
264SK
561SK
482SK
481SK
256SK
255SK
244SK
245SK
200SK
199SK
243SK
202SK
354SK
X=133.610
X=133.620
7月
7月
7月
撹乱
撹乱
撹乱
0
2m

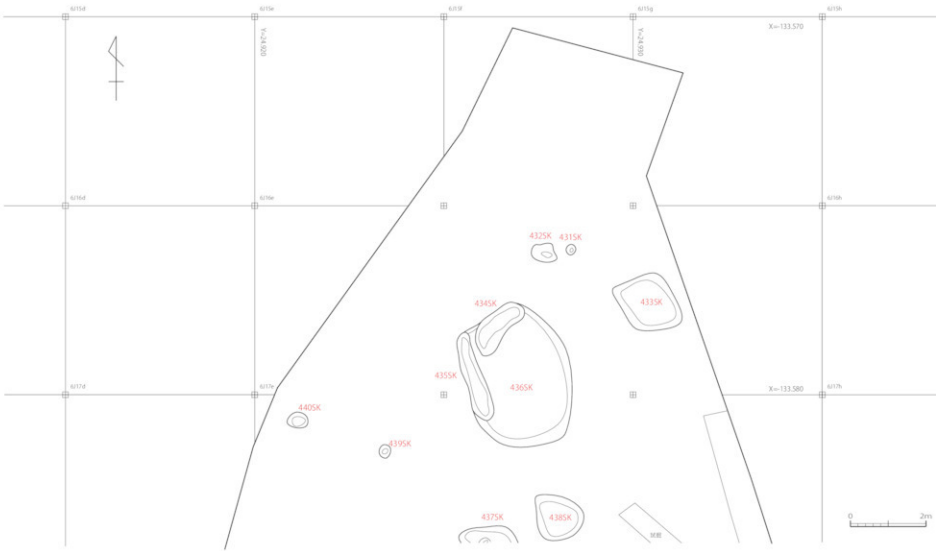
図版　8

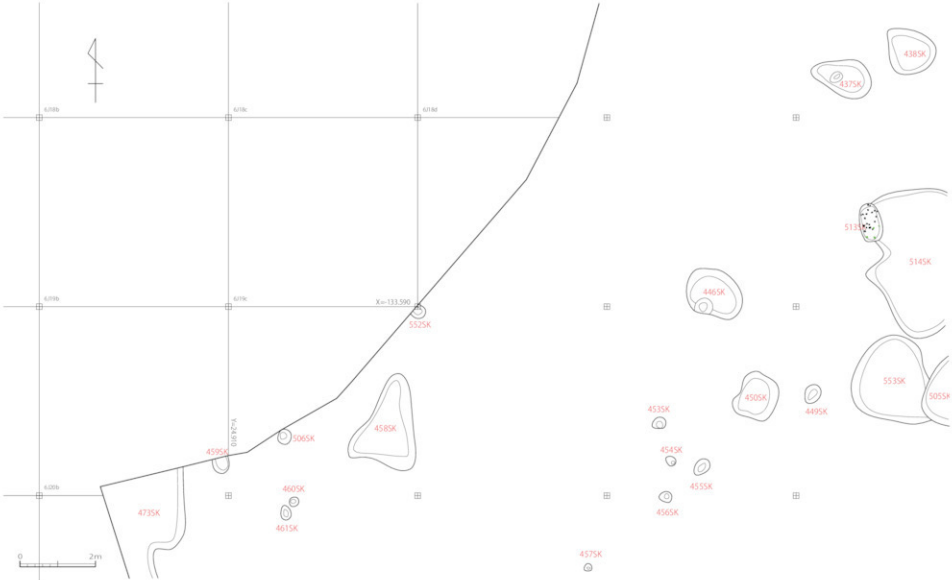


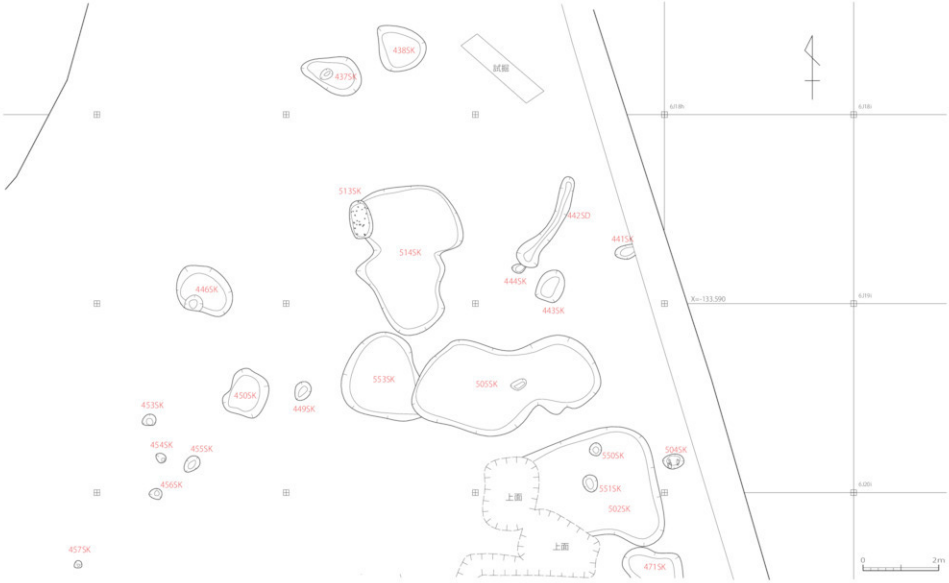
図版　9

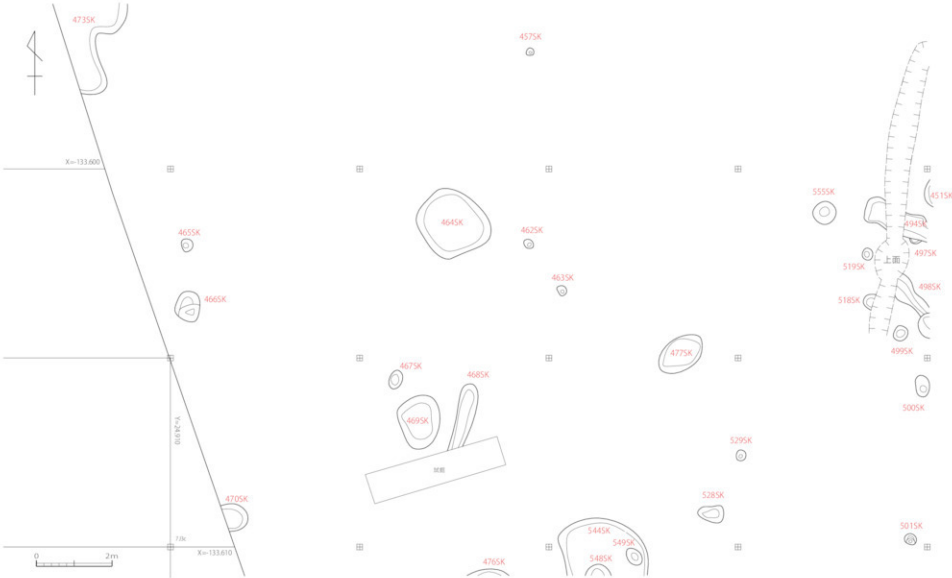


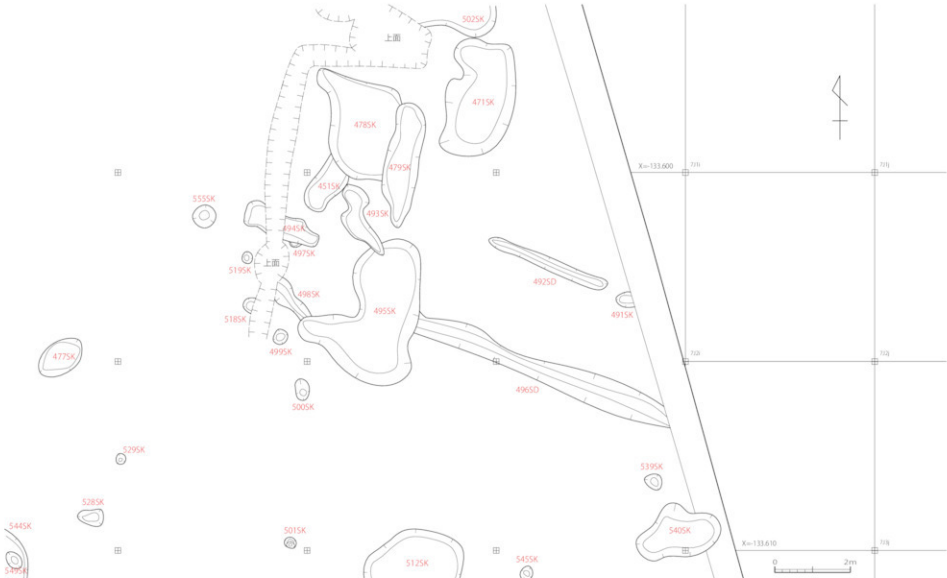
撹乱
5615K
2645K
2555K
4815K
4825K
2565K
4805K
4885K
4865K
4855K
4845K
4875K
4835K
4905K
3245K
3835K
3845K
3855K
3865K
3875K
5595K
3205K
3255K
3355K
3825K
3345K
3365K
3895K
3215K
3265K
3195K
5605K
3225K
4095K
5695B
3325K
3375K
3235K
4105K
3295K
3815K
3385K
4125K
4145K
4135D
3955K
3335K
3145K
3155K
3135K
3285K
4155K
3305K
5625K
4215K
4235K
4005K
4225K
4255K
4245K
4015K
4305K
4265K
4285K
3985K
4205K
4295K
4275K
4055K
3995K
4165K
4175K
4185K
4195K
3125K
7Jif
7Jig
7Jij
Y=24.930
Y=24.940
X=133.630
0
2m


6J15d
6J15e
6J15f
6J15g
6J15h
Y=24,920
Y=24,900
X=-133,570
6J16d
6J16e
6J16h
4325K
4315K
4345K
4335K
4355K
4365K
6J17d
6J17e
6J17h
X=-133,580
4405K
4395K
4375K
4385K
0
2m

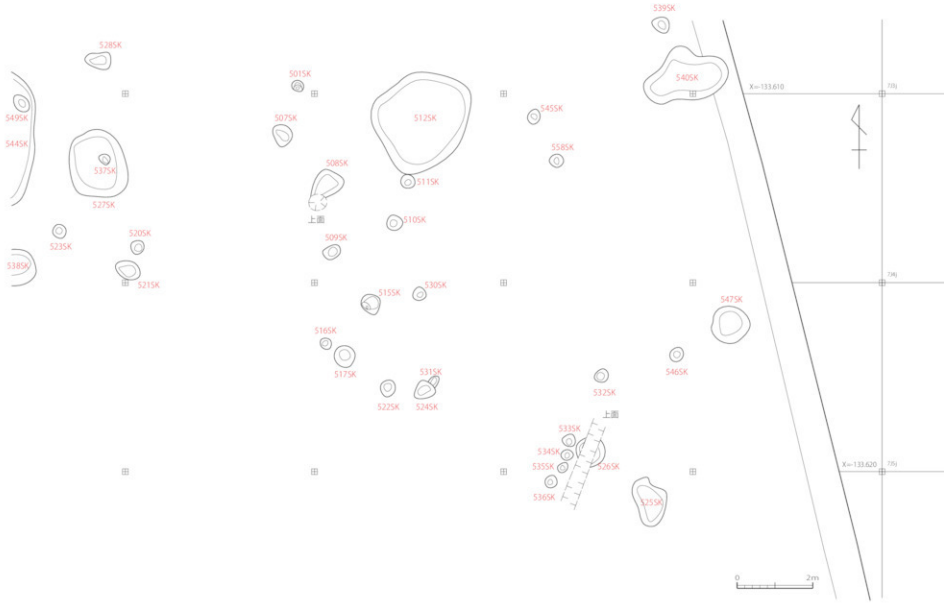

6/18b
6/18c
6/18d
6/19b
6/19c
6/20b
X=-133.590
Y=24.910
552SK
458SK
506SK
459SK
460SK
461SK
473SK
0
2m
438SK
437SK
513SK
514SK
446SK
553SK
505SK
450SK
449SK
453SK
454SK
455SK
456SK
457SK


4385K
4375K
試掘
5135K
5145K
4425D
4415K
4445K
4435K
4465K
4505K
4495K
5535K
5055K
4535K
4545K
4555K
4565K
4575K
5505K
5045K
5515K
5025K
上面
上面
4715K
X=-133,590
6,118
6,119
6,120
0
2m


4735K
X=-133.600
4655K
4665K
Y=24.970
4705K
7.0k
X=-133.610
0
2m
4575K
4645K
4625K
4635K
4675K
4685K
4695K
4775K
5295K
5285K
5445K
5495K
5485K
4765K
5555K
4515K
4945K
4975K
上面
5195K
4985K
5185K
4995K
5005K
5015K


上面
5025K
4715K
4785K
4795K
4515K
4935K
5555K
4945K
4975K
上面
5195K
4985K
4925D
4915K
5185K
4955K
4995K
4775K
5005K
4965D
529SK
539SK
528SK
544SK
501SK
540SK
512SK
545SK
X=-133,600
X=-133,610
0
2m

Y=24910
470SK
7J3c
X=-133.610
7J4c
7J5c
X=-133.620
0
2m
加熱
加熱
476SK
475SK
548SK
549SK
544SK
538SK
557SK
528SK
537SK
527SK
523SK
520SK
521SK
501SK
507SK
508SK
上面
509SK
512SK
511SK
510SK
515SK
530SK
516SK
517SK
522SK
531SK
524SK

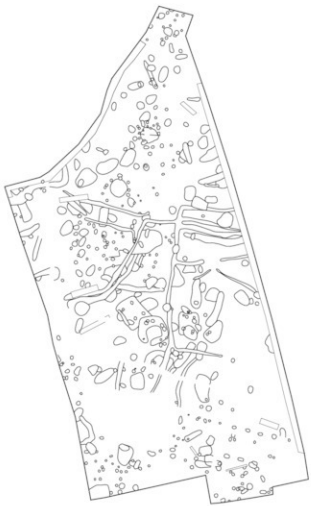

5395K
5285K
5015K
5405K
X=-133.610
7/3j
5495K
5075K
5125K
5455K
5445K
5585K
5375K
5085K
5115K
5275K
上面
5105K
5205K
5235K
5095K
5385K
5215K
7/4j
5155K
5305K
5475K
5165K
5175K
5315K
5465K
5325K
5225K
5245K
上面
5335K
5345K
5355K
5265K
X=-133.620
7/5j
5365K
5255K
0
2m

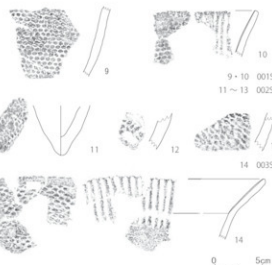
要　約

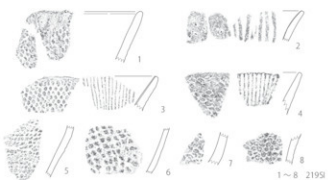
多り畑遺跡は豊橋市石巻町字札辻に位置する。地形的には、豊川の支流となる神田川の段丘上に位置している。調査区の標高は 28.5m となる。調査は平成 21 年に実施し、面積は 1440 ㎡である。

調査の結果、縄文時代早期、弥生時代後期から古墳時代、中世の遺構を確認した。

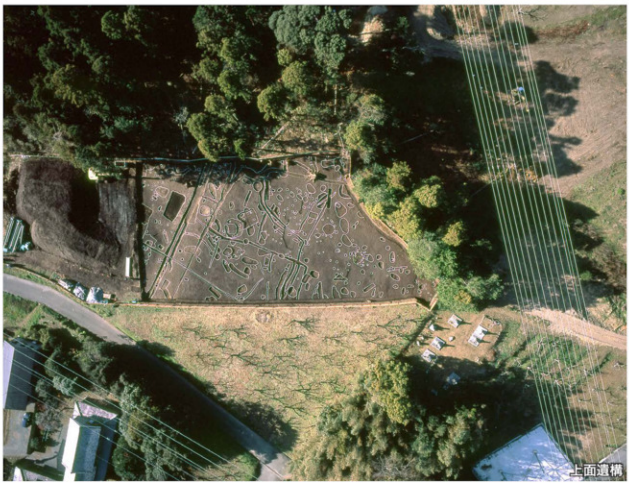
このうち、縄文時代早期の遺構は調査区の北側直径 30m 程度の範囲に分布する。219SI・357SI はやや小規模となるが当該期の竪穴建物の可能性を持つ。





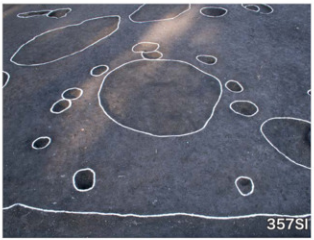


遺跡遠景（南から）


上面遺構

下面遺構

219SI

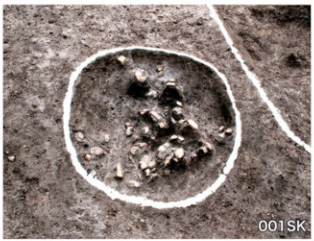

357SI

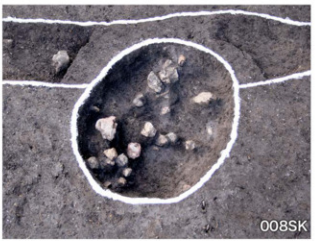
190SI

569SB

219SI 周辺

写真図版４　土坑など


001SK


008SK

220SK

513SK

078ST-1

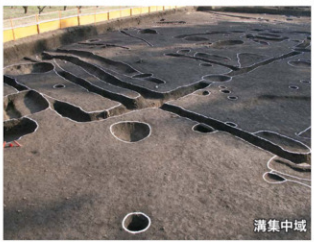
078ST-3

078ST-2

078ST-4

245SK

401SK


溝集中域

001SK 出土状況

003SK 出土状況

001SK 出土状況

64 出土状況

190SI 出土状況

1

13

17表

17裏

14

19

25表

25裏

34 表

34 裏

31

38

39 表

39 裏

43 表

43 裏

45

46

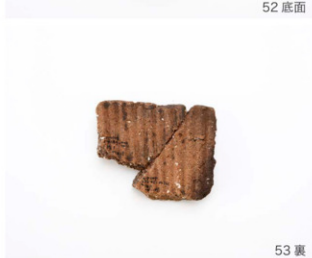
48

52 側面

49

52 底面

53 表


53 裏

54 表

54 裏

55 表

55 裏

57 表

57 裏

61 表

61 裏

64 表

64 裏

65 表

65 裏

66

70

77

78

80

81

82

83

85

86

88

89

91

96

97

112

115

121

124

125

126

132

142

143

144

145

146

147

152

155

157

159

163

164

171

172

167

168

170

176

179

209

186

194

198

200

262

210

213

217

220

221

222

239

241

242

243

254

255

256

248 内面

249 内面

251 内面

248 外面

249 外面

251 外面

報告書抄録

ふりがな	たりばたいせき
書　　名	多り畑遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第202集
編著者名	池本正明、村上昇、株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL0567(67)4161
発行年月日	西暦 2016年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
たりばたいせき 多り畑跡	あいちけん　とよはしし 愛知県豊橋市 いしまきほんまち 石巻本町	232010	790326	34度 47分 43秒	137度 26分 19秒	2010.5 2010.10～ 2011.02	100 1,440	道路改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
多り畑遺跡	集落	縄文時代 ～ 江戸時代	竪穴建物、掘立柱建物、 土器棺墓、土坑、溝等	縄文土器、石器 弥生土器、土師器 中・近世陶磁器、	

文書番号	発掘届出(21埋セ8 21.4.4・21埋セ44 21.8.4)　通知(21教生118 21.4.13・21教生1060 21.8.14) 終了届・保管証・発見届　(21埋セ26 21.5.20・21埋セ120 23.3.10) 鑑定結果通知(21豊美172 21.7.7・21豊美576 22.3.9)

要約

調査の結果、縄文時代早期、弥生時代後期から古墳時代、中世の遺構を確認した。
このうち、縄文時代早期の遺構は調査区の北側直径30m程度の範囲分布する。219SI・357SIはやや小規模となるが当該期の竪穴建物の可能性を持つ。

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第206集

多り畑遺跡

2016年3月31日

発行　公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷　サンメッセ株式会社